

年表 愛知医科大学の歴史

1970～2006

典拠名表

「42.9認可申請書 控」	「昭和四十二年九月 寄附行為変更認可申請書 控 兩國学園」
「45.9認可申請書」	「昭和四十五年九月三十日 学校法人寄附行為変更認可申請書 学校法人兩國学園」
「46.10認可申請書」	「変更認可申請書 昭和46年10月25日 両国学園（愛知医科大学）」
47-1	昭和47年度規則第1号【本法規規程、以下同】
飯田「報告書」	飯田治 昭和46年六月十七日 重富克美宛「報告書」
岩波『年表』	岩波『近代日本総合年表』第4版
岩波『理化学』	岩波『理化学辞典』第4版
「被済会病院三十年史」	「名古屋被済会病院三十年史」
太田『回顧録』	太田元次『戰前派病院長の回顧録』
太田『統・回顧録』	太田元次『戦後統一統・戰前派病院長の回顧録』
大野『愛知一中』下	大野一英『愛知一中物語』下
『学立』	「學園広報」第 号
『看護学校』	「愛知医科大学看護専門学校 創立十周年記念誌」
『幹部会』	年度「幹部会」第 回
『教説』	年度「教説会議事録」第 回
『厚生』『年表』	「厚生省三十年史 資料編」[年表]
『国史』	「国史大辞典」卷数
『三十年史 通史』	「愛知医科大学三十年史 通史」
『三十年史 部局史』	「愛知医科大学三十年史 部局史」
『滋賀医大十周年』	滋賀医科大学「開学十周年記念誌」
「重上」	太田元次「重富事件に関する上申書」(47「理説」の内)
『設立』	「大学設置広報」第 号
『大立』	「大学広報」第 号
『内科』『年表』	「日本内科学会雑誌」Vol. 91, No.1 「年表」(別刷2002)
中村『昭和史』II	中村隆英『昭和史』II
「西丸」	西丸四方「大學創設の頃の精神医学教室」(「大原寅教授追悼文集」)
「二十年史」	「躍進する愛知医科大学 創立二十周年記念誌」
『病立』	「病院広報」第 号
『病通』	「病院通報」No.
『法通』	「法人通報 愛知医科大学」第 号
増田『旧恩』	増田繁夫「旧恩日記」
増田『共7』	増田繁夫「共にすごした7年—私達の愛知医大史」
『名市史』『年表』	「新修 名古屋市史」第10巻「年表」
『理説』	年度「理事会議事録」第 回

年 表 S.3

国内外事情・医学(療)行政	学校法人(行政・組織)
大正2(1913)年	
総理 山本權兵衛(大2.2.20～3.4.16、12.9.2～13.1.7)	太田元次、父太田朝次と母ちせの第1子として名古屋市西区豊三ツ郷町に生誕。(太田『回顧録』37～42p)(太田『統・回顧録』158p)
大正7(1918)年	
7.12.6 大学令公布。(『国史』8 705p)	
大正15・昭和元(1926)年	
総理 若槻禮次郎(大15.1.30～昭2.4.17)	太田元次、愛知県立第一中学校(愛知一中)入学。剣道部へも入部。(太田『回顧録』49, 77p)
昭和5(1930)年	
総理 濱口雄幸(昭4.7.2～6.4.14) 5. ラントシュタイナー(喫、ヒト血液型の発見でノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』「年表」35p)	昭5.6.13 愛知一中5年生150余名は教員人事を不満とし、太田元次らを首謀者として安楽寺に立て籠もりストライキ決行。同日夜、首謀者太田ら2名は論旨退学生に処せられた。太田は退学直後、大腸炎を病む。(太田『回顧録』85～88p)(大野『愛知一中』下93～99p) 5.9月 太田元次は叔父江口季雄宅へ転じ平安中学校(京都市)へ編入。(太田『回顧録』101p)
昭和6(1931)年	
6.4.30 愛知医科大学(県立)が官立(國立)移管し、名古屋医科大学設置(開学は5.1)。(岩波『年表』287p)	6.4月 太田元次、第三高等学校(理科乙類)入学。(太田『回顧録』102p)
6.9.18 関東軍參謀ら柳条湖で満鉄爆破(満州事変)。(岩波『年表』288p)	
6. ワールブルク(独)呼吸酵素の発見でノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』「年表」35p)	
昭和8(1933)年	
モーガン(米) 染色体遺伝機能の発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』「年表」37p)	
8.1.30 ヒトラー、独首相に就任。(岩波『年表』295p)	
昭和9(1934)年	
総理 斎藤實(昭7.5.26～9.7.8)	9.4月 太田元次、名古屋医科大学入学。(太田『回顧録』136p)

建設・整備	教育	診療
	 <p>愛知一中の五年生 新規開設の體験 全員がおなじく 選手の解説</p> <p>昭和6年 愛知一中の五年生 新規開設の體験 全員がおなじく 選手の解説</p>	

国内外事情・医学（療）行政

学校法人（行政・組織）

昭和11（1936）年

総理 廣田弘毅（昭11.3.9～12.2）
11.2.26 皇道派青年将校国家改造を要求して決起、齋藤實内大臣、高橋是蔵相等殺害（2.26事件）。（岩波『年表』306p）
11.7.17 スペイン内乱。（岩波『年表』307p）

昭和12（1937）年

総理 近衛文麿（昭12.6.4～14.1.5、15.7.22～16.10.18）
12.7.7 鹿溝橋で日中両軍衝突（日中戦争が拡大）。（岩波『年表』310p）
12. セント・ジル・ジーハンガリー、生物学の燃焼の発見でノーベル生理学・医学賞受賞。（内閣『年表』41p）

昭和13（1938）年

13. フェルミ（伊）中性子による人工放射能の研究でノーベル物理学賞受賞。（岩波『理化学』1846p）

昭和14（1939）年

14.3.31 名古屋帝国大学を設置（勅）（名古屋医科大学を医学部とし、理工学部を新設、14.4.1施行）。（岩波『年表』319p）
14. ドーマク（独）プロントジルの抗菌効果でノーベル生理学・医学賞受賞（ただし辞退）。（山口幸天『新版20世紀理科年表』85p）

昭和15（1940）年

総理 米内光政（昭15.1.16～15.7.22）
15.3.30 中華民国南京国民政府成立（主席汪兆銘）。（岩波『年表』323p）
15.9.27 日独伊三国同盟調印。（岩波『年表』324p）

S. 6

建設・整備 教育 診療

建設・整備

教育

診療



（太田『統・戦前済病院長の回顧録』156p）

年表 S. 7

国内外事情・医学（療）行政

学校法人（行政・組織）

昭和16（1941）年

総理 東條英機（昭16.10.18～19.7.22）
16.12.8 日本、米英に宣戦布告。（岩波『年表』328p）

昭和19（1944）年

総理 小磯國昭（昭19.7.22～20.4.7）
19.3.3 汪兆銘、狙撃の後遺症が悪化し、東條英機総理の命により名古屋大学部附属医院に空路緊急入院。（『三十年史 通史』14p）

19.7.7 サイパン島の守備隊41,200名余全員玉砕。日本の敗色益々濃厚。（『中日太平洋戦争』1 508p）

19.11.10 名古屋帝国大学医学部附属医院にて汪兆銘客死。（『三十年史 通史』17p）

19.12.7 東南海地震（M7.9）（岩波『年表』340p）

19.12.13 名古屋市B29による初空襲。（『名市史』『年表』197p）

19. ハーン（米）原子核分裂の発見によりノーベル化学賞受賞。（岩波『理化学』1846p）

昭和20（1945）年

総理 鈴木貫太郎（昭20.4.7～20.8.17）
 東久邇宮稔彦王（昭20.8.17～20.10.9）
20.1.13 東海地方に大地震（三河地震）。（岩波『年表』342p）

20.3.26 名古屋市B29の夜間空襲で第八高等学校、名古屋帝国大学医学部被災。（『名市史』『年表』197p）

20.5.14 名古屋市東部市街地へ大空襲（B29、480機実爆、名古屋城焼失）。（『名市史』『年表』197p）

20.6.9 名古屋市熱田大空襲（死者2,000人）。（『名市史』『年表』197p）

20.8.6 米、広島に原子弹爆弾投下。8.9長崎に原子弹爆弾投下。（岩波『年表』

南京国民政府主席汪兆銘
 （太田元次軍医の汪兆銘看護日誌抄』口絵）

建設・整備 教育 診療

建設・整備

教育

診療



記者会見で汪兆銘逝去のメモを読む名古屋帝国大学医学部附属医院山元昌之事務長心得（当時）、後列右端が太田元次軍医、前列右より二人目が勝沼敬蔵附属医院長、三人目が齋藤眞第一外科教授。（『写真集 名古屋大学の歴史』86p）

S. 8

年表 S. 9

国内外事情・医学（療）行政

学校法人（行政・組織）

344p)
20.8.14 日本ボツダム宣言受諾。
20.8.15 「終戦」の詔勅放送。（岩波『年表』344p）
 以後4年程、超インフレ継続。（中村『昭和史』II 426～427p）

20. フレミング（英）ら、ベニシリソの発見でノーベル生理学・医学賞受賞。（内科『年表』49p）

昭和21（1946）年

総理 幸原喜重郎（昭20.10.9～21.5.22）
21.3.2 （～昭23.7）2.17の金融緊急措置令により預金封鎖。（岩波『年表』350p）
21.5.6 医学教育審議会、医師実地修練制度（インターン制度）ならびに国家試験制度決定。（岩波『年表』353p）
21.11.3 日本国憲法公布（施行22.5.3）。（岩波『年表』356p）

昭和22（1947）年

総理 吉田茂（昭21.5.22～22.5.24）片山哲（昭22.5.24～23.3.10）
22.1.31 全官公序労組による2.1ゼネ・ストライキ連合軍最高司令官マッカーサーの命により中止。（岩波『年表』358p）
22.3.31 教育基本法、学校教育法公布。（岩波『年表』359p）
22.4.1 6・3制教育開始。（岩波『年表』359p）
22. コリ夫妻（米）、グリコーゲン代謝の研究でノーベル生理学・医学賞受賞。（内科『年表』51p）

昭和23（1948）年

総理 芦田均（昭和23.3.10～23.10.15）、吉田茂（昭23.10.15～29.12.10）
23.4.1 新制高等学校発足。（岩波『年表』365p）
23.5.25 大学基準協会、医学教育に関する基準およびその実施方法決

建設・整備

教 育

診 療

21.1.1 太田元次、名古屋帝国大学大学院特別研究生として齋藤外科に帰局（多発性骨髄腫の症例を研究し1年後学位論文に纏める）。（三十三年史 通史』17～18p）

国内外事情・医学（療）行政

学校法人（行政・組織）

定。（大学関係事務提要』I 439・24p）
23.7.30 医療法、医師法公布。（岩波『年表』366p）保健輔助産婦看護婦法公布。（厚生『年表』210p）
23.11.1 名古屋被済会病院開院式挙行。開院時、内科、外科の2科。病床30床、スタッフ20名。（被済会病院三十年史』14p）

昭和24（1949）年

24.5.31 国立学校設置法公布。（岩波『年表』371p）
24.6.1 上記法公布により新制国立大学69校発足。
24.11.31 湯川秀樹、中間子論でノーベル物理学賞受賞。（岩波『年表』375p）
24.12.15 私立学校法公布。（岩波『年表』375p）

昭和25（1950）年

25.6.25 朝鮮戦争勃発、特需景気を切っ掛けに戦後の超インフレ収束。（岩波『年表』379～380p）
25. ケンドゥル（米）ら、副腎皮質ホルモンの発見でノーベル生理学・医学賞受賞。（内科『年表』55p）

昭和26（1951）年

26.6.22 大学入学資格検定規程公布。（大学関係事務提要』I 659・13p）
26.8.10 保健輔助産婦看護婦学校養成所指定規則公布。（三十三年史 通史』154p）

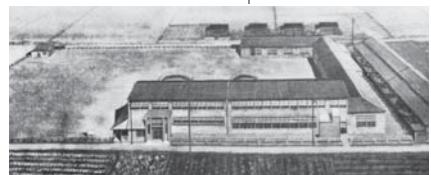
昭和27（1952）年

GHQの指導によって医学専門部、医学専門学校制が廃された（昭和25年度）結果、昭和27年時、医科大学（医学部）は国立21、公立12、私立13校、1学年定員は1万人から3千人に減少。（国史』8 493p）（三十三年史 通史』29p）
27. ウクスマント（米）、ストレプトマ

建設・整備

教 育

診 療



太田が病院長として開院した名古屋被済会病院。（名古屋被済会病院三十年史』48p）

国内外事情・医学(療)行政	学校法人(行政・組織)	建設・整備	教育	診療
イシンの発見でノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』「年表」57p)				
昭和28(1953)年				
28.8.21 私立学校教職員共済法公布。(『私学必携』第12次改訂版 2440p)				
昭和29(1954)年				
29.3.31 学校教育法一部改正(医学、歯学の修業年限を6年に)。(『大学関係事務要』I 98~99p)				
昭和30(1955)年				
総理 堀山一郎(昭29.12.10 ~ 31.12.23) 石橋湛山(昭31.12.23 ~ 32.2.25) 神武景気時代に入り、この頃までに太田元次は病院の増築を繰り返し、被済会病院は6診療科、病床150床までに成長。(『被済会病院三十年史』16p)				
30. テオレル(スウェーデン)酸化酵素の研究でノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』「年表」61p)				
昭和31(1956)年				
31.4.1 医薬分業実施。(『内科』「年表」61p)				
31.10.19 日本、ソビエト連邦と国交回復。(岩波『年表』414p)				
31.10.22 大学設置基準公布。(『大学設置審査要綱』37p)				
昭和32(1957)年				
総理 岸信介(昭32.2.25 ~ 35.7.19) 32.5月 重富克美、名古屋市守山区に香流病院を開院。(『三十年史 通史』56p)	32.4.1 太田元次、愛知県医師会理事(~37.3.31)就任。(太田『続・回顧録』160p)			
昭和33(1958)年				
33.4.10 学校保健法公布。(『厚生』「年表」127p)				
S.14				
				年 表 S.15

国内外事情・医学(療)行政	学校法人(行政・組織)	建設・整備	教育	診療
33. サンガー(英)インスリンの構造決定によりノーベル化学賞受賞。(岩波『理化学』1487p)				
昭和34(1959)年				
岩戸景気時代。				
34.6.27 大学院基準協会、医学に関する大学院基準制定。(『大学関係事務要』I 449~23p)				
34.9.26 伊勢湾台風により名古屋市等、53%浸水、死者・行方不明者5千人余。被災者救援により被済会病院の評価一時に高まる。(『被済会病院三十年史』224~227p)	34.12月 太田元次は運輸大臣、名古屋市長、愛知県知事から伊勢湾台風被災者に対する被済会病院挙げての救助・医療活動(被災者への病院開放、急造ドラム缶筏による巡回診療等々)で、相次いで表彰状、感謝状を授与される。(『被済会病院三十年史』230p)			
34. オチャヨ(米)、コンバーバグ(米)、RNA、DNAの生合成機構の解明でノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』「年表」65p)				
昭和35(1960)年				
総理 池田勇人(昭35.7.10 ~ 39.11.9) 以後日本経済は10年程高度成長期。この頃被済会病院の病床数210床。(『三十年史 通史』22p)	35.3.8 太田元次は、内閣総理大臣から伊勢湾台風被災者に対する被済会病院の救助・医療活動により表彰状を授与される。(『被済会病院三十年史』230p)			
35.5.20 新安保条約・協定を国会採決。(岩波『年表』428p)				
35.8.10 薬事法公布。(『厚生』「年表」1284p)				
昭和36(1961)年				
36.4.1 改正国民健康保険実施、国民皆保険体制樹立。(厚生省医務局『医制百年史 資料編』735p)(公布33.12.27)				
36.6月 不老会(献体団体)発足。(不老会ホームページ)				
36. フォン・ベケシー(ハンガリー)、内耳の研究でノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』「年表」67p)				
昭和37(1962)年				
37.4.1 太田元次、愛知県医師会副会長(~42.6.12)就任。(太田『続・回顧録』161p)				
S.16				
				年 表 S.17

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）
37. ワツソン（米）、クリック（英）、 ワイルキンズ（英）、核酸の分子構 造と遺伝情報伝達における意義の 発見によりノーベル生物学・医学賞 受賞。（内閣府「年表」67p）	
昭和38（1963）年	
38.12.28 学校法人飯田学園弥富高等学校、設置認可。理事長兼校長は飯 田信治（名帝大医学部勝沼内科在籍、 昭和23年名古屋市朝日区瀬戸子・飯田病 院開院）。（42.9認可申請書 拡）	
昭和39（1964）年	
総理 佐藤栄作（昭39.11.9～47.7.7） 以後数年、伊豆諸景気時代、この年経 済成長率実質12.5%。（中村昭和史』 II 543、549p）	
39.4.1 飯田信治、弥富町所有の鍋田 中等学校（新制 跡跡に弥富高等学校 開校）。（42.9認可申請書 拡）	39.4.1 太田元次、日本医師会理事（～41.3.31）就任。（太田『続・回顧録』 161p）
39.10.1 東京～新大阪間東海道新幹 線開業。（岩波『年表』448p）	39.8月 「学校法人飯田学園」は「学校法人調国学園」と改称。理事長飯 田信治。（弥富高等学校「弥高校広報」46.12.10 1p）
39.10.10 （～24）第18回オリンピック 東京大会開催。（岩波『年表』448p）	
39.10.16 大学設置審議会総会は「公 衆衛生短期大学について」の申し合 わせを了承、公衆衛生・臨床検査等 の中堅技術者育成の必要性を確認。 (『三十年史 通史』37～38p)	
昭和40（1965）年	
40.3.31 大学基準等研究協議会、医 学部設置基準要項決定。（『大学設置 審査要覧』181p）	
昭和41（1966）年	
41.2.18 愛知県医師会の協力を得て、両国学園弥富高等学校は全日制、及 び昼間定期制の衛生看護科を増設。（『三十年史 通史』34p） この頃両国学園は四日市・桑名に跨る丘陵地帯135,000 m ² を女子短期大学 校地として取得。（42.9 認可申請書 拡）	41.2.18 愛知県医師会の協力を得て、両国学園弥富高等学校は全日制、及 び昼間定期制の衛生看護科を増設。（『三十年史 通史』34p） この頃両国学園は四日市・桑名に跨る丘陵地帯135,000 m ² を女子短期大学 校地として取得。（42.9 認可申請書 拡）
41.4月 この頃、掖済会病院の病床数 260床。（『三十年史 通史』22p）	41.4.1 太田元次、日本医師会常任理事（～43.3.31）就任。（太田『続・回顧 録』161p）

建設・整備	教 育	診 療
41.8月 両国学園は女子短期 大学のキャンパス全体構 想、校舎の平面計画の成案 を得る。（『三十年史 通史』 35p）		

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）
昭和42（1967）年	
文部省は、看護、衛生系各種学校を 短期大学に昇格させ、コメディカル の医学水準の向上と卒業生の量的 拡大を図り、大阪大学を手始めに昭 和42～平成3年度にかけ、国立医 科大学（医学部）に25の医療技術短 期大学部を併設。（『三十年史 通史』 37p） 一方、昭和30年代後半から40年代前 半にかけて、全国の医系大学では形 化したインター制度に端を発し た学園紛争が熾烈を極めた。昭和 42年春には東大、慶應大医学部、 慈恵医大、日本大等で無期限封鎖 闘争へと激化した（42.3.12 青年医師 連合（36大学受験資格者の87%）医 師国家試験ゴット）。	42.4.26 両国学園理事会は女子短期大学（看護学科、衛生技術科）設置を承 認、併せて三輪田叢（愛知一中、名帝大卒、愛知県医師会理事）と山元昌之（元 名古屋大学医学部附属病院事務部長）とを理事に選出。（42.9認可申請書 拡） この年度以降、弥富高校全日制の普通・機械・衛生看護の3科は入学充足 率が年度を追って低下し、一方定期制衛生看護科は定員の4倍を入学させ る。
この年、経済成長率実質12.4%。（岩 波『年表』460p）	42.9月 両国学園、女子短大認可申請を目指し「昭和42.9 寄附行為変更 認可申請書」をほぼ完成。（42.9認可申請書 拡）

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）
昭和43（1968）年	
この年、全国115大学で紛争発生、世 界各国（米独仏西等）でも学生騒 動頻発。経済成長率実質14.2%。（岩 波『年表』466～467p） この頃、全国の病床数は数年前の90 万床から125万床へと増加したが、 看護体制は総勢41万人ほど（正看 護師12万人、准看護師12万人、看護 補助17万人）。正看護師は米国32人 (/人口1万人)に対し日本13人。 (『三十年史 通史』152～153p) 43.5.15 医師法改正法公布、施行（医 師実地修練制度（インター制度）廢	43.4.1 太田元次、日本医師会代議員（～47.3.31）就任。（太田『続・回顧録』 161p） 43.4月頃から、太田元次ら薦藤外科同心会の有志は度々会合を持って、 「紛争」によって名帝大時代の栄光を失った母校の荒廃を慨嘆していた。 この慨嘆は次第に、中部地区に私立医科大学創建を、と指向する談義に 発展。以後このグループは太田を書記役として私立医大創設の具体策を 模索し始める。（太田『続・回顧録』71、84p） 43.5.25 両国学園は女子短大校地・校舎の売却を決定。（43.『理議』 43 年度のこの時点で、両国学園は女子短期大学創設を断念と推定される。

建設・整備	教 育	診 療
41.8月 両国学園は女子短期 大学のキャンパス全体構 想、校舎の平面計画の成案 を得る。（『三十年史 通史』 35p）	42.6月 両国学園は女子短大 用地に校舎等建築、第1期 工事着手（2,653.71 m ² 42.6.1 着手、42.12月完成予定）。 (42.9認可申請書 拡)  8月末日現在、建設中の両国学園女子短大校舎。 (『昭和42年9月 寄附行為変更認可申請書 拡 両国学園』添付)	

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療
<p>止、2年以上の臨床研修医制度創設)。(厚生省「年表」1334p)</p> <p>43.7.1 摂済会病院は9診療科を擁し、総合病院として認可された。(摂済会病院三十年史 19p)</p> <p>43.8.8 和田寿郎(肝臓医大)、日本初の心臓移植。(内科「年表」72p)</p> <p>43.9.26 厚生省、水俣病の原因をメチル水銀と断定。(内科「年表」73p)</p> <p>43.11月 摂済会病院本館1万3千㎡増改築工事着手。この頃、年間外来患者約26万人、入院患者約9万人。(摂済会病院三十年史 20, 171 ~ 172p)</p> <p>昭和44（1969）年</p> <p>44.1.20 東大44年度入試中止。</p> <p>紛争大学（東大、北大、京大等41校）、警察機動隊導入で封鎖解除。(岩波『年表』468 ~ 469p)</p> <p>44年度の医師1日当たり外来患者数（全国平均）は、昭和30年度の21.8人から42.6人へと倍増。</p> <p>医師充足率は400床以上の大規模公立病院の77.3%に対し、100床以下では57.2%に過ぎず、大小の規模を問わず病院へ患者が殺到した。「2時間待ち3分診療」などと称された。(「三十年史 通史」29 ~ 30p)</p> <p>この年、経済成長率実質13.7%。(岩波『年表』472p)</p> <p>44.5.26 東名・名神（東京～西宮）自動車道全通。(岩波『年表』469p)</p> <p>44.6月 医大増設の世論を受け、自由民主党は「国民医療対策大纲」で先進国との統計値を踏まえて、人口10万人に医師数150人の指標を掲げた。(滋賀医大十周年 2 ~ 3p)</p> <p>44.6.14 都市計画法施行。(岩波『年表』470p)</p> <p>44.7.20 米国宇宙船アポロ11号月面着陸。(岩波『年表』471p)</p> <p>44.9.19 「医学部設備審査基準要項」（医学専門委員会）実施。医学部設備については大学設置基準等によるほかはこの「要項」を適用。教育目標、学部組織、講座編成、教員組織、学生定員、授業時間数、校舎、附属病院等。(文部省「大学設置審査要覧」181 ~ 185p)</p> <p>昭和45（1970）年</p> <p>45.3.14 日本万国博覧会EXPO'70(～9.13)開幕。(岩波『年表』474p)</p> <p>45.3.20 厚生省、スモンの原因としてキノホルムが関係との新潟大学植忠雄教授の発表に基づき、キノホルムの販売・使用中止を通告。(岩波『年表』474p)</p> <p>45.4月 秋田大学医学部、杏林大学医学部、川崎医科大学、里大医学部開学。医大新設ラッシュの開始。(「三十年史 通史」32p)</p> <p>45.6.25 厚生省、がん死亡率は喫煙者が非喫煙者の倍、肺がんでは4倍と発表。(内科「年表」75p)</p> <p>昭和43年暮～44年春頃、太田元次はスズケンの桜井秀雄から香流病院長重富克美を紹介され、私立医大創設について面談した。以来重富は太田グループに参画し諸実現策を提言。太田らは重富案（下記）を全面的に採用した。(太田「統・回顧録」71 ~ 73p)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 香流病院を新設医大の暫定的な附属病院として提供。 2) 設立準備財团方式ではなく、既存学校法人に依頼し、寄附行為変更認可申請による私立医大新設を目指す。 3) 校地は長久手岩作字雁又、丸根地区を買収する。 4) 建設資金は日本労働銀行をメインバンクとして借入する。 <p>44.6月 太田元次は香流病院顧問川端純一の紹介で元名古屋市職員増田繁夫を採用し、私立医大設立事務を任せた。(太田「統・回顧録」72p)</p> <p>当初、校地にと目論んだ長久手村大字岩作字雁又、丸根地区が農地法に抵触し、転用できないとされたので、四日市市と鈴鹿市の間に校地候補地を求めた時期もあった。しかし44年6月、雁又、丸根も市街地調整区域に入ったので、校地転用が可能となった。(太田「統・回顧録」73p)</p>				

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療
<p>員、授業時間数、校舎、附属病院等。(文部省「大学設置審査要覧」181 ~ 185p)</p> <p>昭和45（1970）年</p> <p>45.3.14 日本万国博覧会EXPO'70(～9.13)開幕。(岩波『年表』474p)</p> <p>45.3.20 厚生省、スモンの原因としてキノホルムが関係との新潟大学植忠雄教授の発表に基づき、キノホルムの販売・使用中止を通告。(岩波『年表』474p)</p> <p>45.4月 秋田大学医学部、杏林大学医学部、川崎医科大学、里大医学部開学。医大新設ラッシュの開始。(「三十年史 通史」32p)</p> <p>45.6.25 厚生省、がん死亡率は喫煙者が非喫煙者の倍、肺がんでは4倍と発表。(内科「年表」75p)</p> <p>45.5月頃 増田を筆頭とする設置担当事務員5名は、香流病院看護婦宿舎1階階敷部屋で執務を開始。46年度新設医大開学のため、当面する設置事務局の最大任務は、9月末日締め切りの設置認可申請書等書類一式を完成させ、文部省に提出することであった。(「三十年史 通史」65p)</p> <p>この頃、太田元次、重富克美らは両国学園飯田理事長らと理事会構成員の新旧交代を巡って協議を開始したと推定される。</p> <p>45.5.22 両国学園理事会は理事5名（飯田信治、鈴木進、河合三平、嘉戸明、朝岡）の内、朝岡の5.21付辞任を了承、後任に重富克美をまず選出。5.22 ~ 31の間に嘉戸の後任に飯田鶴三（元愛知県師会長）を選出。(45^リ議)</p> <p>45.5.29 飯田理事長と重富克美理事が会談して1億円で実質的に学園運営権を譲渡す旨の意書が交わされた。(飯田「催告書」)</p> <p>45.5.31 両国学園理事会は残存理事2名の内、鈴木と河合（弥富高校長）の辞任を承認。後任校長には重富克美理事を当てる。空席2理事の後任には太田元次、上田文男（元名大附属病院長）を選出。(45^リ議)</p> <p>45.6.1 「両国学園の要請により本医科大学設立準備委員会がこの6月1日から役員に就任した」(愛知医科大学及同附属病院設立準備委員会 45年7月1日)</p> <p>45.6.24 両国学園飯田信治の理事長辞職を承認。ただし理事としては大学が設置後一段落するまで留任と重富克美約束。後任理事長として太田元次理事選任。次いで評議員7名（鳥居徹、川崎隆雄、嘉戸明、朝岡、飯田千鶴子、伊藤節二、飯田啓子）の赴職を承認。上田文男、服部鶴三、増田繁夫、重富克美、太田元次の5名を新評議員に選出し、両国学園新執行体制の整備完了。(太田「統・回顧録」90p) (45^リ議)</p> <p>45.6.1 精神科主体の香流病院を暫定的に本学附属病院とする目的で、総合病院「守山十全病院」に改修するため、重富克美は病院長として鷲島建設と改築工事契約（増築8,367.2㎡、改修13,389.2㎡、工期45.6.1 ~ 45.9.30、9億8千2百万円）。(愛心会「精神科分院分離に関する参考資料」)</p> <p>45.6月未満 立石池北東辺の字雁又、丸根等で校地収用開始。(愛心会「土地開発領収書」綴)</p>				

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療
	<p>45.7.24 理事会、評議会において、正式に愛知医科大学設置認可に向かって手続開始を承認。同時に学校法人名を「両国学園」から「爱心会」に変更を承認（登記簿記載は47.1.22）。(45「理議」)</p> <p>45.7.29 新議員8名増（飯田信治、太田衛良、池山芳雄、岡田清秀、森下慶次郎、松島輝雄、他2名）。(45「理議」)</p>			
45.9.1 広中平祐フィールズ賞受賞。	45.9.30 申請締切日当日の午後3時頃、本法人寄付行為変更認可申請書を県学事課経由で文部省管理局へ提出。(増田『旧恩』60~61p)	45.8.27 教養棟新築工事を鹿島建設と契約（3,968.5m ² 工期45.8.28~46.3.1 1億7千543万円）。(45.9認可申請書)		
40年代半ば被済会病院は1万3千m ² の本館を完成させた。この頃9診療科を擁し、病床350、年間外来患者36万人、入院患者12万人。(『三十年史通史』22~23p)		45.9.14 長久手村議会は村有の溜池二つ（1万6千m ² ）を両国学園に先取する件を可決。（長久手村議会、議案第30号・昭和45.9.11）		
経済成長率実質4.8%、伊豆諾景気終まる。(岩波『年表』478p)		45.9.24 専門棟、附属病院棟新築工事を鹿島建設と契約（工期46.3.1~48.3.31 10億339.39千円、21億2591.7千円）。(45.9認可申請書)		
45. カツ（英）、アクセルロッド（米）、フォン・オイラー（スウェーデン）、神経末端部における伝達物質の研究／ノーベル生理学・医学賞。(『内科』『年表』75p)				
昭和46（1971）年				
この年、経済成長率実質4.4%。(岩波『年表』48p)	46.2月 設置審、私大審現地調査。設置審上野直藏主査（後同志社大総長）秋霜烈日の調査、愛知医大と一切接触を拒絶。既に設置目的の先行投資は数十億円に達し、増田らは前述懸念たる想い。小島係員から増田にメモ連絡（「愛知医大新設が絶対に掛かるが不審点を払拭されたい」）。また、前後で増田は重富克美とは旧知の安倍晋太郎から呼び出され全てを報告。安倍は翌日、坂田文部大臣、村山大学学術局長、安崎管理局長訪問。(増田『旧恩』28~30、44p)	46.2月 本法人は字雁又、丸根に跨る公・私有地22筆39,464m ² の買収完了。取得額は推定2.5~3億円。(『三十年史・通史』82p)		
	46.3月 安倍は私大審査口一委員（東京慈恵医大理事長・学長、後私立大協会長）、設置審上野主査とも相次いで懇談。この一連の会談で継続審議の線が出たのか、同月、管理局長は本学園に資金15億円用意を指示。(増田『旧恩』29~30、34p)			
両審議会の結論	46.3.27 設置審総会は、大学設置認可は単年度審査が通例であるが、愛知医大は他の2医大とともに「保留」扱いで継続審議となる。増田はこの46年1~3月時期を第一次の危機と認識。(増田『旧恩』18~20p)			
大学設置審議会	1. 次の諸問題が残されている。 (1) 審査後取得した運動場用地が未審査 (2) 新設予定の校舎及び病院が未着工 (3) 器械器具、設備がなお不充分 (4) 暫定病院の活動状況が未だ不活発 2. 開設年次を47.4.1に変えれば継続審議。 3. 継続審議の場合、適当な時期に再審査。			
S.26				年 表 S.27



建設工事中の教養棟（現3号館（基礎科学棟））。

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療																																							
	<p>4. 以上、今年度末までに回答されたい。</p> <p>私大審査議会</p> <p>1. 今年度開設は不適当、資金が不充分。 2. 47年4月に開設を変更すべし。</p> <p>3. 6月又は7月に審査を行ふ。(46.12.25認可時における校地・校舎の確定面積) この指摘を受け日本設立事務局は教員組織等の基本的事項は一応ベースと認識。46年間認可時点を9月末日としてスケジュール設定。 ① 整備完了6月末日 ② 審査 7月 ③ 答申 8月20日。 (『3.27 設置審議及び私大審の結果』46.3.31~) (『三十年史・通史』80p)</p> <p>継続審議決定を受け、直ちに太田理事長は愛知医大設立発起人らとともに全員GKクラブ（名古屋市中区栄、愛知一中卒業生愛用の店）に集合。初志を貫徹し、47年度開學を目指すことを再確認。財務を含め太田が理事長として全責任を負う体制に一新。以後、太田の仕事は「金作り」が全てとなる。(太田『統・回顧録』91~92p)</p>	<p>太田理事長らがGKクラブに集合、協議した前後、鹿島建設名古屋支店長佐々木四郎は「出世払い」で愛知医大の建設工事を請負うと確約。(太田『統・回顧録』91p)</p>																																									
46.4月 東洋医科大学（現、聖マリアンナ医科大学）、帝京大学医学部開院。(『三十年史・通史』32p)	46.4月頃 設備準備事務室は教養棟1階へ移転、事務員も10余名に増加。事務部門（主査以上）癸令。(『辞令簿』設立事務局) 増田義夫 46.4.10 行財部担当 江藤隼人 " 財務担当 酒井宣明 " " 小島保一 " 行財部主査 伊藤敏男 " " 稻田文子 " " 服部征夫 " 設立事務局主査 松島兵重 " 主査 各務俊一 " " 主査 伊藤久雄 46.6.12 " 著理事付	46.4月~9月にかけて専門棟、新附属病院建設、運動場整備等のキャンパスの全体計画が鹿島建設設計部によって作成される。(増田『統・回顧録』15p)	<p>46.4.1~6.1 教員候補者中の一部を取り敢えず愛知医科大学設立準備委員として任命。</p> <table> <tr><td>川端純一</td><td>設立担当</td><td>46.5</td></tr> <tr><td>平川清一郎</td><td>学長付き</td><td>"</td></tr> <tr><td>村松正</td><td>46.4.1</td><td>教養課程担当</td></tr> <tr><td>福田宗一</td><td>"</td><td></td></tr> <tr><td>黒田貢</td><td>"</td><td></td></tr> <tr><td>村井不二男</td><td>"</td><td></td></tr> <tr><td>黒部通善</td><td>"</td><td></td></tr> <tr><td>田川素子</td><td>"</td><td></td></tr> <tr><td>小島淳一</td><td>"</td><td></td></tr> <tr><td>小林隆幸</td><td>"</td><td></td></tr> <tr><td>小林嘉雄</td><td>"</td><td></td></tr> <tr><td>原淳</td><td>46.6.1</td><td>専門課程担当</td></tr> <tr><td>渡辺金三郎</td><td>"</td><td></td></tr> </table> <p>(『辞令簿』設立事務局)</p>	川端純一	設立担当	46.5	平川清一郎	学長付き	"	村松正	46.4.1	教養課程担当	福田宗一	"		黒田貢	"		村井不二男	"		黒部通善	"		田川素子	"		小島淳一	"		小林隆幸	"		小林嘉雄	"		原淳	46.6.1	専門課程担当	渡辺金三郎	"		<p>46.4.1~9.1 教員候補者中の一部を設立特別委員（主に暫定病院）任命。</p> <p>橋本義雄 学長予定 46.4.1</p> <p>澤木脩一、菅原誠、山本貞博、高雄哲郎、郡部豊、熊澤敦、外山博治 以上 46.6.28</p> <p>設立準備委員委嘱</p> <p>広瀬俊二 46.6.1 山元昌之 46.8.1</p> <p>坂井秀雄 46.9.1 松山雅雄 46.9.1</p> <p>宮崎大樹 46.9.1</p> <p>(『辞令簿』設立事務局)</p> <p>この頃、守山十全病院（後、暫定病院）の月別収入は150~250万台、一般病棟の月別収入は1千万円未満、精神病棟は4.6~5千万円程度。(設立事務局『46.9.21 四月以後現在までの状況報告書』71~72p)</p> <p>(『三十年史・通史』142p)</p>
川端純一	設立担当	46.5																																									
平川清一郎	学長付き	"																																									
村松正	46.4.1	教養課程担当																																									
福田宗一	"																																										
黒田貢	"																																										
村井不二男	"																																										
黒部通善	"																																										
田川素子	"																																										
小島淳一	"																																										
小林隆幸	"																																										
小林嘉雄	"																																										
原淳	46.6.1	専門課程担当																																									
渡辺金三郎	"																																										
46.6.17 日米両国、沖縄返還協定調印。(岩波『年表』482p)		46.6.3 教養棟（現基礎科学棟）4階建 3,968.50m ² 竣工。(『三十年史・通史』「建物データ表」S.58)																																									
46.6.30 富山地裁、イタイイタイ病の原因をカドミウムと認定。(『内科』『年表』75p)		46.7.31 専門棟第1期工事 7,097.82m ² 建築確認。(『三十年史・通史』「建物データ表」S.58)																																									
46.7月 文部省「医科大学（医学部）設置調査会」（議長 黒川利雄）を設置。(『厚生省五十年史 資料編』136p)		46.8.5 看護婦宿舎第1寮（橘寮）7階建 1,236.15m ² 竣工。(『三十年史・通史』「建物データ表」S.61)																																									
46.8.15 米国のドル防衛措置発表で、ドル（マクソン）ショック（日本などの国際収支黒字国に對し、為替レート切上げ要求）。わが國の株価大暴落、大		46.8.8 太田元次理事長は名古屋掖済会病院（13診療科、病床350の総合病院、昭和45年度病院収入11億5千万円）を本学の協力病																																									
S.28				年 表 S.29																																							

国内外事情・医学（東）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療
<p>蔵省変動相場制をとる。高度成長期の終焉。（中村『昭和史』II 579～583p）</p> <p>46.9.16 安倍晋太郎、太田元次、重富克美三人会談申し合せ「重富當個人に係る一切の債務は学校法人愛心会の責任において処理する」。（46『理識』）</p> <p>46.9.20、21、22、23 設置審、私大審の現地審査。審査の中心課題は財務経営、病院建設の遅延。（『設広』第5号3p）</p> <p>46.9.29 設置審、私大審協議するも結論出す。（『設広』第6号10p）</p>		<p>46.9.16 新附属病院第1期工事11,113 m²、2期工事ともに31,900,919 m²で建築確認認可申請書受付、予定病床数600床未満（設計変更後、約43,000 m²、800病床に拡充、確認申請日48.10.29）。（「三十年史・通史」「建物データ表」S.58）</p>		<p>46.9.1 新知県、医療法第4条第1項に基づき守山十全病院を総合病院と認めて承認。（愛知県「46指合第40-69号」）</p>
<p>46.10月初頭 私大審獨り委员、太田理事長と増田設立事務局長に出席命令。愛知大認可については設置審の時子山会長から一任を取りけたので以下の諸件を呑めば、私大審と文部省との了承を取るとの提案。「法人財産の変更、寄付土地・建物の基原、関係理事会の承諾等、金とトラブルの全てを根絶せよ。」（増田『旧恩』21～22p）</p> <p>46.10.5 文部省管理局の三角課長は、本法人に寄附された守山十全病院（旧香流病院）には十数億円（3.2億円は本法人の債務、実質12.8億円）の債務があり不可。一旦返却し、新病院建設まで賃貸借契約、役員人事等を指導。（太田『第9号2～5p』更に関係書類の翌月曜日午前中の提出を命じた。）（増田『旧恩』22p）</p> <p>46.10.9 重富克美理事長は守山十全病院にかかる12億8千万円の債務を返済する旨の誓約書を理事会宛に提出。（46.10認可申請書）</p> <p>46.10.11 本法人は寄附された守山十全病院を返済。愛知大は同病院を暫定附属病院として負担借。同病院に関する重富理事の債務のうち3.2億円は法人の債務と確認。（46『理識』）</p> <p>46.10.11 太田理事長と重富理事との間で暫定病院に関する諸契約締結。「精神科分院の管理運営に関する約定」「暫定病院の管理運営に関する約定」「賃貸借契約書」「負担の引継ぎに関する契約書」。（46.10認可申請書）</p> <p>46.10.25 第二次審査行為為変更認可申請書、設置認可申請書提出（以下書類含）。太田理事長文部大臣宛約書、付属書（10.9付 重富理事太田理事長宛「誓約書」、10.10付 重富理事太田理事長宛「覚書」等）。（「三十年史・通史」93～94p）</p> <p>46.11.8 私大審、愛知医科大学設置認可内定。（『朝日』7.11.9）9月からこの内定までの時期を増田は第二の危機と回顧。（増田『旧恩』20p）</p> <p>46.11.20 愛知県信用農協連に対する太田元次理事長回答「愛医大新設に関わる最初の申請時（昭46.9.30）には重富克美所有の病院の寄附を受けたが、併せて負債も繼承する筈であった。しかし、負債までの繼承は不可との文部省から行政指導があり、一旦返済し、賃貸借することになった。」（『重富関係史料 雜』）</p> <p>46.12.7 医科大学（医学部）設置調査会（議長 黒川利雄）、以下を文部大臣答申。</p>	<p>46.10.12 専門棟第2期工事9,720,984 m²建築確認申請。（「三十年史・通史」「建物データ表」S.58）</p> <p>46.10.19 附属病院（暫定病院）（一般病棟、職員食堂相当面積）8,367.91 m²増築完了。（「三十年史・通史」140～141p、「建物データ表」S.61）ただし、全体計画では21,757.153 m²増改築。（施設建設46.7.1作図「旧香流病院配置図」）</p>	<p>46.11.8 設置事務局は設置認可内定とともに、開学に向けて、出願・入学試験日程の調整、手続き、学生募集等の準備を開始。（『設広』第7～8号）</p>		
S.30				年 表 S.31

国内外事情・医学（東）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療	
<p>人口10万人に対し150人の医師必要。既設医大は町和47年度以降5年間に1200～1300程度入学定員の増加させる（但し大学定員120人まで）。新設医大は国公立等公的医科大学を原則とし、私立医大は水準、経営が保証される場合のみに限定。（「三十年史・通史」31～32p）</p> <p>46. サザランド（米）、ホルモン作用の機構に関する発見（cAMP）によりノーベル生理学・医学賞受賞。（「内科」年表175p）</p> <p>昭和47（1972）年</p> <p>総理 田中角栄（昭47.7.7～49.12.9）この年、経済成長率実質8.5%。（岩波『年表』409p）</p> <p>47.1.24 グアム島で元陸軍軍曹の横井庄一保護。（岩波『年表』480p）</p> <p>47.2.3～13 第11回冬季オリンピック札幌大会開催。（岩波『年表』486p）</p> <p>47.2.19 連合赤軍5人が駒井沢の浅間山荘に管理人を人質にして篠城。2.28 浅間山荘に警察機動隊突入。動員警官延12,979人、逮捕時のテレビ視聴率87.7%。（岩波『年表』486p）</p>	<p>今日決定は困難との発言に重富反発、退席。理事会は決会。（46『理識』）</p> <p>46.12.13 太田理事長は理事5名増員を含む新理事案を提案。（46『理識』）</p> <p>46.12.25 愛知医科大学医学部医学科設置認可。（地管第1の49号、校大第136号）</p> <p>認可時の留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 校地について 小運動場、及び周辺の整地。附属病院隣接購入予定の土地は計画どおり確保。 2. 校舎、附屬病院について 専門課程校舎、附屬病院を計画どおり完成させる。 3. 図書について 一般教育・専門教育図書は更に増強。図書館は一体的な利用計画、管理運営方針を確立。 4. 機械、器具等について 教育・研究用の機械、器具、標本等は更に増強。 5. 暫定病院について 医師、看護婦等の診療委員の増員。全診療科の診療活動を活発化。 6. その他 （1）入学定員を守ること。（2）入学の条件として記載された以外の品金徴収を厳禁。（3）医学部が完成年次に至るまで、入学定員増、学部増設等は不可。 <p>47.1.13 法人名正式に「愛心会」と改称。理事会が承認新理事 依頼条項（（旧）は昭和46年まで太田元次（日）理事長 6.1.3 に理事就任）橋本義雄 学長 6.1.1 上田文男（日）病院長 6.1.3 戸田信治（日） 6.1.3 重富克美（日）跡高高校長 6.1.2 服部三三（日）愛医会名誉会長 6.1.3 渡辺全三郎 専門課程教授 6.1.3 川端純一 香流病院顧問 6.1.3 志水揚武 名古屋市衛生師会副会長 6.1.3 平川清一郎 元佐賀高教員 6.1.3 佐藤陽一 元第一範検査部 6.1.4 村松繁 郵政互聯会相談役 6.1.4 佐々木喜太郎 新日本放送社長 ハ 山田繁夫 山田照明社長 ハ 伊藤半六 愛知一小会 ハ 池戸史郎 名古屋市医師会理事 ハ</p> <p>（46『理識』）（「三十年史・通史」「理事の変遷」S.46）（「理事履歴書」総）</p> <p>47.2.1 知科大初代学長に橋本義雄就任。附属病院長に上田文男、附属図書館長に松村正、基礎科学科長に福田宗一、基礎医学科長に原淳、臨床医学科長に渡辺金三郎、研究部長に後藤修二が教授就任と同時に補される。また、村松正、新田初雄、黒田貢、村井不二男が教授に、黒部通善が助教授に、松原昌樹、小林隆幸が講師に就任。（人事課「発令簿」）</p> <p>47.2.1 勤東京ヒルトンホテル 太田、服部、上田、重富、橋本、佐藤の各理事、及び安倍晋太郎議士の協議開催。</p> <p>重富理事及び佐藤理事からの要望事項。</p>	<p>47.1.9 『朝日』、『中日』に本学第1回の学生募集広告掲載。</p> <p>47.1.10 『毎日』に本学第1回の学生募集広告掲載。</p> <p>47.1.13 『読光』に本学第1回の学生募集広告掲載。</p> <p>47.1.17～31 初年度（昭和47）学生出願日。（『設広』第8号2p）</p> <p>47.2.13 医学部第1回第1次入学試験を教養棟及び西蔵の長久手高等学校で実施。693人受験。（『設広』第8号3p）</p> <p>47.2.21 橋本学長、『朝日』7.2.2.19記事（重富理事が入学を前提に預金集め）に開連し、受験生父兄に対し「文部省とも充分に連絡をとつて……ご子弟の入学に関してはご心配なく」との声明文を送付。（47『教説』第3回）</p>	<p>47.1.28 愛知県、本学附属病院（暫定病院）施設使用許可。（「三十年史・通史」142p）（「愛知県 指令医第42-2号」）</p> <p>47.2.1 愛知県、附属病院（暫定病院）施設使用許可。（「三十年史・通史」142p）（「愛知県 指令医第44-7号」）</p> <p>47.2.1～7.1 47年中の各診療科着手教授。</p> <p>2.1付 整形外科 上田文男 名医大卒 2.1耳鼻咽喉科 後藤修二 名医大卒 2.1産婦人科 渡辺全三郎 名医大卒</p>		年 表 S.33
S.32					

国内外事情・医学（東）行政

連合赤軍が籠居した浅間山荘。
(昭和史全記録 906p)

学校法人（行政・組織）

- 1) 新理事長は佐々木眞太郎 2) 総務、財務担当は佐藤陽一（兼事務局長） 3) 重富克美の債務は46.916三者会談通り法人処理 4) 病院賃貸借解除 5) 新理事のうち愛知一中会、愛知医師会代表は不可 その補充は福田、松岡、安信の頃とし、新選者がいる場合は推薦順位に従い森田、海部を加える。(46『理議』増田メモ)
- 47.2.2 11時～11：50 於文部省 安島管理局長、三角振興課長と太田理事長、橋本、上田、服部理事との協議に際し、以下を文部省指示。
認可の執行体制を大学宮が軌道に乗るまで維持。重富氏を枢要な地位に置けない、重富氏個人の負担は大学で負うべきではない。同時に大学が負うべき負担を同氏に負わせてはならない。(46『理議』)
- 47.2.4 運営審議会（学長、事務局長、附属病院長、研究部長、学生部長、図書館長、3科の各長の計9人）を承認。横断案の校章を学長提案。(47『教議』第1回)
- 47.2.5 文部省認可条件履行（暫定病院を返済し、重富克美と賃貸借契約すべし等）を職員に広報。(「大正」第9号1～5p)
- 47.2.7 重富理事の提案（2）は文部省認可条件と相容れず、調整は理事会に持ち越された。しかし2.7、2.16、2.23、3.1、3.8、3.15に設定された理事会は、重富、佐藤ら6～7名の理事の欠席により何れも流会となり、協議会に切替られた。(47『臨時評議会』)
- 47.2.7 重富理事は「太田理事長の理事長及び理事の職務執行停止の仮処分」を名古屋地裁に申請（民事）、また、同主旨の訴訟を愛知県警に提出を行った（刑事）。(昭和47年度文部省実地調査関係書) 総要は、選出手続きが違法で、理事及び理事長選任は無効との主張（45.5.31及び47.1.13の理事会議事録は公正証書元本不実記載）。
- 47.2.8 飯田信治、服部鉢三、上田文男の3理事は名古屋地裁に「陳述書」を提出し、重富理事の上記主張を反駁した。
- 47.2.19 大学調査によれば、重富理事が事前に入学を約束し、受験生父母から1億円を預かったことが露見。(朝日) 72.2.19)

47.3.15 新大阪～岡山間新幹線全通。
(岩波『年表』486p)

47.3.21 高松塚古墳発掘により石室
内部に白虎、青竜等の極彩色壁画発見。
(岩波『年表』487p)

- 47.3.6 太田理事長は重富理事に対して「妨害排除仮処分申請」を名古屋地裁に行った。要旨は、公正証書で契約した「賃貸借契約」及び「管理運営に関する約定」不履行、病院運営妨害排除である。(昭和47年度文部省実地調査関係書) 総要は、重富、佐藤ら6～7名の理事の欠席により何れも流会となり、協議会に切替られた。(47『臨時評議会』)
- 47.3.8 太田理事長は併せて守旧山十全病院廃止届けを重富理事に提出させた。「賃借取立禁止仮処分申請」等も行った。(昭和47年度文部省実地調査関係書) 総要は、重富理事は「太田理事長の理事長及び理事の職務執行停止の仮処分」を名古屋地裁に申請（民事）、また、同主旨の訴訟を愛知県警に提出を行った（刑事）。(昭和47年度文部省実地調査関係書) 総要は、選出手続きが違法で、理事及び理事長選任は無効との主張（45.5.31及び47.1.13の理事会議事録は公正証書元本不実記載）。
- 47.3.14 本学の英語表記 Aichi Medical College を承認。(47『教議』第5回)
- 47.3.21 学生部長に黒田寅教授を選任。(47『教議』第6回)

国内外事情・医学（東）行政

- 47.4.4 本学を含む7私立医科大学開学。(埼玉医科大学、自治医科大学、名古屋保健衛生大学医学部、愛知医科大学、金沢医科大学、兵庫医科大学、福岡大学医学部)。(30年史 通史 97p)
- 47.4.26 衆議院文教委員会で高見文相は私立医大設置に関して、各法人が校舎、病院の建設に掛かる前に予備審査するなど、二段階の審査方法を考えるべきだ、と述べ、審査方式を抜本的に改める方針を示した。(朝日) 72.4.27)

47.5.15 沖縄の日本復帰(沖縄県発足)。(岩波『年表』486p)

- 47.4.1 基礎科学（独語）教授に神保謙吾が、基礎科学（保健体育）教授に八木菊郎が就任。解剖学第2講座教授に武藤浩が、内科学第1講座教授に澤木脩二が、内科学第2講座教授に吉原謙が、精神科学講座教授に西丸四方が就任。村松保、法人本部長に就任。(二十年史) 388p)
- 47.4.7 太田理事長は重富理事について教授会意見を聴き、教授会は「重富克美理事のすみやかなる退陣を要求する」決議書の提出を決定。(47『教議』第9回)
- 47.4.11 入学式後父兄会結成(『学広』第1号4p)
- 47.4.17 父兄後援会会則制定。(同会『会則附則』)
- 47.4.20 事務組織規程制定。(47-1)

47.6.11 田中角栄通産相「日本列島改造論」発表。(岩波『年表』488p)

- 47.6.17 文部省は大学設置認可前の審査期間を2年間、2段階とする命令を制定、施行した。(51.4.1改正)。

1) 開設年度の前一年度4月1日までに寄附行為認可申請書、設置認可申請書を提出。内容が可の場合は開設前年度の6月30日までに教員関係等の必要書類を提出。(30年史 通史 97～98p)

2) 必要経費の3/4は自己資金(從来2/3)

3) 設置学校法人は10年以上の経営経験を要す

4) 中心人物は高識見、社会的信用を要す

5) 暫定病院制度は不可(從来開院年間可)(2)～5(朝日) 72.6.1)

47.6.23 老人福祉法改正公布(48.1.1施行)(70歳以上の医療費無料)。(岩波『年表』489p)

学校法人（行政・組織）

- 47.5.20 太田理事長と重富理事とは各自の訴訟を取下げ、佐々木理事の協定案により和解を決定。
- 1) 重富克美は精神病院の分離返還、暫定病院の賃料料金上昇と引替に理事を退任
 - 2) 法人は暫定病院の増改築費用を負担
 - 3) 太田元次は重富の功績を認め功労金を提供
 - 4) 重富克美は本協定書調印と同時に依頼退職届を佐々木に預ける。(47『理議』)
- 47.5.26 教授会規程、教員選考基準ともに施行期日を47.5.26とし可決。(47『教議』第14回)

47.6.10 本法人広報誌『學園広報』を創刊。

47.6.12 文書規程、公印規程制定。(47-8.9)

47.6.23 欧文大学名を Aichi Medical College から Aichi Medical University に変更と決定。(47『教議』第18回)

47.6.26 経理規程制定。(47-10)

47.6.11 田中角栄通産相「日本列島改造論」発表。(岩波『年表』488p)

47.6.17 文部省は大学設置認可前の審査期間を2年間、2段階とする命令を制定、施行した。(51.4.1改正)。

1) 開設年度の前一年度4月1日までに寄附行為認可申請書、設置認可申請書を提出。内容が可の場合は開設前年度の6月30日までに教員関係等の必要書類を提出。(30年史 通史 97～98p)

2) 必要経費の3/4は自己資金(從来2/3)

3) 設置学校法人は10年以上の経営経験を要す

4) 中心人物は高識見、社会的信用を要す

5) 暫定病院制度は不可(從来開院年間可)(2)～5(朝日) 72.6.1)

47.6.23 老人福祉法改正公布(48.1.1施行)(70歳以上の医療費無料)。(岩波『年表』489p)

建設・整備

教 育

診 療

- 4.1 第1内科 澤木佑二 名医専卒
4.1 第2内科 菊原譲 京大医学
4.1 精神科 西丸四方 東大医学
7.1 第1外科 山本貞博 名医卒
7.1 小兒科 久慈重盛 名医卒

47.3.1 第1回第1次入学試験合格発表。(爱心会

47『火曜会』)

47.3.3 学則について、設置認可用の学則(名市大様式)と学則新原版(名大様式)とを対比しながら検討開始。学生便覧は『学修の手びき(基礎科学科)』とし検討開始。

本学必須の看護学校は9月に設置認可申請できるよう学長提案、渡辺教授に草案作成依頼。

(47『教議』第4回)

47.3.8 第1次合格者333名中319名、第2次試験(面接、健診診断)終了。

進学課程は文部省指示通り単位制と決定。(47『教議』臨時)

納付金175.5万円(入学金20 施設費20 授業料前期分15 実験費前期分2.5 学校債100万円)。(47年度「入学手続案内」)

47.3.14 合格者一覧表を配布。校章サンプル回覧。(47『教議』第5回)

47.3.24 昭和47年度前期時間表を承。(47『教議』第7回)

47.3.24 山元昌之客員教授を中心とした病院創設準備委員会設置を承認。(47『教議』第7回)

建設・整備

教 育

診 療

47.4.1 大学則制定。(47-12)

47.4.11 10時から医学部第1回入学期式举行。(4.12～14の3日間ガイダンス。(『三十年史 通史』111～112p)

47.4.21 病院創設準備委員会報告(山元副委員長)精神病棟は別棟、隔離病棟は600床の中で考慮)。(47『教議』第10回)

47.4.22 病院創設準備委員会報告(山元副委員長)精神病棟は別棟、隔離病棟は600床の中で考慮)。(47『教議』第10回)

47.5.12 現行16に及ぶ委員会を10に統合。

1 カリキュラム委員会、2 研究、3 企画、4 教職員選考、5 図書、6 予算、7 給与、8 建築、9 学生生活(新設)、10 診療(保留) (47『教議』第12回)

47.5.22 教授会規程制定。(47-4)

47.5.26 学生、14のクラブを結成し届けた。(47『教議』第14回)

47.6.12 暫定病院(旧守山十全病院)事務部門(部長1、次長2、課長3、課長補佐1、主査1)の発令。(『病院』No.7 1p)

国内外事情・医学(療)行政	学校法人(行政・組織)	建設・整備	教育	診療
	<p>47.7.1 外科学第1講座教授に山本貞博が、小児科学講座教授に久徳重盛が就任。(『二十年史』388p)</p> <p>47.7.12 私大審、設置審(7.19)の両審とも現行状況調査において新病院建設の遅れ等7項目指摘。(『学広』第3号3p)</p> <p>47.7.30 本学機関誌『青藍』を創刊。(同『青藍』I)</p>			<p>47.7月 新附属病院工事着工(鹿島建設設計本部「解説」『新建築』Vol.50, No.5 190p)</p>
	<p>47.8.5 太田理事長は「陸軍士官学校」とも言うべき付属高校設置構想を元々有していたが、本校設置認可の際、第1回卒業生を送り出すまでは新規事業を行わないよう文部省に指示され、断念していた。しかし、横根市在住の父兄で中央病院長の吉田進が付属高校の創立を申し出たので、それに応えて滋賀県彦根方面を理事長、学長ら6人が視察した。(太田『絆・回顧録』113p)</p> <p>48年度に高等学校(全寮制・普通科、定員50名)設立。49~52年度女子短期大学設立、が吉田の構想であった。(47『幹部会』臨時)</p> <p>47.8.9 増田繁夫法人本部長代行に就任。(『学広』第4号3p)</p>			<p>47.8月 看護婦充足委員会を設け、本院採用者を春日井准看護学校(高卒)や称高高校衛生看護科に通学させて、准看護婦、見習看護婦として養成する道を開く。(『学広』第3号5p)</p>
47.9.29 日中戦争状態終結、国交正常化。(岩波『年表』490p)	<p>47.9月 大団塊会発足(理事長・学長・病院長・学科長)。(『学広』第4号3p) 「称高等学校発展対策資料」を同校職員組合が取り纏め、本法人本部にも提出。</p> <p>47.9.9 太田理事長と重富理事とは5.12付協定書に基づき協定精算書に捺印。愛心会は重富理事に感謝状と六万円を贈った。重富理事は9.9付で辞職書を提出し、理幹長受取。(47『教諭』持題) 後に(48.6)、太田元次が協定に応じた理由を、重富理事の本学開学妨害を排除するためと記している。(『重上』)</p> <p>47.9.12 附属図書館長に新田初雄教授就任。(『二十年史』388p)</p> <p>47.9.20 暫定病院工組は精神科分離後の身分保障を求めて申入れ。(愛心会「精神科分院参考資料」)</p>			<p>47.9.8 客員教授に関する規程(案)及び解説文書が提出され原案通り可決。(47『教諭』第21回)</p>
	47.10.20 教員定員に関する規程制定。(47~19)			<p>47.9.8 山元客員教授の7.15付け退職願に理事長受取。(47『教諭』第21回)</p>
47.11.11 防衛医科大学設置。(内科「年表」77p)	<p>47.11.1 附属図書館運営委員会規程、図書管理規程等諸規定施行。(『愛知医科大学規則案』)</p> <p>47.11.6 本法人の運営組織は新たに設置した幹部会、学科長会、部長会、教授会の4機関となる。火曜会は開連の会へ吸収。(『学広』第8号3p)</p> <p>47.11.11 「認可後の財政状況等の実地調査結果」(通知)(文音振第173号) 1. 役員が一協力、円滑な法人運営を図る 2. 校舎・病院を予定どおり完成させる 3. 事務組織の整備強化に一層努める 4. 学生数が定員に比べ多い状態を改善する 5. 入学者から高額な寄付金を求めていない。(昭和47年度文部省実地調査報告書)締</p> <p>47.11.17 暫定事務局を教養棟2階に移転。(『学広』第7号4p)</p> <p>47.11.20 物品管理制度施行。(『学広』第7号3p)</p>			<p>47.11.1 愛知医科大学医学会創制定。愛知医科大学医学会発足。(『学広』第7号7p)</p> <p>47.11.24 創設時のカリキュラム再検討開始、カリキュラム原案6項承認。 イ) 進学課程最終修得単位は64単位 ロ) 授業時間は90分を2時間と読替 ハ) 基礎教育科目は専門課程として実施、一部進学課程の単位に割替 ニ) 再試験は該当科目再受講なしで受験可 ホ) 単位は毎学年末に授与。(47『教諭』第26回)</p>

国内外事情・医学(療)行政	学校法人(行政・組織)	建設・整備	教育	診療
	47.11.20~27 図書館は専門(管理)棟3~4階へ移転し、本格的に図書館業務開始。(『学広』第7号4p)			
47. エルマン(米)、ボーター(英)、抗体の化学構造と機能に関する研究でノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』「年表」77p)				
昭和48(1973)年				
	<p>48.1.1 外科学第2講座教授に高雄哲郎が就任。(『二十年史』388p)</p> <p>48.1.1 厚生会発足。(『学広』第9号)</p> <p>48.1.4 新図書館(管理棟3、4階)開館。(『学広』第9号)</p> <p>48.1.8 幹部会、称高高校問題の検討を始め。(47『幹部会』第6回)</p> <p>48.1.19 3月末までに実行すべき事項確認。 1) 本部開設、給料表、事務局の移動、看護学校準備室設置等 2) 大学関係 48年度入試、カリキュラム編成、授業プログラム編成 3) 図書館関係、学会誌発行、コピー制度確立、事務体制整備等 4) 病院関係、経常事務整備、収支分析、患者拡大等。(47『教諭』第29回)</p>		<p>48.1.22 教育関連病院規程施行。(『学広』第9号)</p>	
48.2.8 1県1国立医科大学(無医大県解消)構想を経済審議会が答申、同2月13日、その主旨を盛り込んだ「経済社会基本計画」を閣議決定、昭和48~56年度にかけ、1道15県にわたりて16の国立医科大学(医学部)が発足。(『三十年史 通史』33p)				<p>48.2.16 複写機を集中しコピーセンター設置、図書館で一元的に管理。進学課程の単位認定は期末(前・後期)、通常授業科目は学年年度末。進学課程の再試験についての申し合わせ承認。(47『教諭』第31回)</p>
48.2.14 変動相場制に移行。1ドル264円に急騰。(岩波『年表』492p)				
48.3.9 「医学教育に関する提言」で「政府が安易急速な医学校の新設を企図することは国家百年の計を誤るもの」と批判。(全国医学部長病院会議)	<p>48.3.24 理事長室、学長室、法人本部が教養棟から管理棟1、2階、中3階へ移転。(『学広』第11号7p)</p> <p>昭和47年度末までに、教養課程では9学科(法学、国文学、数学、物理学、化学、生物学、英語、ドイツ語、保健体育)が、専門課程では12講座(解剖学第1、解剖学第2、生理学第1、内科学第1、内科学第2、精神科、小児科学、外科学第1、外科学第2、整形外科学、耳鼻咽喉科学、産婦人科学)が開講された。</p> <p>内、臨床系講義(診療科)は整形外科学、耳鼻咽喉科学、産婦人科学、内科学第1、内科学第2、精神科、外科学第1、外科学第2、小児科学の9講座(診療科)。(『三十年史 通史』124~128p)</p>		<p>48.3.2 49年4月開校を目標に看護学校(定期制)設置決定。</p> <p>学生生活委員会規程(案)等修正承認。学生クラブ承認(劍道、乗馬、サッカー、ボーリング、アーチェリー、卓球、ワンゲル、ゴルフ、硬式庭球、スキー、バスケット、自動車、ロックアンドブルース、映画、美術、文学、音楽)。(47『教諭』第32回)</p> <p>48.3.17 第2次入試判定承認(志願者数400人 第1次合格者数177人、第2次受験者数142人、合格者数115人、補欠15人(外数))。(47『教諭』第34回)</p> <p>48.3.20 48年度より大学、高校とも学納金、授業料増額決定。</p> <p>大学 高校 (単位 万円) 入学金 20→50 1→2 全日 0.2 0.3 定時 授業料 30→70 4.8→6 全日 3.3 4.2 定時 (47『教諭』持題)</p> <p>48.3.31 『愛知医科大学医学会雑誌』(季刊)創刊。(『学広』第12号7~8p)</p>	<p>48.春頃 増田理事、医事の電算化を決意。(増田『共7』24~25p)</p>

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療	
48年度、無医大解消構想に基づき、旭川医科大学、山形大学医学部、愛媛大学医学部の3医大開設。(『三十年史』通史135p)	48.4.1 生化学講座教授に柴田幸雄、病理学第1講座教授に宮川正治、病理学第2講座教授に青木重久、法医学講座教授に古田亮爾、眼科学講座教授に鈴村昭弘、皮膚学講座教授に野崎恵久、泌尿器科学講座教授に瀬川昭夫、放射線医学講座教授に稲田五郎、麻酔学講座教授に榎本晃が就任。(『二十年史』388p) 教授（外科学）に岩田金治郎採用。（人事課「発令簿」）就業規則及び細則制定。(47-26、27) 給与規程制定。(47-28の2) 退職金規程制定。(47-28の3)	48.4.10 改正設置基準の64単位に則したカリキュラムに改定承認。(48『教職』臨時全学)	48.4.11 学生生活委員会規程施行。新年度よりカリキュラムに改定承認。(『学広』第11～12号)	48.4.17 第1回診療部長・副部長会（部長会改称）開催。(『学広』第12号8p)	
同48年度、私立医大としては、獨協医科大学が開学（以後、49年度に東海大学医学部、近畿大学医学部が、53年度に産業医科大学が開学）。(『三十年史』通史189p)	48.4.20 暫定的に教養棟に設けられた図書館分室制廃止。(48『教職』第1回)	48.4.12 専門棟（管理・図書館棟）16,924.83 m ² 竣工。(『三十年史・通史』「建物データ表」S.58p)	48.4.13 専門課程カリキュラムを一部修正、医師国家試験を前提に卒業時の資格目標を目指す一貫教育を増強。(48『教職』第1回専門)		
48.4.21 学校教育法改正（医進、専門課程の枠外）。(『学広』第11号5p)	48.4.14 指導教員別 担当学生決定。(48『教職』第2回専門)	48.4.15 事務課長は小野父後援会長を伴いシンガボール医科大学訪問。(48『幹部会』第4回)	48.4.22 教授会規程改正（専門課程、進学課程、全学の各教授会を設置）。(48～29)	48.5.1 「病院通報」を受け継ぎ「病院広報」を創刊。	
	48.5.1 教員選考規程施行。(『愛知医科大学規則集』)	48.5.10 専門棟（管理・図書館棟）16,924.83 m ² 竣工。(『三十年史・通史』「建物データ表」S.58p)	48.5.7 弥富高校衛生看護科131名が10週間の病院実習開始(本学附属病院(暫定病院)等)。(『学広』第13号5p)	48.5.15 上田病院長「おだいじに」の一言運動提唱。(『病広』3)	
	48.6.12 私大審、設置審視察。(『学広』第14号5p)	48.6.13 今后の患者数推定	48.7.12～8.11 海外医療施設の視察(学生20名、理事長、黒田、山本、瀬川が教授と父兄。(『学広』14) (48『教職』第3回全学)		
	6.19提出資料のうち、以下が前年度主な指摘事項に対する回答。 (校地) 第1年次14,684m ² 、第2年次(5月末)12,555m ² 購入。(『校舎・病院』専門棟は予定どおり竣工。病院は約1万m ² 増容により4ヶ月遅延。)【研究機器】47年度購入668点1億4千万円弱。(『診療』全科に主任教授着任。外来1日平均213人、入院1日平均56人。 今後の患者数推定 48.7.1 薬理学講座教授に竹谷和視、麻酔学講座教授に佐美好昭が就任。(『二十年史』388p)	48.6.14 外来 200 300 450 600 入院 50 80 250 400 看護師数 80 150 220 300	48.7.14～8.15 一般教育から専門教育への移行を円滑に行う目的で「医学総論」を1年後期、2年前期に実施(計8単位)し、進学課程に還元の提案承認。(48『教職』臨時)		
48.8.8 韓国元大統領候補金大中、KCIAにより拉致誘拐。(岩波『年表』494p)	48.8.1 放射線医学講座教授に宮田伸樹が就任。(『二十年史』388p)	48.8.16 法人本部、弥富高校対策「基本方針」を幹部会に提示。弥富高校の愛知医大近辺への移転案を盛る。(48『幹部会』第10回)	48.8.21 一般教育から専門教育への移行を円滑に行う目的で「医学総論」を1年後期、2年前期に実施(計8単位)し、進学課程に還元の提案承認。(48『教職』臨時)		
	48.9.1 細菌学講座教授に野竹邦弘が就任。(『二十年史』388p)	48.9.17 脳神経外科学講座教授に佐藤義典が就任。(『二十年史』388p)	48.9.18 脳神経外科学講座新設。(『学広』第17号4～5p)	48.9.19 〔秋田〕彦根の吉田由田論など高校用地は結局敷費で確保され、校舎建築に着手した。しかし、資金に行き詰まり、その後を愛医大開設時に	

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療	
	資金援助をした波木が引き受けた。(太田『統・回顧録』113p)				
48.10.23 江崎玲於奈、ノーベル物理学賞受賞。(岩波『年表』497p)	48.10.1 脳神経外科学講座教授に岩田金治郎就任。(人事課「幹事」級) 増田繁夫が本部長に就任。(『二十年史』388p)	48.10.29 新附属病院設計変更建築確認申請、43,003.48 m ² 。(『三十年史・通史』「建物データ表」S.58)			
48.10.25 オイルショック（第1次石油危機）から「狂乱物価」へ突入。卸売物価指数15.9%上昇、消費者物価指数11.7%上昇。(岩波『年表』496p)	48.11.01 幹部会「弥富高校対策」提案(定期制衛生看護科は存続、全日制普通科の存続・廃止は1年保留、全日制機械科は募集中止)。(48『幹部会』第15回)	48.11.30 上記設計変更によって附属病院完成予定期後4月後の49.4.30日に遅延の見込み。本年当初よりの物価高騰、資材不足により、全工程遅延。(『三十年史・通史』147p)	48.11.22 6年一貫教育大綱(6年間一貫時間割表、科目別時間配当表、実習見学表、診断学ボリューム表)了承。(48『教職』第7回全学)		
48.12.22 国民生活安定緊急対策として石油・電力供給20%削減決定。(岩波『年表』496p)	48.12.01 幹部会「弥富高校職員組合は機械科の廃止を了承。(『学広』第20号3p)	48.12.17 高等看護学院、看護婦宿舎(第2)、保育園の三位一体建設案承認。(48『理職』第5回)			
48. ローレンツ（喫）、フリッシュ（喫）、ティンバーゲン（オランダ）、個体及び社会行動様式の機構に関する研究によりノーベル生理学・医学賞受賞。(内科学)『年表』77p)	49.1.01 太田理事長は将来、本法人と湖海南学園昭英高校との合併(附属高校化)を期待し、長男の功を同学園理事長とし、財政を担う波木とバイブルの池口とを副理事長に据えた。(太田『統・回顧録』113～114p)しかし、昭英高校が第1回入学生募集の際、愛知医科大学「付属」を謡い文句にしたことが将来に禍根を残した。	48.12.28 新附属病院完成予定期は1年保留、全日制機械科は募集中止の方針を組合に提示。(48『幹部会』第15回) 同校職組は執行部2名がハンガーストに入る(12.6)などして抵抗した。(中止) 73.12.7	48.12.31 『愛知医科大学基礎科学科紀要』創刊。(同『紀要』No.1)		
昭和49（1974）年					
総理 三木武夫（昭49.12.9～51.12.7）	49.1.17 学校法人湖海南学園昭英高校設置認可公示。(昭英高等学校提供資料)	49.1.17 太田理事長は将来、本法人と湖海南学園昭英高校との合併(附属高校化)を期待し、長男の功を同学園理事長とし、財政を担う波木とバイブルの池口とを副理事長に据えた。(太田『統・回顧録』113～114p)しかし、昭英高校が第1回入学生募集の際、愛知医科大学「付属」を謡い文句にしたことが将来に禍根を残した。	49.1.30 『愛知医科大学基礎科学科紀要』創刊。(同『紀要』No.1)		
49.2.01 「石油ショック」による物価騰貴。前年比卸物価32%、消費者物価24%、春闊ベースアップ率33%。(岩波『年表』502p)	49.2.04 愛知県知事宛「愛知医科大学高等看護学院設置計画書」提出。延面積811.6 m ² 教職員72人 工期49.2～8 開校9.1(予定)。	49.2.04 年度には、外科学第2、脳神経外科学、眼科学、皮膚科学、泌尿器科学、放射線医学、麻酔学の7講座が増設、臨床系は計15講座となる。(『三十年史・通史』321～322p)	49.2.31 附属病院完成予定期であつたが、昨年來の資材不足により、更に工事が遅れ、5.31完成見込。(文部省発 法発第49 (49.5.20)	49.3.30 『愛知医科大学基礎科学科紀要』創刊。(同『紀要』No.1)	外來患者1日平均240.4人。名古屋掖済会病院の昭和20年代末とほぼ同数字。(『三十年史・通史』144～145p)

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）
昭和49年度、無医大県解消構想に基づき、浜松医科大学、宮崎医科大学、筑波大学医学専門学群開学。（『三十年史 通史』33p）	49.4.1 科長制廃止、教務部新設。（48『教職』第11全学） 49.4.1 基礎科学（独語）教授に中條宗助、衛生学講座教授に有薗初夫就任。（『二十年史』380p）
昭和49年度までの新設私立医科大学は15校、既設と併せて28校となる。（『学広』第21号2p）また、高校進学率は90%を越す。（岩波『年表』503p）	49.4.21 昭英高等学校開校式、及び、第1回入学式、57名入学。（昭英高等学校提供資料）
49.4.20 大学院設置基準公布。（『大学設置審査要観』81p）	49.5.11 設置予定の高等看護学院長に瀬川昭夫教授を発令。（49『教職』臨時）教務部長に山本貞博教授、学生部長に中條宗助教授就任。（『二十年史』389p） 49.5.11 法医学講座教授に山田高路が就任。（『二十年史』389p） 49.5.30 理事会「弥富高等学校分離の件」承認。 湖海学園は愛知医大付属高校ではなく姉妹校と位置づけ、以下各項を確認。 1) 愛心会、湖海学園の両法人は別體の法人 2) 財政上も無関係 3) 愛知医大の入試については他一般生と同じ 4) 対外的問題を起こさぬよう湖海学園内で処理 5) 湖海学園の財政を明確にする。 この各項を基本方針とし、「今後、昭英高校側において、名称を付属高校に変更することについて」は、詳細を福井県学事課と調整、その結果を再検討することとなった。（50『理識』第1回）
49.6.1 文部大臣宛「愛知医科大学高等看護学院」指定申請。2年課程（修業年限3年間）昼間定時制。開校は49年9月を予定。（『三十年史 通史』15sp） 49.6.18 文部省看護学校設置審査委員は、現地調査後、教務主任不在を指摘。本法人は急遽、梶田美和子を主任として採用。（『看護学校』1, 91p）	49.6.1 文部大臣宛「愛知医科大学高等看護学院」指定申請。2年課程（修業年限3年間）昼間定時制。開校は49年9月を予定。（『三十年史 通史』15sp） 49.6.18 文部省看護学校設置審査委員は、現地調査後、教務主任不在を指摘。本法人は急遽、梶田美和子を主任として採用。（『看護学校』1, 91p）

S. 46

建設・整備	教育	診療
「大学設置に係る年次計画および年次計画の変更について」		
49.4.1 教授会規程改正（専攻、進学、全学の各教授会を廃し、全学一本化）。（49-36） 49.4.25 カリキュラム委員会設置、基礎科学、基礎医学、臨床医学の各科から2人ずつ選出を決定。（49『教職』第1回）		
49.5.17 新附属病院43,003.48 m ² 竣工。（『三十年史 通史』「建物データ表」S.58）		
		49.5.23 (頃) 暫定病院から新附属病院への移転完了。（『三十年史 通史』147p） 49.5.29 暫定病院廃止。（『三十年史 通史』142p） 49.5.30 新附属病院開設許可。 診療科人員48人、13診療科（内科（第1、第2）、精神科、小児科、外科（第1、第2）、脳神経外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、放射線科、麻酔科）。819病床。（『三十年史 通史』150p）
		49.6.1 新附属病院外來診療開始。（『三十年史 部局史』24p） 新附属病院を下記各法による医療機関に指定。生活保護法、結核予防法、労働者災害補償保険法、地方公務員災害補償法、原爆医療法、一般医療、母子保健法妊娠乳児健診検査、児童福祉法、育成医療、精神衛生法、性病保険法、戦傷病者特別援護法療養給付、更生医療、身体障害者福祉法。 特定疾患治療研究事業 小児慢性特定疾患（悪性新生物ほか） 特定疾患治療研究事業（国指定）（ペーチュット病ほか）（『三十年史 部局史』29p） 中央放射線部、中央手術部、理学療法部認めリハビリテーション部発足。（『三十年史 通史』314～315p）
		年 表 S. 47

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）
49.7月 大学院医学研究科設置準備委員会設置。初代委員長渡辺金三郎。この時点では開講講座数26。（『三十年史 通史』26sp） 49.7.1 解剖学第1講座教授に市原一郎、生理学第1講座教授に橋江勇昇任。（『二十年史』369p） 49.7.5 愛知県知事宛「愛知医科大学高等看護学院」設置認可申請。（『三十年史 通史』155p） 49.7.24 愛知県担当官、「高等看護学院」設置認可申請に応ずる実地調査。（『三十年史 通史』156p）	49.9.9 文部省及び愛知県は愛知医科大学高等看護学院を正看護師国家試験受験資格を与える各種学校に指定。同日愛知県は同学院の設置を認可、文部省は本法人の寄附行為変更を認可。（『三十年史 通史』157p）
49.10.8 前首相佐藤栄作、ノーベル平和賞受賞。（岩波『年表』502p） 49.10.22 国家公務員給与32.48%引き上げ実施を閣議決定。（岩波『年表』502p）	49.11.23 本学開學式挙行、写真集、パンフを記念に作成。（『二十年史』389p） 49.11.29 昭英高校の全生徒を愛知医大に招き学内を見学させ、太田元次理事長以下学長、教授達が激励挨拶。以後、同趣旨の昭英高校生徒・教員の招待等による指導助言活動は52.5.2まで10回ほど続く。（『三十年史 通史』186～187p）
49.11.23 本学開學式挙行、写真集、パンフを記念に作成。（『二十年史』389p） 49.11.29 昭英高校の全生徒を愛知医大に招き学内を見学させ、太田元次理事長以下学長、教授達が激励挨拶。以後、同趣旨の昭英高校生徒・教員の招待等による指導助言活動は52.5.2まで10回ほど続く。（『三十年史 通史』186～187p）	49.11.1～3 第1回医大祭、テーマ「帆をはり 航をとれ」。前夜祭、体育祭、模範店、映画大会、無料医療相談等のほか、講演（名市大精神科山口利之「社会変動と精神衛生」）、コンサート（金城学院マンドリンクラブ）。（第1回医大祭パンフ）
49.11.29 昭英高校の全生徒を愛知医大に招き学内を見学させ、太田元次理事長以下学長、教授達が激励挨拶。以後、同趣旨の昭英高校生徒・教員の招待等による指導助言活動は52.5.2まで10回ほど続く。（『三十年史 通史』186～187p）	49.12.19 カリキュラム委員会を医学教育研究委員会と改称、カリキュラム編成は教務委員会が担当と決定。（49『教職』第7回）
49. クラウド（ベルギー）、デューブ（英）、パラード（米）、細胞の構造と機能に関する発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。（内科）『年表』79p）	愛知医科大学 ACADEMIC UNIVERSITY 第1回 医大祭 '74 11月1-2日

S. 48

建設・整備	教育	診療
49.8.21 高等看護学院校舎2階建843.38 m ² は、予定期工を10日ほど繰上げ竣工。（『三十年史 通史』「建物データ表」S.59）	49.8.22 文部省実地調査に基づく本学図書館への講評。司書、司書補の増強、洋雑誌のタイトル数不足、バックナンバー不足等。（49『教職』臨時）	49.8.1 この時点で中央化されていた「5」は、中央臨床検査部（外来棟2階、7区分検査室）、中央放射線部（一般撮影、血管造影、アイソートレーディング等）、中央手術部（B病棟4階に手術室設置）、リハビリテーション部（暫定病院時代は理学療法部）、中央カルテ部（当初は入院患者の診療録のみを保管・管理）、中央材料部（外来棟2階、主業務は医療材料の調達・提供と手術部リネン類の滅菌、保管、供給）の6部。（『病通』No.9）
	49.9.20 高等看護学院第1回入学式。（『三十年史 通史』158p）	
49.10.24 第2看護婦寮6階建3,975.32 m ² 竣工。（『三十年史 通史』「建物データ表」S.59）	49.10.2 本学図書館、日本医学図書館協会正会員として承認される。（49『教職』臨時）	49.10.1 医科理科物品購入を一元化すべく附属病院2階に兼松江商が常駐。（49『教職』第4回）
	49.11.1～3 第1回医大祭、テーマ「帆をはり 航をとれ」。前夜祭、体育祭、模範店、映画大会、無料医療相談等のほか、講演（名市大精神科山口利之「社会変動と精神衛生」）、コンサート（金城学院マンドリンクラブ）。（第1回医大祭パンフ）	
	49.12.19 カリキュラム委員会を医学教育研究委員会と改称、カリキュラム編成は教務委員会が担当と決定。（49『教職』第7回）	
		年 表 S. 49

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）
昭和50（1975）年 総理 三木武夫（昭49.12.9～51.12.24）	50.1.1 法人本部、大学、病院を一括して50年度予算案作成に入る（目標一物品購入・委託料の1割低減化、施設管理業務の51年直営化、弥富高校分離のため財務整理）。（増田「共7」22,28～29p） 50.1.1 内科学第3講座教授に渡邉専就任。（『三十年 部局史』152p）
50.3.10 岡山～博多間新幹線全通。（岩波『年表』504p） 昭和49年度私立医科大学（新設校）平均支出総額70億円強、不足額30億円強。（日本私立医科大学協会『私立医科大学財政の現状と課題』22～23p） 昭和50年度、無医大県解消構想に基づき、滋賀医科大学開学。（『三十年史 通史』33p）	50.4.1 本法人の昭和47～52年度における平均不足額 39.7億円。（『三十年史 通史』118～119p）
50.4.28 文部省、短期大学設置基準（文部省令第21号）公示。 50.4.30 ベトナム戦争終結。（岩波『年表』505p）	50.4.1 教務部長に澤木信二教授就任。基礎科学（英語）教授に河上道生、公衆衛生学講座教授に岡田博就任。（『二十年史』389p） 50.4.1 事務局長に岩田正一就任。（『二十年史』389p） 50.4.24 予算委員会規程承認。（施行50.4.1）（附属病院長、図書館長、教務部長、学生部長で構成）。（50『教諭』第1回）
50.5.30 議長（理事長）提案の弥富高校本法人より分離の方針を承認。湖海学園の昭英高校を別法人のまま、愛知医科大学付属高等学校と名称変更を承認。 第一回生卒業直後の53年4月を目標に大学院設置の準備開始を承認。 学長・病院長の選任、任期についての議長提案を承認。 1) 学長・病院長の選任を昭和51年1月に行う。2) 選任の方法及び任期に関する草案は佐治理事の責任において作成。3) 理事長と佐治理事の責任において、関係機関との調整を得て最終決定する。（50『理諭』第1回）	50.6.16 寄生虫学講座教授に金子清俊就任。（『二十年史』389p） 50.6.17 昭和高等学校に「愛知医科大学附属」を冠する名称変更届けが同校から福井県知事宛に提出されたが、同知事が預かり棚上げされた形に留まり、認可も却下もされなかった。（『三十年史 通史』186p）
50.7.11 私立学校振興助成法公布。（『新訂 私立学校法』370p） 50.7.11 学校教育法改正（専修学校制度新設）公布。（岩波『年表』507p）	50.6.16 寄生虫学講座教授に金子清俊就任。（『二十年史』389p） 50.6.17 昭和高等学校に「愛知医科大学附属」を冠する名称変更届けが同校から福井県知事宛に提出されたが、同知事が預かり棚上げされた形に留まり、認可も却下もされなかった。（『三十年史 通史』186p）

S. 50

年 表 S. 51

建設・整備	教 育	診 療
	50.1.23 学則改正承認（進学課程、専門課程の区分廃止、教務部設置）。（49『教諭』第8回） 50.2.24 基礎科学、基礎医学、臨床医学各部門の代表者として学科長「的的なもの」を置くことを承認。（49『教諭』第9回）	
	50.4.月 昭和50年度よりカリキュラムは73単位制へ移行。以後、56年度まではほぼ不变。（『三十年史 通史』138p） 50.4.1 学則改正（教学組織は基礎科学、基礎医学、臨床医学の3部門）。（49『教諭』臨時）（49-40） 50.4.24 入試委員会規程（教務部長、学生部長、附属病院長、図書館長で構成）承認（施行50.4.1）。（50『教諭』第1回）（50-48）	昭和50年度、高千穂パロース1,2000が導入され、附属病院の電算化が開始された。当初は外来分の窓口計算、レセプト作成が主体であった。（『病広』第13号）

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）
50.8.4 日本赤軍、クアラルンブールの米、スウェーデン大使館を占拠、日本政府は5日過激派5人の釈放を超法規的に認める。（岩波『年表』507p） 50.8.26 東京女子医科大学、日本で初めてCT（X線コンピュータ断層撮影）開始。（岩波『年表』507p）	50.10.23 愛知県「弥富高等学校の設置者変更計画について（回答）」によって弥富高校を本法人より分離することを承認。 計画内容「本法人愛心会は愛知医大の創設事業に多大な経費を要し、弥富高校に資金援助を行う余裕がない。高校教職員は新法人に、生徒は新高校に継承させる、等々。」（『三十年史 通史』178～180p） 50.11.14 「調整会議報（週刊）第1号刊行（51.7.1第1号刊行の「法人通達愛医科大学」へ続く。）
50.11.14 ポルティモア（米）、ドウルベック（伊）、腫瘍ウィルスと遺伝子の相互作用研究でノーベル生理学・医学賞受賞。（『年表』79p）	50.12.16 整形外科学講座教授に丹羽滋郎が昇任。（『二十年史』389p） 50.12.26 愛知県私学議会、愛心会から弥富高校の分離と、同弥富高校の母体として学校法人愛西学園の設置承認。（『調報』第9号）
昭和51（1976）年 総理 福田赳夫（51. 12. 24～53. 12. 6） 51.1.10 文部省令第2号「専修学校設置基準」制定、翌11日施行。	50.12.13 飯田理事辞任。（50『理諭』第3回） 50.12.18 佐治草案「学長・病院長の選考方法およびその任期ならびに選考期間についての基本草案一覧和51年2月」（ただし、53.3.31までの暫定措置）提案。骨子：学長は理事長1名推薦、教授会の議を経、かつ講師以上教員の過半数信任。病院長もほぼ同じ。（50『理諭』第3回） 50.年度「教諭」第10～11回で審議された学長・病院長選任（基本草案）は、講師以上教員の過半数信任の項を削除し、かつ、下記条件を確認の上で承認。（50『教諭』臨時）学長は理事長が1名を推薦し、教授会で承認。病院長は更に部長会の承認も必要となる。
文部省は私立医大の裏口入学金を平均五千百万円と把握。全日本医学生連合「私立大医学部寄付金の実体調査結果」公表。（『朝日』76.2.26）	50.1.2.3 次長、部長会議発足（法人本部、大学、病院の各事務部の独立を意図）。（『調報』第16号） 51.年度予算案決定（大学費12億、病院20億、看護学院2,200万、寮費1,700万、計33億。収入27億、赤字6億。新規事業は第3看護婦建設等11億、総計44億）。（『調報』第19号） 51.3.31 本法人より弥富高等学校が分離、独立。この際本法人は土地建物

S. 52

年 表 S. 53

建設・整備	教 育	診 療
	50.10.27 第1回解剖慰靈祭挙行。（『二十年史』389p）	
	50.11.1～3 第2回医大祭、テーマ「キャンバスを塗りつぶせ」。前夜祭、体育祭、模擬店、映画上映、無料医療相談、棒の手等のほか、講演（名古大精神科 中井久大「精神医学の歴史」）、ブルース・フェスティバル。（第2回医大祭パンフ）	

51.3.23 講座組織についての申し合わせ。
1) 講座には講座責任者として講座主任を置く。主任には当該講座の教授を充てる。
2) 教授会が必要と認め、理事会の承認を得たときは講座確定員数の枠内複数の教授を置くことができる。（50『教諭』臨時）

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療
昭和51年度、無医大県解消構想に基づき、富山医科薬科大学医学部、島根医科大学開学。（『三十年史 通史』33p）	を新学園へ譲渡寄付、借入金は全て返済。（『三十年史 通史』178～180p）学長橋本義雄、附属病院長上田文男退任。上田前病院長は理事に留まった。（太田『統一回顧録』105～106p）	51.4.1 太田理事長が愛知医科大学学長及び同附属病院長を兼務。同時に副学長制度（副学長に関する暫定措置）制定を設け、原淳、後藤修二の両教授が就任。（『三十年史』390p）豊橋市民病院名譽院長森泰樹を理事長顧問に招勧。（『病歴』復刊第1号）	51.4.8 同日太田元次理事長冒頭挨拶の内。本年度事業計画は看護婦寮増築、大動物合宿設、体育館建設、臨床研究棟計画、父兄会後援会事業として学生会館建設。（51『教議』第1回）	51.4.9 医事外来請求電算化が稼働。（増田『共7』24p）
51.4.1 大学設置基準一部を改正する省令施行（公布50.12.25）。専任教員数、一般教育科目のうち12単位までを専門教育の授業時間数で代えることが可となる。（50『教議』第10回）	51.4.1 弥富高校は学校法人愛西学園に包含され再発足。（『三十年史 通史』178p）	51.4.13 太田理事長冒頭挨拶。1) 建学の精神三箇条として [1. 良き臨床医育成 2. 地域医療への貢献（救命救急と健康管理）3. 東南アジア等発展途上国の医療進歩向上に協力] の3つを挙げる。（51『教議』第2回）	51.5.13 太田理事長冒頭挨拶の内。左の1)に続き 2) 今後の重要課題は医師国家試験対策と大学院設置 3) 大学院設置準備委員会報告了。	51.5.1 『病院広報』復刊1号刊行。（同1号）
51.4.5 中国北京天安門広場で群衆と軍警とが衝突。（岩波『年表』513p）	51.6.11 日本私立医大協は裏口寄付金批判に対して『財政白書』を刊行。（『朝日』76.6.12） 学生1人当 大学支出 学生負担 私立既設校 565 257万円 新設校 1,082 449 国立校 500 36 51.6.14 「本来医大は国公立であるべき」。（『朝日』76.6.14社説）	51.6.16 高等看護学院から看護専門学校に変更する旨を愛知県知事宛に認可申請することを承認。（51『理議』第1回）	51.7.8 太田元次理事長・学長出席挨拶「大学院設置について教員人事と病院の患者数が問題」。医師国家試験対策委員会設置。（51『理議』第4回）	51.8.7 放射線治療棟増築、 ⁶⁰ Co 遠隔照射装置がXミミュレータとともに設置。（『三十年史 部局史』327p）
51.7.27 東京地方検察庁、前首相田中角栄を外為法等違反容疑で逮捕。（岩波『年表』512p）	51.7.1 『法人通達 愛知医科大学』創刊、月刊。（同創刊号）	51.7.16 51.7.27	51.8.1 大学院設置審査のため今	S.54 S.55

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療
昭和52（1977）年	51.9.20 高等看護学院の看護専門学校に変更申請を文部大臣認可。（『三十年史 通史』163～164p）	51.9.9 大学院設置には専門書3万冊以上要、本学では7百冊不足。（51『理議』第6回）	51.9.9 年度中に入院患者数350名以上とすることが最大課題。（『法通』第2号『理事長カタム』）	
総理 福田赳夫（昭51.12.24～53.12.7）	52.1.26 新理事として萩野鶴太郎、森泰樹、川瀬保、山本馨、岩田正一、佐治良三、三輪隆康、太田功を選任。（51『理議』第2回）	51.10.14 整備計画未完了棟は看護婦寮、臨床研究棟、学生会館、体育館、実験動物舎、第2クラブハウス、教養棟増築。（51『理議』第7回）	51.10.30～11.2 第3回医大祭、テーマ「新たな海城への誇り」。前夜祭、体育祭、模擬店、映画上映、健康相談、棒の手等のほか、手塚治虫講演会、全城大学ギターマンドリン演奏。（第3回医大祭パンフ）	51.10.30～11.2 第3回医大祭、テーマ「新たな海城への誇り」。前夜祭、体育祭、模擬店、映画上映、健康相談、棒の手等のほか、手塚治虫講演会、全城大学ギターマンドリン演奏。（第3回医大祭パンフ）
52.1.25 新理事として萩野鶴太郎、森泰樹、川瀬保、山本馨、岩田正一、佐治良三、三輪隆康、太田功を選任。（51『理議』第2回）	52.1.26 新理事として萩野鶴太郎理事長を、52.4.1 発令予定で病院長に山本馨理事を選任。	51.10.15 理事会の運営及び理事の職務分担並びに補職員に関する内規」「理事長職務代理者に関する内規」「常務理事会委任細則」可決。	51.12.16 医師国試対策委員会、他医私大的対策例を紹介。（51『教議』第9回）	51.12.16 医師国試対策委員会、他医私大的対策例を紹介。（51『教議』第9回）
52.2.15 52.3.1 発令予定で学長に萩野鶴太郎理事長を、52.4.1 発令予定で病院長に山本馨理事を選任。	52.2.15 52.3.1 発令予定で学長に萩野鶴太郎理事長を、52.4.1 発令予定で病院長に山本馨理事を選任。	52.2.15 52.3.1 発令予定で学長に萩野鶴太郎理事長を、52.4.1 発令予定で病院長に山本馨理事を選任。	52.2.18 昭和52年度入試合否判定は500点満点中、400点台6人、300点台91人、(299～297点台3人)、計100人合格。以下、第1次補欠、第2次補欠、第3次補欠層とする方針を承認。（51『教議』第12回）	52.2.18 昭和52年度入試合否判定は500点満点中、400点台6人、300点台91人、(299～297点台3人)、計100人合格。以下、第1次補欠、第2次補欠、第3次補欠層とする方針を承認。（51『教議』第12回）
52.3.2 衆議院予算委員会で民社党和田耕作は私立医大の裏口入学金で海部文相を追求、「46年度は65%の新生入が総計83億を納入、47年度は70%が403億を納入。国庫補助が増額しているにもかかわらず何故か」。（『朝日』77.3.3）	52.3.1 萩野鶴太郎学長就任。（『二十年史』390p） 本法人50年度決算において、寄付金は約30億円。収入総額の約56%（51年度は約50%）。（『三十年史 通史』191p）	52.3.1 萩野鶴太郎学長就任。（『二十年史』390p） 本法人50年度決算において、寄付金は約30億円。収入総額の約56%（51年度は約50%）。（『三十年史 通史』191p）	51.年度頃から看護部組織が実質的に確立。（『三十年史 部局史』383p）	51.年度頃から看護部組織が実質的に確立。（『三十年史 部局史』383p）
			51.年度頃から看護部組織が実質的に確立。（『三十年史 部局史』383p）	51.年度、正看護婦44人、准看護婦155人、看護補助42人計241人。1日平均患者数は外来約400人、入院約240人。（『三十年史 部局史』383p）
				S.56 S.57

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療
52.3.17 私立医大協は、校舎・病院建設借入金返済が長期に切替えられた上で、利子補給され、附属病院経営にも助成金が交付される等条件が整いさえすれば、本年からでも寄付金を合格の条件とせずと申合せ。(『朝日』77.3.18)	52.3.31 太田理事長、附属病院退任。(『二十年史』382p)			史 通史 151, 150p)
52.4.4 参議院予算委員会で参考人浅田敏雄私立医大協常務理事は、来年度からは入試要項に寄付金納付を明記すると言明。(『朝日』77.4.4)	52.4.1 山本馨教授が附属病院長及び看護専門学校長就任、小川徳雄教授が教務部長就任。基礎科学（物理学）教授に山形安二、病理学第1講座教授に田内久、小児科講座教授に浅野清治、耳鼻咽喉科学講座教授に山本馨及び瀧本勲が就任。(『二十年史』390p)		52.4.月 52年度入学試験受験者464名、内、昭英高校から53名受験、45名入学。(『朝日』77.6.19複数全国紙)	
	52.4.1 山本馨教授が附属病院長及び看護専門学校長就任、小川徳雄教授が教務部長就任。基礎科学（物理学）教授に山形安二、病理学第1講座教授に田内久、小児科講座教授に浅野清治、耳鼻咽喉科学講座教授に山本馨及び瀧本勲が就任。(『二十年史』390p)			
	52.5.1 有薗初夫教授が附属図書館長に就任。衛生学講座教授に大島秀彦就任。(『二十年史』390p)			
	52.5.10 萩野鶴太郎学長が病気療養のため山本病院長の学長事務代理を承認。(52『理論』第1回)			
	52.6.6～25 『中部読売新聞』、本学入試疑惑追及キャンペーん続く。			
	52.6.18 文部省は愛知医大52年度入学試験問題について山本学長代行（新聞用語「事務代理」）、増田本部長から事情聴取。まず合格ライン（補欠格合を含む）に達した330人から96人を選ばれ、次に合格ライン以下から30人が選抜、この30人中27人が昭英高校の生徒であったことが判明。特に合否判定の不透明が露呈。(『朝日』、『中日』、『中部読売』77.6.19)			
	52.6.21 基礎医学系教員有志「全教授に訴える」で教授会の機能喪失、責務放棄を指揮。(『三十年史 通史』193～194p)			
	52.6.25 この日、『毎日新聞』朝刊が本学52年度入学者決定一覧表（試験成績付き表）のスクープ記事と写真を掲載。以後2カ月程連日『朝日』、『中日』両紙も本学を追及記事の巻。本法人理事事某のリーグとの風評もじきり。(太田『統・回顧録』108～109p)			
	理事懇談会で山本学長事務代理から教授会懇談会の要望を伝達。 1) 学校教育法施行規則67（学生の選退等は教授会の議を経て学長が定める）尊重。 2) 理事のより方針検討。			
	昭英高校問題につき池戸理事より説明。			
	1) 寄付金は皆無だが、設備、経費につき預り金で協力を得ており、預り金を発行、卒業時に返還。公認会計士の指導も受けている。 2) 愛知医大村崎の名前は50.5.30理事会で承認され、福井県に名称変更届を提出済み。文部省の方は森山歯科防衛府長官の紹介で学術局長に会った。別法人で合併ではないので文部省の所管外。(福井) 旗が良いればよいとのこと。2年後、同僚より指摘は受けていない。(52『理事懇談会』臨時)			
	52.6.29 山本学長代行ら記者会見、「教授会は今後入試判定に理事会の介入を許さない、入学寄付金も私立医大協の出すガイドラインと文部省指導とを守ることを6.28承認した」。(『朝日』77.6.29)			
	52.7.1 太田理事長は山本学長代行に近く辞任、と電話で表明。(『朝日』77.7.1)	52.7.18 本学父兄会建設の 医局員宿舍〔大学別館〕4階 建2,863.78 m ² 竣工。(『三十 年史 通史』「建物データ表」)		
	52.7.2 太田理事長は「辞表は私だけではなく理事全員が提出することになろう」と語る。(『朝日』77.7.2)			

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療
52.8.14 「朝日」社説で私立医大の病根を、財政基盤の脆弱、教授スタッフの無責任、行政（文部省）の私立医大「粗製濫造」黙認等と指摘。(『朝日』77.8.1)	福井県文書学事課は湖海学園副理事長波木一男から事情聴取。波木は県の認可を得ないで昭英高校に愛知医科大学附属高校の名称を付いたことを認め、正式に認可されるまで使用しない、生徒から集めた積立金については父母会が自主的にやっていること、と答える。(『朝日』77.7.3)			
	52.7.10 総会の理事会冒頭、太田理事長は最近の事は不徳の致すところと陳謝、全理事及び各職員の辞表提出を提案。増田理事「形式的な辞表提出は不可、上田理事「全員が止めは事態は一層混乱する」などの意見もあるが森泰輔副理事長に出席理事全員の辞表が預けられた。森副理事長は山本理事に会員を要請、二人で本附屬病院で入院治療中の萩野鶴太郎副理事長（学長）と協議のため中止。その結果、森副理事長は「萩野、森、山本、川瀬、佐治、岩田の6理事には残念願い、他の理事の辞表は受理。残留理事は再建委員として事態収拾に当たって頂く」と述べた。(52『理事懇談会』第1回)			
	52.7.11 萩野学長が理事事務代理を、岩田事務局長が法人本部長事務取扱を兼務。(『二十年史』390p)			
	52.7.12 福井県文書学事課は山本学長代行、岩田事務局長から裏寄付金疑惑等について三度目の事情聴取。(『朝日』77.7.11)			
	52.7.23 福井県文書学事課は湖海学園理事から預り金について事情聴取。同学園は入学生時に生徒の保護者から平均2千4百万円、総計43億円を預かって運用しているほか、生徒が愛知医大に入学する際、寄付金として振り込んでいることが判明。(『朝日』77.7.24)			
	52.7.27 萩野理事長職務代理は入院中の本学附属病院で24日2度目の発作を起こし意識不明となる。27日午前10時3分死去。死因は脳卒中、享年76歳。(『朝日』77.7.27)。(『二十年史』390p)			
	同日、午後教授会が開かれ山本の学長代行（事務取扱）を承認、当面代行体制となる。(『朝日』77.7.28)			
	52.8.1 精神科学教授に大原貢が昇任。(『二十年史』390p)			
	52.8.3 岩田理事ら残存理事は太田理事長から預かれた辞表を根拠に7名の理事登記抹消を本人・理事会の承認を無視して、名古屋地方法務局瀬戸出張所に申請（8.5登記完了）。この頃、ノミ屋の遠藤隆（役名）は6千万円もの借金返済を債務者に迫られていたが、愛知医大の巨額な入学寄付金報道を耳にして、昭英高校後援会が保有する父兄からの預かり金略奪を決意。(名古屋地方裁判所「記録」昭和54年(わ)第386号)		52.8.6 高等看護学院第1回生、看護専門学校として卒業式挙行。(『看護学校』23～25p)	
	52.8.10 理事会定数の5分の1以上が欠員となった場合は1ヵ月以内に補充しなければならない（私立学校法40条）。愛知医大理事会の現状はこの事例に該当したが、海瀬文相は愛知医大の誠意ある再建の努力を認め直ちに措置はしないと表明。(『朝日』77.8.10)			
	52.8.12 太田元次は日高良雄弁護士を代理人とし、再建委員として残留した理事（岩田、川瀬、佐治、森、山本）に対し、理事長「職務妨害排除処分」を名古屋地裁に申請。これについて被告申請人は、「答弁書」において理事長職務代理者が選任されておりて適法と反論。(8.20)。(『太田元次訴訟関係』総 昭和52年8月)			
	52.8.30 残留理事で構成された再建委員会の活動について、文部省は法務省とも協議した結果「適法」と認めたので、再建委員会は新生理事会を10月7日開催と決定。(『三十年史 通史』239～240p) (『中日』77.8.31)			

国内外事情・医学（療）行政		学校法人（行政・組織）
52.9.1 日本私立医科大学協会は文部省へ改善策報告。	52.9.8 太田元次と再建委員会とは8月末から理事会構成を巡って法的手段で争ったが、愛知県醫師会の斡旋案に双方合意。	
1) 国の補助金大幅拡大 2) 授業料、入学金等要当な増額 3) 臨時支出は学納金、学費で充当 4) 特別学納金（従来の寄附金）は入学後任意で募集 5) 銀行ローン等を積極的に配慮 6) 入学者選抜が公正確実のため共通一試験への参加等、入試方法の積極的検討。（『朝日』77.9.1）	1) 太田元次は妨害排除の処分申請を取下げる 2) 太田元次推薦理事については推薦候補に過ぎないと認められ 3) 昭英高校の付属問題は、入試に際して他の高校と同一に扱うとした 50.5.30理事会決議を確認 4) 再建委員会は太田元次を創設功労者として選出。（『朝日』77.9.9）	
52.9.7 文部省、入学料寄付金の52年度調査結果を、入学者1人当たり寄附平均額は2,029万円と公表。（『中日』77.9.8）	52.9.11 父兄会臨時総会を開かれ、再建へ積極的な役割を果たすと会則を改め、会名も「愛知医科大学父兄後援会」と改称。（『朝日』77.9.12夕）	
52.9.8 私立医大協は既設12校新設10校について昭和53年度の収支見込み（次表）を算出。	52.9.13 遠藤謙の呼び出しに応じて、湖南学園池戸理事と館法人本部長がナゴヤ・キッズルへ赴くと、遠藤らは客室に二人を誘導。赤軍の資金調達のためだと称し、計2億8千百万円の大量を強奪した。（名古屋地方裁判所「記録」昭和54年（わ）第386号）	
1校平均額 既設 新設 収入見込 24億円 22 支出合計 40 42 赤字 16 20 (『朝日』77.9.9)	52.9.10 山本理事長職務代理は公文書で文部省管理局長宛てに「学校法人愛心会の寄付行為等の解釈について」理事総数とは定員が現員か等照会。（『三十一年史』通史 239p）（法発第42号附則と52.9.10 愛心会理事長職務代理山本愛心会管理局長大丸直充照会文書）	
52.9.13 参議院文教委員会で社会宮之原貞光は、十分な財政措置をせずに設立しようとする愛知医科大学等を認可したため、巨額な寄付金や裏口入学金を誘発したのではないか、と厳しく追求。これに対し文部省は、50年度から認可基準を改め更に厳しくするため私大審で検討などと答えた。（第81回国会文教委員会第1号）（『朝日』77.9.13夕）	52.10.7 残留理事現員6名による変則の理事会が再開。理事総数6名（山本、森、岩田、川瀬、佐治、佐々木（のみ委任状）により新理事4名（多湖寛夫、岩瀬繁一、北岡健二、荒木義久）選任、理事総数10名となり全員出席すれば理事会成立可能となる。（52『理議』第3回）	
S. 62	52.10.8 多湖理事を理事長に、山本理事を副理事長、理事長職務代理に選任。学長候補に教授会から岡田博、田内久、山本馨の3人が推薦され、各大学部長経験者の田内教授を学長に選任、同日付就任。 「学校法人愛心会」を「学校法人愛知医科大学」に変更を承認。（52『理議』第4回） 「学校法人愛心会」を「学校法人愛知医科大学」に変更を承認。（52『理議』第4回）	
理事会後、多湖理事長は新方針を表明。1) 氏名をはらすよう全学一丸となる。2) イメージ新ため法人名を「学校法人愛知医科大学」と改称。3) 愛知医科大学附属昭英高等学校の「丁寧」は単なる呼称に過ぎない、入試などを含め他校と同様に扱う。従って同校の預り金で購入された本学の学債11億円は返還する。4) 寄付金額を合否判定に適用させず。（『朝日』77.10.20）	52.10.9 多湖理事を理事長に、山本理事を副理事長、理事長職務代理に選任。学長候補に教授会から岡田博、田内久、山本馨の3人が推薦され、各大学部長経験者の田内教授を学長に選任、同日付就任。 「学校法人愛心会」を「学校法人愛知医科大学」に変更を承認。（52『理議』第4回）	

建設・整備	教 育	診 療
52.9.14 第2看護婦寮（5階建3,064.63m ² ）竣工。（『三十一年史』通史『建物データ表』S.59）		

年 表 S. 63

国内外事情・医学（療）行政		学校法人（行政・組織）
52.10.29 理事に野口圭一、中條宗助、岡田博を選任、理事総数14名となり、理事会体制はほぼ整う。常務理事会設置を承認―理事長、副理事長、学長、常務理事（森、川瀬、佐治、事務局長一。（52『理議』第5回）		
52.12.8 私立医大協昭和53年度学納金一覧表。平均初年度700万円。（『朝日』77.12.9、15夕）	52.12.8 新法人名「学校法人愛知医科大学」を登記。（『三十年史』通史 242p）	
52.9.7 ギルマン（米）、シャリー（米）、ヤロー（米）、脳のペプチドホルモン産生に関する発見でノーベル生理学・医学賞受賞。（内科「年表」81p）	52.12.10 1) 本法人は今年度、国、県からの補助金を辞退 2) 常務理事職務分担 教務担当 田内、財務 川瀬、医務（病院）森、法務 佐治、秘書 岩田、文部省等 北岡 3) 53年度から入学寄付金は不要とするが、入学者学納金は7.1倍計算850万円とし、大学債1口1千円以上で総計10億円確保との見込み。53年度予算案の骨子は、経常費における29億円以上の医療収入と、臨時費における10億円以上の学債収入とであつた。（52『理議』第6回）	
昭和53（1978）年		
総理 大平正芳（昭53.12.7～55.7.17）		
52.2.20 臨時教授会は昭和53年度入試第1次合格者80人を決定。受験者361人、内61人が昭英高校からの受験者であったが、合格者は4人。付属校級への解消を実現。（『朝日』78.2.21夕）	52.12.20 临時教授会は昭和53年度入試第1次合格者80人を決定。受験者361人、内61人が昭英高校からの受験者であったが、合格者は4人。付属校級への解消を実現。（『朝日』78.2.21夕）	
53.2.25 理事会決定。1) 昭英振興会購入の学債11億円返済。2) 医局員宿舎は父兄後援会から本学へ寄付。受け入れ後は学生、看護婦食堂、医局員、待機医師の宿泊場所に当てる。なお、名称は愛知医科大学別館とする。（52『理議』第8回）	53.2.25 父兄後援会の建設した医局員宿舎を寄附採納し、以後「愛知医科大学別館」と改称。（52『理議』第8回）	
昭和53年度、無医大県解消構想に基づき、高知医科大学、佐賀医科大学、大分医科大学開学。（『三十年史』通史 33p）	53.3.18 医学部第1回卒業式。（『二十年史』391p）	
53.4.1 山形安二教授学生部長に就任。基礎科学（数学）教授に神藤哲夫、基礎科学（生物学）教授に河野忠雄就任。（『二十年史』391p）	53.4.22 川瀬理事報告。4月始め昭英振興会代表池戸史朗から学債11億円の返済	

建設・整備	教 育	診 療
52.11.1～4 第4回医大祭、テーマ「明日への前奏曲」。第4回から看護専門学校参加。前夜祭、体育祭、模擬店、映画上映、棒の手等のほか、ロッタコンサート（センメンタル・シティ・ロマンス）。（第4回医大祭パンフ）		
53.2.25 父兄後援会の建設した医局員宿舎を寄附採納し、以後「愛知医科大学別館」と改称。（52『理議』第8回）		
53.3.18 医学部第1回卒業式。（『二十年史』391p）		
53.4.1 学則改正（53年度入学生から学納金の額改定）。（53～62）		
53.4.月 「革命的」なX線CT導入。（『三十年史』部局史 327p）		
52年度末、診療科13、診療科人員数60（教授18、助教授13、講師29）。外来患者数概数450（人/日）、入院患者数概数300。52年度、帰属収入約50億円、医療収入比48.19%。（『三十年史』通史 151～152p）		
53.1月 電算機本体が高千穂パロードB1724にグレードアップされ、全診療科、各「部」から处方箇数伝票を中央受付に集約、人力にて会計事務や各種データを蓄積出力するシステムが稼働予定となった。（『電算化週報』第1～16）		
53.1月 電算機本体が高千穂パロードB1724にグレードアップされ、全診療科、各「部」から处方箇数伝票を中央受付に集約、人力にて会計事務や各種データを蓄積出力するシステムが稼働予定となった。（『電算化週報』第1～16）		
53.3.18 医学部第1回卒業式。（『二十年史』391p）		
53.4.1 学則改正（53年度入学生から学納金の額改定）。（53～62）		
53.4.月 「革命的」なX線CT導入。（『三十年史』部局史 327p）		

年 表 S. 64

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療	
	<p>要求あり。その際本学と昭英振興会との間の信託・債務は学債11億円のみとの確認書を取り交わした。また利息が1億円であることも確認したので、4月15日に6億円、同月28日に残金5億円と利息1億円を返済した。</p> <p>太田元次から寄付された土地は、太田元次の功績に対する処遇として本人に贈与することを承認。(53『理議』第1回)</p> <p>53.5.1 林活次教授、中央臨床検査部長就任。(『二十年史』391p)</p> <p>53.6.1 法人本部を廃し、業務を大学事務局へ移管。(『二十年史』391p)</p> <p>53.7.3 守山十全病院敷地内の本学所有部分の新賃貸借契約(1ヶ月75万円、5年間)を香流会との間で交わすことを承認。(53『理議』第3回)</p> <p>大学院設置必要条件最低30講座に未だ講座不足なので内科系講座1講座増を承認。(53『理議』第3回)</p> <p>53.8.12 日中平和友好条約調印。(岩波『年表』524p)</p> <p>53.9.1 産婦人科学講座教授に中西正美昇任。(『二十年史』391p)</p> <p>53.11.1 管理職規則、就業規則、職員給与、診療手当等の改正・是正によって諸規定不備の整理を承認。</p> <p>議案「大学勤務の申請について」提案。(53『理議』第4回)</p> <p>53.11.30 大学院の54年度充足を目指し「学校法人寄附行為変更認可申請書」を文部省に申請。変更点は第4条第1項の「愛知医科大学 大学院医学研究科」と付加した点。(『三十年史 通史』262p)</p> <p>53.12.16 内科学第4講座誕生、神経内科と内分泌内科を担当。教授に高橋昭吾就任。(『二十年史』391p) 開講座数30に達し、大学院設置要件の一つを満たした。</p> <p>この時点で、臨床系講座は内科学第1、第2、第3、第4、精神科学、小児科学、外科学第1、第2、整形外科学、脳神経外科学、眼科学、皮膚科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学、産婦人科学、麻酔学の17講座。(『三十年史 通史』262、272～273、322p)</p> <p>53. ネイサンズ（米）、スミス（米）、アルバー（スイス）、制限酵素の発見と分子遺伝学への応用によりノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』『年表』83p)</p>		<p>53.7.3 救命救急センター設置計画—53.5.31付一(UCU10床、HCU20床、1,628m²)を承認。(53『理議』第3回)</p>	<p>53.7.1 不老会（献体団体）と提携。(不老会ホームページ)</p>	
			<p>53.11.1～4 第5回医大祭、テーマ「躍べー果てしない空の彼方へ」 前夜祭、体育祭、模擬店、映画上映、棒の手等のほか、コンサート（宇崎竜童 タクン・タクン・ブギ・ウギ・バンド）。(第5回医大祭パンフ)</p>	<p>53.10.1 薬剤部、早崎孝則の専任部長着任により「部」として確立。(『三十年史 部局史』378p)</p>	
					
昭和54（1979）年					
54.1.13 国立大学入試の共通一次学力試験初めて実施。(岩波『年表』529p)	<p>54.1.1 放射線医学講座教授に綾川良雄就任。(『二十年史』391p)</p> <p>54.1.20 特別職（学長・附属病院長・事務局長）の任期規程（3年）承認。(53『理議』第5回)</p>				
S. 66				年 表 S. 67	

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療
	<p>54.2.24 第1次募集では昭英高校の合格者5名。(『朝日』79.7.24)</p> <p>54.3.13 午前9時50分、東京で遠藤隆に逮捕状執行。(『朝日』79.3.13夕)</p> <p>54.4.1 附属図書館長に岡田博、教務部長に鈴村昭弘の各教授が就任。公衆衛生学講座教授に加藤孝之就任。(『二十年史』391p)</p> <p>54.4.29 岩田正一事務局長死去。(『二十年史』391p)</p> <p>54.5.26 決算 1) 収入 108.7億円 8.2億円増収（医療収入67億円等、病床129増） 2) 支出 108.7億円 予算外の救急センター建設費支可能。 本年度改めて大学院設置申請。(54『理議』第1回)</p> <p>54.8.11 理理会承認事項。名古屋大学附属病院分院跡地を日本住宅公团と相乗りで取得する方針、施設費は住宅公团へ15年の年賦（土地代3.8億円、建物53.5億円等計131.5億円）、中央棟（建設費概算37.6億円設備費4）、分院建設等の資金調達のため公的金融機関から18億円新規借入等々。(54『理議』第2回)</p> <p>54.9.7 名古屋地方裁判所、3億円強奪主犯遠藤隆（仮名）に懲役13年の判決。(名古屋地方裁判所記録) 昭和54年（カ）第386号。(『三十年史 通史』234p)</p>	<p>54.3.28 救命救急センター4階建、2,762.60 m²竣工。(『三十年史 通史』「建物データ表」S.59)</p> <p>54.4.1 中央棟建設本部設置要綱制定。(54-71の3)</p> <p>54.4.4 教養棟に下級生を200人程度収容できる第7講義室400.16 m²増設。(『三十年史 通史』「建物データ表」S.58)</p>		<p>53年度、本附属病院の看護婦総数は337人。昭和42年に日本看護協会の算出した必要看護婦数（看護婦1人に対応病床数2.5床によれば本院は327.6人）をようやく凌駕。(『三十年史 通史』158～159p)</p> <p>53年度、帰属収入約66億円、医療収入比56.9%。(『三十年史 通史』285p)</p> <p>54.5月 第1内科腎臓グループは中核施設として腎センターを稼働させた。部長は内科学第1講座教授澤木脩二。透析ベッド10床程。(『学報』第8号) p.</p> <p>54.7.1 厚生省「救急医療対策事業実施要綱」に基づき愛知県下第1号となる救命救急センターを附属病院に開設。(『二十年史』391p) 同センターはとりあえずICU6床のみで発足（HCU、HCUとも段階的に増床され、58年度、ICU10床、HCU20床となる）。センター部長は麻酔学教授佐野好昭の兼任、副部長は内科学第3講座助教授小林正、外科学第2講座助教授中井亮雄、麻酔学講座助教授野口宏。(『三十年史 部局史』342～343p)</p>
			<p>54.10.31～11.3 第6回医大祭、テーマ「暁光」前夜祭、体育祭、模擬店、映画上映、健康相談、棒の手等のほか、コンサート（TAKE OFF '80）。(第6回医大祭パンフ)</p>	<p>年 表 S. 69</p>
S. 68				

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療																				
	<p>54.11.1 病理学第1講座教授に伊藤元昇任。(『二十年史』391p)</p> <p>54.12.27 名古屋地検は、「3億円強奪事件」から派生した太田元次、池戸史朗、波木一男に対する容疑（11億円融資、1億2千万円の裏寄付金、3千数百万円横領）についていずれも嫌疑不十分で不起訴処分とした。11億円融資疑惑：湖海空港購入借11億円、利子1億円は53.4.15、4.28返済。1億2千万円の裏寄付金疑惑：名古屋国税局が大学側の責任否認。3千数百万円横領疑惑：警察の預かり金用意が自白強要に基づくと判明し崩壊。(太田『続・回顧録』125p) (53「理識」第1回) (『朝日』79.12.28ダ)</p> <p>54. ハウンズフィールド（英）、コマツク（米）、コンピュータを用いたX線断層技術の開発によりノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』「年表」83p)</p>																							
昭和55（1980）年	<p>55.1.16 鬼山信一事務局長就任。(『二十年史』392p)</p> <p>55.2.1 産婦人科学講座教授に石原実就任。(『二十年史』392p)</p> <p>55.3.26 大学院医学研究科の設置が認可され、昭和55年度大学院発足の運びとなった。(1~3 留意事項、4~5略)。 1. 大学院入学者の選抜は適格者を厳選 2. 学部における留年者に対し有効・適切に教育、指導 3. 附属病院病床の増床、診療活動を活性化。(『三十年史・通史』270p)</p> <p>55.4.1 竹谷和規教授、学生部長就任。小児科学講座教授に藤本孟男、外科学第2講座教授に土岡弘通就任。(『二十年史』392p)</p> <p>55.5.22 高松宮宣仁殿下、同妃殿下本学視察。附属病院玄関前に松を記念植樹。(『学報』第1号2p)</p>	<p>55.2.20 「大学院設置認可申請書（補正）」を申請し、大学院設置構想の基本を敷衍。同年2.26、私大審査地調査。</p> <p>基本方針：課程は博士課程。修業年限4年（標準）。学位授与（課程博士、論文博士）。臨床系については卒後2年を経てからの人間が望ましい。</p> <table border="0"> <tr><td>専攻</td><td>入学定員</td><td>総定員</td></tr> <tr><td>生理系専攻</td><td>6人</td><td>24人</td></tr> <tr><td>病理系専攻</td><td>4</td><td>16</td></tr> <tr><td>社会医学系専攻</td><td>3</td><td>12</td></tr> <tr><td>内科系専攻</td><td>8</td><td>32</td></tr> <tr><td>外科系専攻</td><td>9</td><td>36</td></tr> <tr><td>計</td><td>30</td><td>120</td></tr> </table> <p>(『三十年史・通史』263、270p)</p> <p>55.3月 病院中央棟（後、C病棟）建設工事着工。(『学報』第1号6~7p)</p>	専攻	入学定員	総定員	生理系専攻	6人	24人	病理系専攻	4	16	社会医学系専攻	3	12	内科系専攻	8	32	外科系専攻	9	36	計	30	120	<p>55.3月 54年度、帰属収入約79億円、医療収入比61.3%。(『三十年史・通史』285p)</p> <p>55.4月 リハビリテーション部に工学部門設置。(『三十年史・部局史』337p) 救急救急センターにHCU20床を増床。(『三十年史・通史』279p)</p>
専攻	入学定員	総定員																						
生理系専攻	6人	24人																						
病理系専攻	4	16																						
社会医学系専攻	3	12																						
内科系専攻	8	32																						
外科系専攻	9	36																						
計	30	120																						
S.70			年 表 S.71																					

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療
	<p>55.6.30 鬼山信一事務局長退任。(『二十年史』382p)</p> <p>55.7.1 石川二郎事務局長就任。(『学報』第1号15p)</p> <p>55.8.22 海外研修派遣規程制定。(55-10)</p> <p>55.9.9 イラン・イラク両軍交戦、全面戦争に拡大。(岩波『年表』539p)</p> <p>55.9.6 学長及び病院長の任用規程制定。(55-15, 17)</p> <p>55.11.2 愛知医科大学同窓会会則制定、設立。(『三十年史・部局史』554p)</p> <p>55.12.1 『愛知医科大学 学報』創刊(季刊)。(同『学報』第1号)</p>		<p>55.6.4 大学院第1回入学式。大学院第1回生10名入学。(『二十年史』392p) 定員充足率33.3%、(充足率が半ばを超えたのは5年後、昭和年代末には66.6%に達した)。</p> <p>55.8.22 大学院研究生規程制定。(55-12)</p> <p>55.9.29 大学院改正(56年入学生から学納金の額改定)。(55-22)</p> <p>55.10.30 ~ 11.2 第7回医大祭、テーマ「すこやか」。前夜祭、体育祭、模擬店、映画上映、無料診療所、棒の手等のほか、講演(水野晴郎「エデンの東」を語る)、チーズレッスン(西尾茂之プロ)。(第7回医大祭パンフ)</p> <p>55.11.10 学生の生活指導を目的に、字北山の元第1看護婦寮(6階建)を改修して、「橋寮」を開設。学生寮室33、宿泊室2、会議室2。(『学報』第1号10~11p)</p>	<p>55.3月 55年度、帰属収入約92億円、医療収入比60.2%。(『三十年史・通史』285p)</p> <p>55.4月 リハビリテーション部に言語療法部門設置。(『三十年史・部局史』337p)</p>
昭和56（1981）年	<p>56.3.1 創立10周年記念事業委員会規程制定。(55-27)</p> <p>56.3.12 廃棄物処理に関する規程施行。(愛知医科大学規則集)</p> <p>56.4.1 桜江勇教授教務部長に就任。(『二十年史』392p)</p> <p>56.4.23 情報処理センター設置。HITAC M-160導入、CAI (Computer Assisted Instruction) 端末等設置の中型汎用電算機、10月稼働目標。(『学報』第3号12~13p、第4号4p)</p> <p>56.5.14 加藤孝之教授情報処理センター長就任。(『学報』第4号12p)</p> <p>56.6.5 エイズ(後天性免疫不全症候群)初めて米国から報告、7月に命名。(岩波『ノーベル賞ゲーム』142p)</p> <p>56.8.29 情報処理センター規程施行。(『学報』第4号12p)</p>	<p>56.3.25 ~ 5.27 看護専門学校707.37m²増設。教室2(@50席)、視聴覚室1(110席)、教務事務室1。(『三十年史・通史』「建物データ表」559)</p>	<p>50年代前半、留学生数の増大、医師国家試験成績の低迷に象徴される本学の教育状況に教員の全てが危機意識を抱き、教育改革に腐心していた。半ばの56~57年度に掛けては、教育方法、カリキュラム内容、試験制度全般に関して大幅な改革が実行された。</p> <p>まことに56年度からは、2泊3日の新入生ガイダンスが実施された。(『三十年史・通史』254~256p)</p> <p>56.4月 看護専門学校、昭和56年度より、定員30名から50名に増員。(『二十年史』392p)</p>	
S.72			年 表 S.73	

国内外事情・医学（療）行政

学校法人（行政・組織）

56.10.19 福井謙一京都大学教授、フロンティア電子理論によりノーベル化学賞受賞。(岩波『年表』543p)

56.11.18 就業規則改正、定年規程（教授、助教授65歳、以外60歳）に関する規程施行。(『学報』第6号18p)

56. スペリー（米）、大脳半球の機能分化に関する研究によりノーベル生理学・医学賞受賞。

ヒューバル（米）、ウィーセル（スウェーデン）、大脳皮質視覚野における情報処理に関する研究によりノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』『年表』85p)

昭和57（1982）年

総理 中曾根康弘(昭57.11.27～62.11.6)
57.2.9 日航機羽田空港前に墜落。機長を精神鑑定留置。(岩波『年表』546p)

57.2～4月 創立十周年記念事業の骨子固まる。

1. 愛知医科大学十年誌の刊行 2. 十周年記念映画の作成 3. 十周年記念大学歌の作成 4. 校旗制定 5. 体育館（兼講堂）の建設 6. 図書館の拡充 7. 医科系研究所の創設 8. 記念式典並びに開運行事。(『学報』第6号15p)

57.3.27 永年勤務者表彰規程制定。(56-22)

特任教員に関する規程制定。(56-23)

57.3.31 田内久、学長退任。(『学報』第7号18p)

『愛知医科大学十年誌』刊行。(同『十年誌』)

57.4.1 岡田博教授、学長就任、図書館長に小川徳雄、学生部長に武藤浩の各教授が就任、皮膚科学講座教授に佐々田健四郎が就任。(『二十年史』393p)

建設・整備

教 育

診 療

56.10.30～11.2 第8回医大祭、テーマ「鳴動」。前夜祭、体育祭、模擬店、映画上映、演武会、棒の手等のほか、コンサート（D. KOSHIBA & ELEPHANTS）。(第8回医大祭パンフ)



56.12.16 中央棟（後、C病棟）
11階建17,213.80 m²竣工。
外観デザインはA・B病棟
と酷似。(『三十年史 通史』
「建物データ表」S.58)

57.2.22 体育館建設工事地
鎮祭。(『学報』第6号13p)

57.2月 創立十周年記念事業の一環として、「大学歌」が完成。作詩は詩人中村千衆、作曲を愛知県立芸術大学音楽部長石井英教授。(『学報』第6号1p)

57年度から以下4原則に基づく三学期学年制新カリキュラム実施。1) 三学期学年制を導入、頻繁に進級試験を実施し、留学生の減少を図る 2) 一般教育の単位縮小 3) 基礎教育に専門教育を直結する基礎教育科目を創設、また、教養セミナーと学生の多くの高校時に履修しなかった理科目を開講。その他、早期体験実習、コンピュータシステム、チーナー制度、医学教育ワークショップ等実施。(『三十年史 通史』254～256p)

57.4.1 大学学則改正（57年度入学から3学期制導入、入学検定料の改定）。(56-24, 57-3)

56.11月 医事電算化用にパローラスB1955採用、患者情報等のデータベース化を図る。(『学報』第35号9p)

56.12.16 中央棟（後、C病棟と呼称）竣工に伴い、4～8階は病棟、9～11階は医局、3階は管理部門、2階は厨房、1階は講堂、地下階は機械室が配された。病床数は計1,012床となりようやく目標の千床を超えた。(『三十年史 部局史』249p)

57.2～3月 2月、新築された中央棟（後、C病棟と呼称）に研究室、医局・事務局及び管理部門が移転、3月上旬、関係病棟が移転。(『学報』第6号14, 25-27p)

57.3月 56年度、帰属収入約102億円、医療収入比59.2%。(『三十年史 通史』285p)

56年度、許可病床815床、看護単位16、看護部長1、次長3、婦長12、主任12、看護職員465人。(『二十年史』293p)

国内外事情・医学（療）行政

学校法人（行政・組織）

57.5.8 愛知医科大学創立十周年記念前夜祭（高松宮宣仁殿下歓迎饗宴会）。理事・評議員・学長・教授・助教授等学内外関係者、及び各々の夫人等参加。(『三十年史 通史』288～289p)

57.5.9 愛知医科大学創立十周年記念式典挙行。高松宮宣仁殿下、愛知県知事、文部省・厚生省事務官等200余名列席。午後3時半より教職員による祝賀会も催され、共々、開學以来の辛苦を乗り越えた喜びに浸った。(『三十年史 通史』288～289p)

57.6.23 大宮～感謝間東北新幹線、11.15 大宮～新潟間上越新幹線開業。(岩波『年表』548p)

57.6.10 山本馨副理事長、附属病院長を始め全ての職を辞任。(『学報』第8号2p)

57.6.11 澤木信二教授が附属病院長と看護専門校校長とを代行。(『学報』第7号2p)

57.7.18 菅原謙教授附属病院長及び看護専門校校長就任。(『二十年史』393p)

57. ベリストローム（スウェーデン）、サミュエルソン（スウェーデン）、ヴィエン（英）、プロスタグランジンの発見とその研究によりノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』『年表』85p)

アルシナー（米）、クロイツフェルト・ヤコブ病などの感染因として「ブリオン」を提唱。後、1997年、ノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』『年表』84, 97p)

昭和58（1983）年

58.1.20 愛知県知事仲谷義明、日本船舶振興会会長笹川良一を理事に選任。(57『理議』第4回)

58.2.16 笹川良一理事・来学。入院患者見舞い後、記者会見。(『三十年史 通史』287p)

58.3.24 中国自動車道（吹田～下関）全通。(岩波『年表』552p)

建設・整備

教 育

診 療

57.5.7～8 学生による愛知医科大学創立十周年記念祭。(『三十年史 通史』288～289p)

57.5月 救命救急センターに循環器X線診断システム導入。(『三十年史 部局史』253～254p)

57.6.10.23 第1回医学教育ワークショップ開催。(『学報』第8号5p)

57.6.1 各診療科で当直制度実施（眼科、皮膚科、放射線科、麻酔科は除く）。(『学報』第7号30p)

57.10.30～11.2 第9回医大祭、テーマ「新世紀宣言」前夜祭、体育祭、模擬店、映画上映、棒の手等のほか、講演（渡辺洋一「医学と文学」、コンサート（早見優）。(第9回医大祭パンフ)

57.7.12 腎センター、玄関（3階）右横に1.8倍に面積拡張、18床に増床され移転。(『学報』第8号9～10p)

57.11.17 十周年記念事業の一つ体育館4階建6,131.82 m²が竣工。1階駐車場、2～3階は吹き抜けのアリーナと称する講堂、兼各種競技用室内コート、3階は観覧席及び武道場、4階機械室。(『三十年史 通史』「建物データ表」S.59)

57.11.23 体育館施設管理運営規程制定。(57-14)

57.10.14 病棟玄関（3階）エスカレーター横に現金自動支払機を設置。(『学報』第9号13p)



58.3月 新CT装置CF/8800試用開始。(『学報』第10号29p)「診療活動の充実・強化に関するプロジェクトチーム」発足。当面の問題点 1) 診療充実 2) 看護婦充実 3) 関連病院。(『三十年史 部局史』254p)

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療
58.3.20 モンタニエ（仏）、エイズウイルス発見、レトロウイルスと報告。（岩波『ノーベル賞ゲーム』150p）				
	58.4.1 附属図書館規程制定。附属図書館長に野竹邦弘、教務部長に土岡弘通の各教授就任、加賀医科学研究所暫定規程制定、設置。初代所長に田内久教授就任。（『二十年史』394p）	58.4.6 名古屋大学医学部附属病院分院跡（名古屋市東区東桜二丁目）に東桜スカイハイツ竣工。その地下1階、地上1、2階2,714.63m ² に本学メディカルクリニック施設を包含。（『三十年史 通史』280～281p、「建物データ表」S.61）	58.4.1 大学則改正（在学期間同学年で3年、休学は2年、再・転・編入学）。（『二十年史』394p）	57年度の外来患者数は約27万人、入院患者数は約25万人。救急患者数8千人台。帰属収入約120億円、医療収入約61.8%。（『三十年史 通史』280, 285p、「附属病院関係諸統計表」S.65, 69）
58.5.25 医学及び歯学の教育のための文献に関する法律公布。（『厚生年表』1446p）	58.5.26 メディカルクリニック開設式挙行。（『二十年史』394p）			58.5.28 附属病院（暫定）規程廃止、附属病院規程施行、メディカルクリニック規程施行。（『二十年史』394p）
58.7.11 エイズ疑患者死亡が発表される（「薬害エイズ」の端緒）。（厚生省は否定）日本初の症例。（『朝日クロニクル 1983』36p）	58.7.1 基礎科学（英語）教授に加藤剛が昇任。（『二十年史』394p） 58.7.20 法人諸規則の改廃整理規程施行（旧法人名、旧組織名の整理）。（『二十年史』394p）	58.8.25 三角哲生前文部事務次官、本学で「これから私立医科大学について」講演。（『学報』第12号11p）	58.9.8 教学関係諸規程改正（旧規程の改廃整理）。（S.8-14）	58.6月 病院「プロジェクトチーム」理事会に対し「関連病院に関する問題」答申。（『三十年史 部局史』254p） 58.6月 メディカルクリニック、医療事務オンライン化開始。（『学報』第35号9p） 58.6.1 メディカルクリニック診療開始。脊柱炎、医療法上は内科、精神科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リウマチ科の10診療科で、二次、三次医療に徹することとなる。（『三十年史 通史』281p）
				58.9.14 附属病院管理委員会規程施行。（『二十年史』394p）

S.78

年 表 S.79

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療
	58.10.1～6 昭和58年度職員（非教員）海外研修旅行。団長丹羽滋郎教授以下18名。行き先、北京、南京、上海。（『学報』第12号12p, 13号12～13p）			58.10.1 歯科・口腔外科（山田史郎教授）の診療科開設。（『二十年史』261p） 58.10.5 看護婦対策プロジェクトチーム「看護婦対策に関する件」を理事会に対し答申。「従来は看護策に終始……58年9月現在、正看護婦61.2%、准看護婦39.8%」と指摘。「昭和60年4月以降、看護専門学校の現課程より年課程全自動に変更」を要請。（『三十年史 通史』337～338p）
58. マクリントック（米）、可動遺伝因子の発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。（『内科学』『年表』87p）	58.12月 日本私立大学振興会に加盟（『学報』14号21p） 58.12.21 動物実験施設規程施行。中動物、小動物各種の飼育施設を統合して、動物実験施設を設置、初代同施設長に金子清俊教授就任。（『学報』第13号4p）		58.11.2～5 第10回医大祭、テーマ「無限」。前夜祭、体育祭、模擬店、映画上映、棒の手等のほか、講演（などいなだ「医療今昔」あるいは「医者人生」）、コンサート（ザスクエア）。（第10回医大祭パンフ）	58.10.10 歯科・口腔外科（山田史郎教授）の診療科開設。（『二十年史』261p） 58.10.15 看護婦対策プロジェクトチーム「看護婦対策に関する件」を理事会に対し答申。「従来は看護策に終始……58年9月現在、正看護婦61.2%、准看護婦39.8%」と指摘。「昭和60年4月以降、看護専門学校の現課程より年課程全自動に変更」を要請。（『三十年史 通史』337～338p）
昭和59（1984）年		59.3.1 大学則改正（大学院、看護専門学校、附属病院等附属施設の学則上位置づけ整理）。（『二十年史』395p） 59.3.17 初の大学院卒業式、併せて学位授与式が催され、課程博士（臨床医学系修了者6名）が誕生した。（基礎医学系の課程博士誕生は昭和62年度）。（『三十年史 部局史』395p）	59.1.1 形成外科（青山久助教授）（診療科）を開設。（『三十年史』395p） 59.3月 学長・病院長の下に設けられた病院プロジェクトチームは「診療活動の充実に関する問題」を答申。 1) 4月1日以降、診療受付時間を従来の午前8時～11時から8時～11時30分延長。 2) 病床稼働割合上、特定集中治療病床増床。 3) 夕食時間振り下げ、名医バス乗り入れ、サービスエリア整備等。（『二十年史』245p）	

S.80

年 表 S.81

国内外事情・医学(癡)行政	学校法人(行政・組織)	建設・整備	教育	診療
				58年度、帰属収入約131億円、医療収入比63.1%。(『三十年史通史』285p)
59.4.1 学生部長に加藤剛、看護専門学校長に鈴村昭弘の各教授就任。基礎科学(物理学)教授に大野完が昇任。全日制課程変更予定に伴い看護専門学校長規程施行、就業規則改正(週44時間以内の勤務等)。(『二十年史』395p)	59.5.25 『愛知医科大学規則集』発刊。(『学報』第15号12p)	59.4.1 昭和59年度から入試選抜方法改善。 1. 推薦入学制(推薦依頼制)採用。 2. 試験科目 理科—物理(I・II)、化学(I・II)、生物(I・II)のうちから1科目選択、外国语—英語B又は独語のうちから1英語Bのみ選択、小論文。3. 編入学制度採用。(『学報』第12号2p)	59.5.21 『リハビリテーション部』を作業療法部門設置。(『三十年史部局史』337p)	59.5.25 医事電算化、レセプト院内作成。(『学報』35号9p)
59.6.27 愛知医科大学附属図書館規程、利用規程を施行。(『学報』第16号8p)	59.7.1 基礎科学(数学)教授(特待)に神藤哲夫就任。(『学報』第16号14p)	59.6.1 大学学則改正(入学金改定)。(『学報』第15号10p)	59.6.1 メディカルクリニックが人間ドック、成人病検診、企業定期検査を実施。(『三十年史通史』281p)	59.6.21 『名鉄バス、瀬戸市から本学病院玄関前まで乗り入れ開始』。(『学報』第15号1、13p)
59.7.1 文部省、内部組織要綱(医学部に係る事務を新設の高等教育局私学部に移管)。(『学報』第16号10p)	59.7.1 基礎科学(数学)教授(特待)に神藤哲夫就任。(『学報』第16号14p)	59.7.18 大学学則改正(教技会構成員、審議事項、単位計算法)。(『学報』第16号8p)	59.7.18 大学学則改正(教技会構成員、審議事項、単位計算法)。(『学報』第16号8p)	59.7.21 『愛知医科大学附属図書館規程』(『学報』第16号10p)
59.10.2 健康保険等改正法施行、本人負担10%。(厚生省五十年史 資料編)145p) 大学病院は特定承認保健医療機関となり、自由診療と保険医療の混合診療が可能となる。(『学報』第17号4p)	59.10.16 石川二郎事務局長退職。(『学報』第17号17p) 59.10.17 矢田恒雄、事務局長代理に就任。(『学報』第17号17p) 59.10.17 昭和59年度職員(非教員)海外研修旅行。団長瀧本勲教授以下23名。行き先は上海、北京。(『学報』第16号10p)	59.10.21 ~ 11.3 第11回医大祭、テーマ「新たな旅立へ向って」前夜祭、体育祭、模擬店、映画上映、棒の手等のほか、講演(北山修「歌心と患者の心」)、コンサート(EPO)。(第11回医大祭パンフ)	59.10.31 ~ 11.3 第11回医大祭、テーマ「新たな旅立へ向って」前夜祭、体育祭、模擬店、映画上映、棒の手等のほか、講演(北山修「歌心と患者の心」)、コンサート(EPO)。(第11回医大祭パンフ)	59.9.21 『薬剤部、高カロリー輸液の無菌調製を開始、全国に先駆け、クリーンブース(クラス100)も設置』。(『三十年史 部局史』378p)
S.82		59.11.21 ~ 12.26 病院棟3階薬局待合ホール等292.50m ² 増設。(『三十年史 通史』「建物データ表」S.58)	59.11.8 外国人研究員規程制定。(『二十年史』395p)	59.9.27 救急医療用ヘリコプターの実験フライトを本学直近の日立製作所工場グラウンドを使用して実施。(『学報』第16号20p)
				59.9.27 『救急医療用ヘリコプターの実験フライトを本学直近の日立製作所工場グラウンドを使用して実施』。(『学報』第16号20p)
				年 表 S.83

国内外事情・医学(癡)行政	学校法人(行政・組織)	建設・整備	教育	診療
59. イエルネ(デンマーク)、ケーラー(独)、ミルスタイル(アルゼンチン)、免疫制御機構に関する理論の確立とモノクローナル抗体の作成法の開発によりノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』「年表」87p)	59.12.1 財團法人愛恵会寄附行為制定、同会を病院棟内に設立。(『学報』第17号11p)	60.2.1 看護専門学校の3年課程(全日制)への変更が認可。(『学報』第18号3p)	60.1.9 病院棟3階玄関ホール西側を改築し、喫茶店、花屋、書店を開設。また、1階の売店をも拡張。(『学報』第18号1p)	
昭和60(1985)年		60.3月 初の論文博士3名誕生。(『学報』第19号14p)	59.3月 初の論文博士3名誕生。(『学報』第19号14p)	
60.3.14 上野～盛岡間新幹線全通。(岩波『年表』564p)	60.3.31 岡田博学長任期満了退任。(『二十年史』396p)	60.4.1 大学学則改正(カリキュラム改正—一般教育の単位数縮小、基礎教育科目の選択幅拡大)、看護専門学校学則改正(3年課程、全日制に変更、及びそれに伴う学則改正)。(『二十年史』396p)	60.4.1 大学学則改正(カリキュラム改正—一般教育の単位数縮小、基礎教育科目の選択幅拡大)、看護専門学校学則改正(3年課程、全日制に変更、及びそれに伴う学則改正)。(『二十年史』396p)	60.4.1 高度先進医療専門委員会規程施行。(『学報』第19号12p)
60.3.22 厚生省エイズ調査委員会、日本で初の患者1人を確認。(岩波『年表』564p)	60.4.1 学長に田内久、教務部長に小川徳雄、図書館長に大島秀彦、情報処理センター長に宮田伸樹、動物実験施設長に柴田幸雄の各教授が就任。 顧問に関する規程施行。(『二十年史』396p) 病理解剖受託規程の施行。(『学報』第19号12p)	60.5.11 多湖寛夫理事長退去。(『二十年史』396p)	60.5.11 多湖寛夫理事長退去。(『二十年史』396p)	60.5.11 多湖寛夫理事長退去。(『二十年史』396p)
60.4.1 週休2日制(4週5休方式)実施要項制定、実施。(『二十年史』396p)	60.6.10 仲谷義明理事が理事長就任。(『二十年史』396p)	60.6.2 週休2日制(4週5休方式)実施要項制定、実施。(『二十年史』396p)	60.6.2 週休2日制(4週5休方式)実施要項制定、実施。(『二十年史』396p)	60.6.2 週休2日制(4週5休方式)実施要項制定、実施。(『二十年史』396p)
60.7.1 内科学第4講座教授に満開照典が昇任。 総務委員会規程施行。(『二十年史』396p)	60.7.17 大学学則改正(再入学等の資格、時期を整理)、看護専門学校学則改定(入学検定料改訂)。(『二十年史』396p)	60.7.17 大学学則改正(再入学等の資格、時期を整理)、看護専門学校学則改定(入学検定料改訂)。(『二十年史』396p)	60.7.17 大学学則改正(再入学等の資格、時期を整理)、看護専門学校学則改定(入学検定料改訂)。(『二十年史』396p)	60.7.17 大学学則改正(再入学等の資格、時期を整理)、看護専門学校学則改定(入学検定料改訂)。(『二十年史』396p)
60.10.2 関越(東京～新潟間)自動車道全通。(岩波『年表』568p)	60.10.21 ~ 26 昭和60年度職員(非教員)海外研修旅行。団長小川徳雄教授以下23名。行き先、上海、北京。(『学報』第20号9p)	60.10.16 病院棟1階エレベータホール西北端に65.22m ² 増築。(『三十年史 通史』「建物データ表」S.58)	60.9.18 就業規則改正(教員の学外研修制度を規程化)。(『二十年史』396p)	60.11.1 ~ 4 第12回医大祭、テーマ「A TURNING POINT 転換期」前夜祭、体育祭、模擬店、映画上映、無料健康診断、棒の手等
	60.11.9 看護専門学校創立10周年記念式典挙行。(『学報』第21号2p) 『愛知医科大学看護専門学校創立10周年記念誌』刊行。(同『記念誌』)	60.11.11.4 ~ 4 第12回医大祭、テーマ「A TURNING POINT 転換期」前夜祭、体育祭、模擬店、映画上映、無料健康診断、棒の手等		60.11.1 病院棟1階エレベータホール65.22m ² 増築箇所に自販機コーナー(14機)開設。(『学報』
	60.11.14 倫理委員会規程施行。(『二十年史』396p)			
S.84				年 表 S.85

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療
	60.11.16 鈴村昭弘教授、加齢医科学研究所長就任。(『二十年史』396p)			のほか、講演(岡部冬彦「この頃、思うこと」)、コンサート(葛城ユキ)。(第12回医大祭パンフ)
昭和61（1986）年	61.1.9 視聴覚教材センター暫定規程制定、設置。(『二十年史』397p) (60-35)		61.2.18 学長諮問機関として国試対策協議会設置。(60-38)	60.11.19 病院棟1階エレベーターホール西北に隣接して売店を拡充。(『学報』第21号14p)
61.4.26 ソ連チエルノブイリ原子力発電所爆発。(岩波『年表』571p)	61.4.1 看護専門校長に岩田金治郎教授就任。(『二十年史』397p) 61.4.1 客員教授規程、嘱託規程、特定研究費取扱要項(共同研究対象、1件500万円以内)施行。(『二十年史』397p)			61.1月 特定承認保険医療機関の承認を得、高度先進医療として内耳窓閉鎖術が承認された。(『三十年史 部局史』285p)
	61.5.16 附属病院中央臨床検査部教授に富田明夫就任。(『二十年史』397p) 61.5.22 学術国際交流委員会設置。(『二十年史』397p) 61.5.28 大学学則改正(定年規程改正、特待教授及び勤務延長の両制度を廃止)。(『二十年史』397p)			61.3月 60年度、帰属収入約165億円、医療収入比64.4%。(『三十年史 通史』265p)
	61.7.1 加齢医科学研究所長に瀬川昭夫教授就任。(『二十年史』397p) 61.7.16 眼科学講座教授(特任)に西田洋藏が昇任。(『二十年史』397p)			61.5.16 病院玄関ホールの初診受付横に、患者・職員用の簡易郵便局を開局。(『学報』第23号11p)
	61.9.22～27 昭和61年度職員(非教員)海外研修旅行。団長仲谷義明理事長以下26名。行き先、北京、長春、瀋陽。(『学報』第24号10p)			61.6.2 富士通FACON M340 (8MB)導入、医事電算システム稼働。 1) 外来・入院会計 2) 初診、入退院受付等。(『学報』第24号16～17p)
	61.10.9 キャンパス計画検討を目的として施設委員会規程施行。(『学報』第25号10p)			61.7.14 前年度5位以内の成績優秀な学生に対する学納金減免制度導入。(『学報』第24号5p) 61.7.21～8.17 第38回西日本医科大学生総合体育大会開催。主旨校・滋賀医科大学。(『学報』第23号34p)
S.86				61.10.31～11.3 第13回医大祭、テーマ「爆笑 爆発 爆風」。前夜祭、体育祭、模擬店、ビデオ上映、医展・健康フェック、棒の手等のほか、講演(野坂昭如)、コンサート(爆風スランプ)。(第
				年 表 S.87

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療
			13回医大祭パンフ	
61.12.4 日本国鉄道分割・民営化関連8法公布。(岩波『年表』574p) 61.12. 英国で牛海綿状脳症(BSE)発見。後、大衆は「狂牛病」と呼ぶ。(中村靖彦『狂牛病』(岩波新書)9p)	61.12.10 教養棟横に学生クラブハウス3階建1,152.74m ² を建設。クラブ室28、会議室1。(『学報』第26号12p)			61.11.5 病棟3号棟(後、D病棟)8階建て計画が成案を得、本附屬病院の増床(延計1,271床)を愛知県に申請、許可を得た。(『学報』第25号3、17p)
昭和62（1987）年 総理 竹下登。(昭62.11.6～平元.6.3)	62.4.1 図書館長に竹谷と視教授、教務部長に瀧本勲教授が就任。動物実験施設長に金子清俊教授就任。(『二十年史』398p) 産業医規定施行。(『学報』第25号19p) 図書管理規程制定。(61-33)	62.4.1 大学学則の一部改正(56年度導入の3学期制が全学年に及ぶに至ったので、63年度から2学期制を廃止)。(『学報』第26号13p) 学校医規程施行。(『学報』第25号19p)	62.4.1 メディカルクリニック規程改正(健康管理科設置)。(『二十年史』398p) カルテ室利用規程施行。(『学報』第27号11p)	62.3月 61年度、帰属収入約173億円、医療収入比65.0%。(『三十年史 通史』285p)
	62.6.1 内科学第1講座教授(特任)に加藤克己が昇任。(『二十年史』398p) 62.7.9 基礎科学協議会規程(基礎科学教員の構成、昇任等の人事を審議し、学長に提議)施行。(『学報』第28号8p)	62.5.14 総務委員長(田内学長)は医学教育改善専門委員会に対し、「大学の医学教育の改善」について諮詢。(『三十年史 通史』259p)	62.7.1 学納金減免制度改正(減免者数5名から30名に拡大)。(『二十年史』398p)	62.4～10月 医事電算化(薬剤、中検試薬在庫管理、給食業務)開始。(『学報』第35号9p)
62.9.7 文部省「医学教育の改善に関する調査研究協力者会議 最終ま		62.8.19 医學教育改善専門委員会は総務委員長(田内学長)(62.5.14付)の諮詢を受け、概略、次のように答申(目次1次)。 1. 基本的知識—医学情報—は教授授業の学生時代より數倍～10倍、医学情報のミニマムを検討し、教材出版物の精選・発行。 2. 基本的技術—態度(略)。 3. 医師国試対策の組織化、直前教育強化、解説講義の徹底化。(『三十年史 通史』259～261p)		62.9.1 感染予防、及び精度管理の2委員会設置。(『二十年史』
S.88				年 表 S.89

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療
とめ」発表。1) カリキュラム（一般教育と専門教育との一貫教育、選択科目制導入）2) 時間数4,200時間（現4,827時間）3) 医学部入学定員10%減等。（『学部百二十年史』415、846p）	62.10.12 利根川進マサチューセッツ工科大学教授、多様な抗体を生成する遺伝的原理を見て日本人初のノーベル生理学・医学賞受賞。（岩波『年表』581p）	62.10.1 運動療育センター規程施行。同センター長に丹羽滋郎教授就任。（『二十年史』398p）	62.11.1～3 第14回医大祭、テーマ「意氣投合」前夜祭、体育祭、模擬店、映画上映、健康チェック、棒の手のほか、ダンスパーティ、コンサート（原田真二）。（第14回医大祭パンフ）	62.11.24 病棟3階の簡易郵便局オンライン化、諸公共料金振り込み可となる。（『学報』第29号11p）
昭和63（1988）年	62.12.31 田内久、教授を辞し学長専任。（『二十年史』398p）	63.1.1 職員の病気休暇制度実施。（『学報』第29号13p）	63.1.14 運動療育センター開所式。	63.2.月 救命急救センター1階に重症熱傷患者治療用の皮膚銀行が設置され、患者本人の皮膚培養拡大、ボランティア提供皮膚の冷凍保存が実施された。（『三十年史 部局史』256p）
63.1.12 日本医師会生命倫理懇談会、脳死を個体死と認め、その段階で臓器移植を可能と報告。（岩波『年表』583p）	63.1.14 運動療育センター開所式。	63.1.14 運動療育センター開所式。	63.3.18 第3号棟（後、D病棟）10階建11,326.03新築工事完成。（『三十年史 通史』「建物データ表」S58）	63.3.月 （愛知県指定）重症熱傷治療ユニット2床をICUに包括。63年度の救命救急患者数1万人次。（『三十年史 通史』280p）
63.3.13 背廊トンネル開通。（岩波『年表』582p）	63.3.14 運動療育センター開所式。	63.3.14 運動療育センター開所式。	63.3.30 総合実験研究棟（加齢医科学研究所、分子医科学研究所、核医学センター、動物実験施設）5階建4,092.06m ² 竣工。（『三十年史 通史』「建物データ表」S60）	63.3.18 第3号棟（後、D病棟と呼称）完成に伴い、4～8階が病棟に当たられ、地域に開かれたオーブンベッド、救命救急センターのバッケッド、熱傷センター、高齢者の難病・悪性新生
S.90				年 表 S.91

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療
63.4.10 濱戸大橋開通。（岩波『年表』582p）	63.4.月 総合実験研究棟竣工に伴い、加齢医科学研究所、分子医科学研究所、核医学センター、動物実験施設の各々が、2階、2階と3階、3階、1階へ移転。（『三十年史 通史』283～284p）	63.4.1 田内久学長、菅原謙病院長再任。核医学センター長に宮田伸樹、研究機器センター長に小川徳雄、分子医科学研究所長に竹谷和親、看護専門学校長に瀬川明夫の各教授が就任。佐藤铁子、加齢医科学研究所教授就任と同時に同所長に就任。野竹邦弘教授学生部長就任。（『学報』第30号6p）大学学則改正（核医学センター規程、研究機器センター規程、分子医科学研究所規程施行、設備。図書館を医学情報センター（図書館）に、動物実験施設を動物実験センターに改称。これに伴って開通規程を大幅に改廃。（『学報』第30号23p）陽田功造、法人事部長就任。（『学報』第30号33p）麻酔学講座を麻酔・救命医学講座に名称変更。（『二十年史』399p）視聴覚教材規程、共同利用研究施設規程、動物実験施設規程、放射線障害予防規程、医科学研究機構規程の各規程施行。（『学報』第30号23～26p）	63.4.1 63年度より学納金の減免措置を改正（従来対象者を前年度成績の上位5名としたが、上位30名に拡大）。（『学報』第28号7p）	63.4.月 病院長の要請により「病院電算化プロジェクト委員会」発足。（『三十年史 通史』286、318p）63.4.月 医事電算化、富士通M340U（メモリー16MB端末49台）採用。（『学報』第35号9p）
63.11.1～6 昭和63年度職員（非教員）海外研修旅行。団長石原実教授以		63.7.13 MRI棟3階建942.94m ² 完成。（『三十年史 通史』「建物データ表」S58）	63.7.22～8.12 第40回西日本医学生総合体育大会を本学が主会場として開催。開会式、名古屋市レインボーホール。会場は愛知、岐阜、三重の3県にわたる。（『学報』第31号7p、第32号8～9p）	63.6.月 医事電算化、看護職員の勤務管理。（『学報』第35号9p）63.6.30 磁気共鳴断層撮影装置（MRI）導入。（『学報』第30号35p）
S.92			63.8.17 本学と中国の白求恩医科大学との学術交流に関する覚書交換が、本学役員会議室で行われた。白求恩医科大学からは劉樹鈴校長、鄭元植教授、趙延外事處副處長、劉志貴外事處科長が、本学からは仲理事長、田内学長、市原国際交流委員長、金子監事、酒井総務部長が列席した。（『学報』第32号2～3p）	63.7.16 「病診連携システム」の実施要綱施行。附属病院と名古屋市医師会関連支部・愛知県下関連医師会との間で提携。地域医師を本院登録医とし、紹介患者の診療について意見交換や、通院治療の継続体制確立が図られた。（『三十年史 通史』286p）（『二十年史』399p）
			63.11.3～5 第15回医大祭、テーマ「視野」	
				年 表 S.93

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療
	<p>下21名。行き先、北京、上海。『学報』第33号18p) 63.11.18 仲谷義明理事長逝去。(『三十年史 通史』298p)</p> <p>63. ブラック（英）、エリオン（米）、ヒッキングス（米）、薬物療法における重要な原理の発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』「年表」91p)</p> <p>昭和64（1989）年1.1～1.7 平成元（1989）年1.8～ 64.1.7 昭和天皇崩御。(岩波『年表』588p) 翌1.8平成と改元。 總理 宇野宗佑（平成1.6.3～1.8.10） 海部俊樹（平成1.8.10～3.11.5）</p> <p>1.3.22 理事会に理事長、同補佐役理事（佐治理事）、学長、附属病院長、事務局長、および常任監事からなる常任理事会設置。法人の監査規程を施行。(『三十年史 通史』298p) (『二十年史』400p)</p> <p>1.3.23 学内LAN敷設のためLAN委員会設置。(『二十年史』400p)</p> <p>1.3.31 矢田恒雄事務局長退職。(『二十年史』400p)</p> <p>平成元年度、医師国家試験出題基準改定。医学・医療総論導入。内科、外科、小児科を医学各論に統合。(『三十年史 通史』394p)</p> <p>1.5.1 小栗隆、内科学第2講座教授に就任。(『二十年史』400p)</p> <p>1.6.4 中国戒厳部隊、北京天安門広場占拠中の学生・市民を戦車等で制圧。(天安門事件)(岩波『年表』589)</p>		<p>360°。前夜祭、スポーツ祭典、模擬店、映画上映、健康チャック、棒の手等のほか、講演（国立公衆衛生院 日野秀造「現在の医療行政について」）、コンサート（Red Warriors）。(第15回医大祭パンフ)</p> <p>63.12.1 附属病院に自動再診受付機新設、中央ホールで外来再診受付システム移行に当たり、63年4月から診療券を磁カード化し、リハーサル4回実施。(『学報』第33号20p)</p> <p>1.1月 本院医事電算化のホスト・コンピュータと専用通信回線で連携するメディカルリニックの健康診断システムを更新。(『学報』第34号29p)</p> <p>1.3月 病院電算化プロジェクト委員会は、<u>当初の電算化は医療情報オーダリングシステムとする</u>と答申。(『三十年史 通史』286p)</p> <p>63年度、外来患者数37万人台、入院患者数32.5万人台。帰属収入約196億円、医療収入比65%。(『三十年史 通史』28、319p)</p> <p>1.4.1 大学、大学院、看護専門学校の各学則改正（人学金等に消費税を転嫁）。</p> <p>大学に公開講座委員会設置。(『二十年史』400p)</p> <p>1.4.27 医療技術短期大学設置検討委員会が発足。(『三十年史 通史』348p)</p> <p>1.5.31 体外式結石破碎装置（ドルニエ MFL5000）臨床治療開始。(『二十年史』400p)</p> <p>1.6月 医事電算化、富士通M760/6（メモリ 32MB）外来10診療科の窓口端末96台設置。(『学報』第35号9p)</p> <p>1.7.12 早期体験実習第1回実施。(『二十年史』400p)</p> <p>1.8.1 看護職員対象育児休業制度導入。(『二十年史』400p)</p>	
S.94				年 表 S.95

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療
	<p>1.10.2 学内ローカル エリア・ネットワーク LAN (AILANS—Aichi Medical University Local Area Network System—)（本体 シャープSS-NET）稼動。情報処理センターのホスト・コンピューターに学内の全パソコンがつながり、ホストを介して学外ネットを広く利用できる体制が整った。(『二十年史』400p) (『学報』第36号2～3p)</p> <p>1.10.16～21 平成元年度職員（非教員）海外研修旅行。団長瀬川昭夫教授以下21名。行き先、シンガポール、バンコク。(『学報』第36号13p)</p> <p>1.11.10 ドイツを東西に隔てるベルリンの壁、市民の取り壊し始まる。(岩波『年表』591p)</p> <p>1.11.22 米ソ両首脳、東西冷戦の終結を表明。(岩波『年表』593p)</p> <p>1. ビショップ（米）、ヴァーマス（米）、レトロウイルスのガン遺伝子が細胞起源であることの発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』「年表」91p)</p> <p>平成2（1990）年</p> <p>2.1.13 第1回大学入試センター試験実施、国公立大学のほか、一部私立大学も参加。(岩波『年表』595p)</p> <p>2.1.24 労働省が運動療育センターを労働者健康保持増進サービス機関と認定。(『二十年史』401p)</p> <p>2.2.13 診療教授に関する規程制定。(『二十年史』401p)</p> <p>2.3.31 菅原謙附属病院定年退職。(『二十年史』401p)</p> <p>2.4.1 附属病院長に山本貞博、学生部長に大野完の両教授が就任。(『二十年史』401p)</p> <p>解剖学第2講座教授に吉田行夫、細菌学講座教授に横地高志、衛生学講座教授に堀部博が就任。形成外科に青山久、救命救急センターに野口宏が各々、診療教授に昇任。(『二十年史』401p)</p> <p>2.5.30 大場恒雄事務局長逝去。(『二十年史』401p)</p> <p>2.6.21 鍋谷正衛、事務局長に就任。(『二十年史』401p)</p>		<p>1.10.1 学生相談室規程制定。(『学報』第36号18p)</p> <p>1.11.6 長久手町井戸町にテニスコート完成。(『二十年史』400p)</p> <p>1.11.16 田内学長、医学教育改善専門委員会に対し、「3学期制」について諮詢。(『三十年史 通史』261p)</p> <p>1.11.2～4 第16回、医大祭、テーマ「ひとりひとりが、みんなになる」。前夜祭、野球・ラグビー・サッカー大会、模擬店、演武会、健康チャック、棒の手等のほか、学内講演会、コンサート（De-LAX）。(第16回医大祭パンフ)</p> <p>1.12.7 田内学長、医学教育改善専門委員会に対し「本学における医学教育の改善について」諮詢（田代第1次）。(『三十年史 通史』375p)</p> <p>2.1.9 医療技術短大設置検討委員会、田内学長宛に「看護短期大学の設置について」答申。(『三十年史 通史』348p)</p> <p>2.4.1 看護専門学校学則の一部改正（平成元年、厚生省の看護師・保健師養成所指定規則中、カリキュラムが看護論をベースにした、いわば大学看護学部志向となつたことに伴い改正）。(『学報』第69号16p) (『三十年史 通史』342～343p)</p>	
S.96				年 表 S.97

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療
	2.7.1 分子医科学研究所第1部門教授に鈴木旺就任。(『二十年史』401p)			
2.10.3 東西両ドイツ、統一。(岩波『年表』59p)	2.10.1 大学学則改正(副学長制導入)。(『二十年史』401p) 2.10.14~19 第9回職員(非教員)海外研修旅行。団長加藤孝之教授以下21名。行き先、北京、上海、天津。(『学報』第40号6p)		2.8.25 平成2年度公開講座(県民大学)実施(初回)。(『二十年史』401p)	2.9.7 本学救命救急センターが愛知県救急医療功労賞を受賞。(『二十年史』401p)
2. マレー(米)、トーマス(米) 腸器および細胞移植による治療研究によりノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』『年表』91p)	2.11.3 田内久学長、鷹二等旭日重光章受章。(『二十年史』401p)			
平成3(1991)年			2.11.1~3 第17回医大祭、テーマ「吹かせよう新風」前夜祭、スポーツ(テニス・野球・サッカーラグビー)大会、模擬店、映画上映、棒の手、演武会、ストリートダンス、講演(佐藤昭彦教授「救命蘇生」山崎久教授「熱傷について」、コンサート(愛知県立大学吹奏楽部・名古屋聖霊短期大学合唱部)。(第17回医大祭パンフ)	
総理 宮澤喜一(平3.11.5~5.8.9)	3.1.1 内科学第3講座に小林正特任教授、外科学第1講座に小池明彦特任教授が各々診療教授に昇任。外科学第2講座に吉藤量平、耳鼻咽喉科学講座に石神寛通、産婦人科学講座に野口昌良が各々診療教授に昇任。(『二十年史』402p)			平成2年度、帰属収入約218億円、医療収入比64.6%。(『三十年史』319p)
	3.3.31 田内久学長任期満了により退任。(『三十年史』通史)299p)			
	3.4.1 祖父江逸郎、学長に就任、教務部長に溝間照典、医学情報センター長に柴田幸雄の両教授が就任。木全弘治、分子医科学研究所教授に就任。文書規程を全面改正。(『二十年史』402p)		3.4.1 大学学則改正(ボリクリを充実したカリキュラムに変更)。(『学報』第42号26p)	
3.6.3 大学設置基準の一部を改正する省令(平成3年文部省令第24号)公布(同年7.1施行)。基準の大綱化により制度の彈力的運用が可能となった。(高等教育研究会「大学の多様な発展を目指して III」1~9p)	3.6.7 白求恩医科大学との学術国際交流に関する覚書更新。(『二十年史』402p)			
	3.6.10 平成4年度が本学創立20周年に当たることから、記念事業の実施を決定。(概要是、創立20周年記念式典・祝賀会、創立20周年記念誌刊行、その他記念事業(21世紀ビジョン事業=1.産業保健センターの設立、2.テレメディシンによる地域医療計画樹立、3.医学部保健学科の創設、4.高齢関連医学施策の実施、5.医学振興基金の設置)の実施)。(『三十年史』通史)302~306p)			
S.98			3.7月 大学設置基準の大綱化を受け、医学教育改善専門委員会を改組、新委員長に生理学第2講座小川徹雄教授を選出。同年9月から平成5年10月にかけ、第1~6次案を学長に答申。(『三十年史』通史)375p)	
				年 表 S.99

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療
3.10.14~19 第10回職員(非教員)海外研修旅行。団長佐々田健四郎教授以下22名。行き先、北京、西安、上海。(『学報』第44号5p)	3.9.4 病院玄関ホール400.6m ² 増築。(『三十年史』通史)「建物データ表」S.58)	3.9.5 医学教育改善専門委員会委員長、祖父江總務委員長宛(新)第1次答申「大学設置基準等の改正によるなう医学教育の改善について」を提出。(基本:基礎科学、基礎教育、専門教育の3科目区分を廃止、自由なカリキュラム編成)。(『三十年史』通史)376~377p)	3.9.4 病院玄関増築に伴い総合案内を新設。(『二十年史』402p)	
3.12.26 ソ連邦最高会議、ソ連邦消滅を宣言。(岩波『年表』605p)		3.9.11 看護専門学校の生徒定員を平成4年度より50名から100名に増員する案を承認。(3『理諭』第2回)		
3. ネーアー(独)、ザクマン(独)、細胞内に存在する單一イオンチャネルの機能に関する発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』『年表』93p)		3.10.1 大学、大学院、看護専門学校の各学則改正(人学金等への消費軋跡を廃止)。(『二十年史』402p)		
平成4(1992)年	4.1.27 森泰樹理事長退任。(『二十年史』403p)	3.11.1~3 第18回医大祭、テーマ「うわさになりたい～伝統の英雄をめざして～」前夜祭、野球・スポーツ大会、ラグビー・サッカー、演武会、棒の手、模擬店、映画上映、テニス渡辺功プロに挑戦、講演(浅井光助教授「不妊症・子宮癌、西田ひかるコンサート」。(第18回医大祭パンフ)	3.11.1~3 第18回医大祭、テーマ「うわさになりたい～伝統の英雄をめざして～」前夜祭、野球・スポーツ大会、ラグビー・サッカー、演武会、棒の手、模擬店、映画上映、テニス渡辺功プロに挑戦、講演(浅井光助教授「不妊症・子宮癌、西田ひかるコンサート」。(第18回医大祭パンフ)	
	4.3.30 理事長に新美富太郎就任。新美は常任理事会を原則として週1回開催。(『三十年史』通史)299p)	3.12.4 NAGOYAハイビジョンワールドで、本学がメディアカルシンボジウムを主宰。(『二十年史』402p)	3.11.10 病院の医療情報システムAMUSE(Aichi Medical University Hospital Information System)始動。	
		4.3.31 看護専門学校1,028.85m ² 増築、3階建総計2,579.6m ² となる。(『三十年史』通史)「建物データ表」S.59)	3.11.10 病院の医療情報システムAMUSE(Aichi Medical University Hospital Information System)始動。	
4.4.1 附属病院長に瀬本勲教授が就任。学生部長に柏江勇、研究機器センター長に竹谷和視、看護専門学校長に土岡弘通の各教授が就任。佐々木隆一郎、公衆衛生学講座教授が就任。小池明彦診療教授が外科学第1講座教授に、池谷敏彦特任教授が皮膚科学講座教授に昇任。(『二十年史』403p)就業規則改正(育児休業導入)、育児休業に関する規程を制定。(『二十年史』403p)	4.3.24 看護専門学校定員増(50~100人)認可。(『二十年史』403p)	4.4.1 看護専門学校学則の一部改正(入学定員100名、専任教員6名)。(『三十年史』342p)平成4~10年度本学への一般入試志願者数は2千人前後とし、平成3年度以降の留年者数率も20%を切って推進。(『三十年史』通史)368、373~374p)	4.4.1 従来、各センター、各部に属した技術者は、一旦、業務部医療機器係を経た後、附属病院規程改正によって設置された臨床工学科に所属。初代部長野口宏教授(兼)。(『二十年史』370p)	
S.100				年 表 S.101

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）
4.5.1 全国250の国立病院・診療所が土曜外来休診実施。(『内科』「年表」93p)	
4.6.19 医療法改正（第2次）。1. 特定機能病院（高度医療を行う大学病院、国立がんセンター等）、2. 長期入院患者を収容する療養型病床群、3. 一般病院・診療所の三つに整理区分。(『三十年史 部局史』261p)	4.6.1 「躍進する愛知医科大学 創立二十周年記念誌」刊行。(同『記念誌』)
	4.10.4～9 第11回職員（非教員）海外研修旅行。団長小池明彦教授以下21名。行き先、北京、西安、上海。(『学報』第49号26p)
	4.10.30 創立二十周年記念式典・祝賀会挙行。(『学報』記念特集号2～3, 13p)
	4.11.1 LAN規程制定。(『学報』第49号33p)
4. フィッシャー(米)、クレブズ(米)、生体制御機構としての可逆的蛋白質磷酸化の見方によりノーベル生理学・医学賞受賞。(『内科』「年表」93p)	

S. 102

建設・整備	教 育	診 療
	4.〔夏〕 第44回西日本医学生総合体育大会、バレー女子部門で本学優勝。(『学報』第48号17p)	
4.7.3 医学教育改善専門委員会委員長第3次答申「新カリキュラムの概要について」(2学期制、週5日制、単位制導入)を祖父江總務委員長宛提出。(4『教諭』第7回)	4.8～10月 平成4年度公開講座「生活の中の医学 パートIII」(創立20周年記念事業)開催。金子清俊教授「寄生虫今昔物語」ほか。(『三十年史 通史』305p)	4.8.4 名古屋市の消防ヘリを用し、本院を拠点とするドクターへリ試験事業実施。(『学報』第48号12p)
	4.10.31～11.2 第19回医大祭、テーマ「お茶の子祭々」前夜祭・模擬店・野球大会・ドッヂボール大会、エアロビクス大会、ラグビー・サッカー、演武会、軽音楽コンサート。(第19回医大祭パンフ)	4.9月 医療情報システムAMUSE、第2期オーダ（処方、検査）稼働。(『学報』第48号20p)
	4.12.14 「医学部保健学科の設置準備に関する要項」制定。創立二十周年記念事業の一つとして、祖父江学長から保健学科設置準備委員会（委員長土岡弘道）に対し、医学部保健学科設置を諮詢。以後この準備委員会は平成5年4月まで当該分野の調査などを行ったが、以後、平成9年まで中断。(『三十年史 通史』351p)	4.9.1 医療情報システム利用規程。(『学報』第48号25p)
		4.11月 長久手地区で本学救命急センターを中心とするドクターカー・モデル事業が厚生省から委託される。(『三十年史 部局史』343p)
		年 表 S. 103

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）
平成5（1993）年	
総理 細川護熙（平5.8.9～6.4.28）	
	5.4.1 伊藤元教授、教務部長に就任。加藤克己教授、メディカルクリニック長に就任。市原一郎教授、動物実験センター長に就任。青木重久教授、医学情報センター長に就任。(『学報』第50号10p)
平成5年度、医師国家試験出題基準改定。医学的知識・技能を「医学総論」と「医学各論」によって示し、必須、選択の区分廃止。(『三十年史 通史』394p)	5.4.16 橋詰良夫、加齢医科学研究所（第1部門）教授に就任。(『学報』第51号27p)
	5.5.16 臨床検査医学講座設置、中央臨床検査部富田明夫教授が同講座教授に配置換。(『学報』第51号9p)
	5.6.1 産業保健科学センター設置、同センター長に衛生学講座振部博教授が就任。産業保健科学センター規程制定。(『学報』第51号23～24p)
	5.6.1 初期専門棟（現2号館（研究棟））3階で発足。(『三十年史 通史』303p)
	5.7.1 自己点検・評議会規程制定。(『学報』第51号23p)

S. 104

建設・整備	教 育	診 療
	5.1.19 医学教育改善専門委員会委員長第4次答申「新カリキュラムの教授内容について」（教授内容の検討、講義内容のミニマム・リクワイアメント）を祖父江總務委員長宛提出。(4『教諭』第18回)	
	5.3.22 名鉄バス「愛知医大病院一赤津」路線、乗車率低下のためこの日の最終便をもって乗り入れ廃止。59年5月以降約9年間運行。(『学報』第50号24p)	
	平成4年度 病床数1,271床、看護単位24、看護部長1、次長3、婦長25、主任41、看護職員680人。(『二十年史』29p)	
	平成4年度、外来患者数約40.9万人、入院患者数約34万人。帰属収入約238億円、医療収入比67.4%。(『三十年史 通史』S.67, S.71, 319p)	
	5.3.31 医学教育改善専門委員会委員長第5次答申「新カリキュラムの運用について」（完全単位制の導入、パリヤー設置）を祖父江總務委員長宛提出。(5『教諭』第5回)	
		5.9月 本学救命救急センター、自治省消防庁委託のドクターヘリ・モデル事業に参加。(『三十年史 通史』300p)
		年 表 S. 105

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療
	5.10.3~8 第12回職員（非教員）海外研修旅行。団長加藤剛教授以下22名。行き先、北京、西安、上海。（『学報』第53号24~25p）		5.10.8 医学教育改善専門委員会委員長第6次答申「新カリキュラムへの移行措置及びBSLの改善について」を祖父江総務委員長宛提出。（5『教議』第11回）	
5. ロバーツ（英）、シャープ（米）、真核生物のイントロンの発見、および遺伝子組み換え技術の発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。（『内科』『年表』95p）		5.10.31~11.2 第20回医大祭、テーマ「激辛～大人への道～」前夜祭、模擬店、ラグビー・サッカー、野球大会、チアガール、演武会、軽音楽LIVE。（第20回医大祭パンフ）	5.10.31~11.2 第20回医大祭、テーマ「激辛～大人への道～」前夜祭、模擬店、ラグビー・サッカー、野球大会、チアガール、演武会、軽音楽LIVE。（第20回医大祭パンフ）	5.11月 AMUSE、注射オーダー、病名オーダなどの入院オーダが順次稼働。（『三十年史 通史』318p）
平成6（1994）年				
総理 羽田 琢（平6.4.28~6.6.30） 村山富市（平6.6.30~8.1.11）	6.3.31 薩本勲附属病院長定年退職。（『所長在任期間名簿』綴）		6.2.24 改定新カリキュラムに根ざした「新入学生諸君へ」教授会承認。平成7年度以降、「教育目標」、「教育方針」、「カリキュラムの特徴」とともに『教科案内』に一括され、新入生に配布された。（5『教議』第20回）	6.2.1 本院、特定機能病院に認定。（『三十年史 部局史』279p）
	6.4.1 土岡弘通教授、附属病院長に就任。小池明彦教授、看護専門校長に就任。（『学報』第54号10p） 吉野昌孝、生化学講座教授に就任。木村英作、寄生虫学講座教授に昇任。深津英捷、泌尿器科学講座教授に昇任。廣岡良文、臨床検査医学講座教授に昇任・配置換。（『学報』第54号38p）		平成6年度の一般入試志願者は2千人を超える。一時（平成11~14年度）は減少したが概ね2千人台を維持。一方、累積留年者数も200人を切り、平成10年度以降は2桁台となる。（『三十年史 通史』368~428p）	平成5年度、帰属収入245億円、医療収入比68.2%。（『三十年史 通史』319p）
	6.5.1 中川洋、脳神経外科学講座教授に昇任。（『学報』第55号26p）		6.4.1 新カリキュラム実施に伴い大学学則を大幅に改正。ただし、施行年月以前の入学生は從前学則によるので、以降5年間は新旧学則が併存。 1) 3学期制を前学期、後学期の2学期制とい、学期毎に単位認定。（第4条等） 2) 修業年限を前期課程3年、後期課程3年計6年とする。（第6、7条等） 3) 学年制を廃止し、単位制による6年間にわたるカリキュラムを年次配当。（第35条等）（『三十年史 通史』387~389p）	6.4.20 中華航空機の名古屋空港墜落事故に際し、本学救命救急センターのドクターカーも医師3名を搭乗させて現場直近の春日井、小牧市民病院へ駆けつけ、被災者の治療に尽力。その後、2名の重傷者を本センターICUへ搬送し、内1名を救命。（『三十年史 部局史』429p）
S.106				6.6月 高血圧治療グループ、テレメディシンによる地域医療シ
				年 表 S.107

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療
	6. 秋の叙勲で祖父江逸郎学長、歟二旭日重光章受章（『学報』第57号4p） 6.10.16~21 第13回職員（非教員）海外研修旅行。団長加藤克己教授以下21名。行き先、北京、西安、上海。（『学報』第56号20p）		6.9.1 附属病院規程の一部改正（病院病理部門を中央臨床検査部より分離して病院病理部を設置、病理診断を分担）。（『学報』第55号4p）	スヌム（アライワ）実験開始。（『学報』第55号4p）
6. ギルマン（米）、ロッドペル（米）、G蛋白およびそれらの細胞内情報伝達に関する役割の発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。（『内科』『年表』95p）			6.10.1 病院病理部規程制定。（『学報』第56号22p）	6.10.1 病院病理部規程制定。（『学報』第56号22p）
平成7（1995）年			6.11.3~5 第21回医大祭、テーマ「燃えろアドレナリン」前夜祭、模擬店、ラグビー・サッカー、野球大会、ファミコン大会、演武会、軽音楽コンサート、講演（木村英作教授ほか）。（第21回医大祭パンフ）	6.11.3~5 第21回医大祭、テーマ「燃えろアドレナリン」前夜祭、模擬店、ラグビー・サッカー、野球大会、ファミコン大会、演武会、軽音楽コンサート、講演（木村英作教授ほか）。（第21回医大祭パンフ）
7.1.17 兵庫県南部（阪神）大地震。M7.2、死者5,051人。（岩波『年表』624p）			7.1.22 早朝、阪神大震災の被災地に向けて野口宏救命救急センター部長以下3名がドクターで出動。医療施設、避難所を巡回、医療救援活動を行った。（『学報』第57号1、26p）	7.1.22 早朝、阪神大震災の被災地に向けて野口宏救命救急センター部長以下3名がドクターで出動。医療施設、避難所を巡回、医療救援活動を行った。（『学報』第57号1、26p）
	7.2.1 石神寛通診療教授、耳鼻咽喉科学講座教授に昇任。（『学報』第58号38p）			
7.3.20 オウム真理教信徒、東京地下鉄車内にサリン散布。死者11人、重軽傷者5,500人。（岩波『年表』624p）	7.3.31 鍵谷正衛事務局長退任。（『三十年史 通史』「理事の変遷」S.49）		7.3月 MRB磁共振共鳴診断装置(GE SIGNA)を中心射線装置に設置。（『三十年史 部局史』287p）	7.3月 MRB磁共振共鳴診断装置(GE SIGNA)を中心射線装置に設置。（『三十年史 部局史』287p）
			平成6年度、帰属収入約254億円、医療収入比70.6%。（『三十年史 通史』319p）	平成6年度、帰属収入約254億円、医療収入比70.6%。（『三十年史 通史』319p）
	7.4.1 中西正美教授、教務部長に就任。（『学報』第58号8p） 菅原潤、生理学第2講座教授に昇任。 溝口治平、法人文部長に就任。成田篤彦、事務局長に昇任。（『学報』第58号38p）		7.7.10 総合グラウンド新設工事を含めた「キャンパス施設計画（試案）」なる。（『財源提供資料』）（『三十年史 通史』308p）	7.7月 輸血部、高本滋が専任教授、部教として着任し、開設。当初は教授室のみで、関係業務は薬剤部、中央臨床検査室で実施（部としての実質的な開設は平
	7.7.1 高本滋、輸血部診療教授就任。（『学報』第59号25p）			年 表 S.109
S.108				

国内外事情・医学(療)行政	学校法人(行政・組織)
	7.10.15~20 第14回職員(非教員)海外研修旅行。団長青木重久教授以下20名。行き先、北京、西安、上海。(『学報』第60号19p)
7. ルイス(米)、ニュースライン=フォルハルト(独)、ウィーシャウス(米)、初期胚発生の遺伝的制御に関する研究によりノーベル生理学・医学賞受賞。(『内報』「年表」97p)	
平成8(1996)年	
総理 橋本龍太郎(平8.1.11~10.7.30)	8.1.25 「教育棟」の必要性は全学的に合意され、平成8年初頭、教授会において教育棟建設本部、教育棟建設委員会の設置が承認された。(『教職』第17回)
	8.3.31 土岡弘通附属病院長定年退職。(『所属長在任期間名簿』綴)
	8.4.1 小林正教授、附属病院長に就任。大野完教授、学生部長に就任。満間照典教授、メディカルクリニック長に就任。吉野昌孝教授、研究機器センター長に就任。藤本孟男教授、看護専門学校長に就任。(『学報』第62号9p)
	成瀬隆吉、外科学第1講座教授に昇任。永田昌久、外科学第2講座教授に昇任。三井忠夫、痛風・リウマチ科診療教授に昇任。(『学報』第62号38~39p)
	8.5.1 各務伸一、内科学第1講座教授に就任。(『学報』第63号20p)
	8.11.1 伊藤隆、公衆衛生学講座教授に就任。(『学報』第65号30p)

S. 110

建設・整備	教育	診療
		成9年5月、外来棟2階において。(『三十年史 部局史』355p)
	7.11.2~4 第22回医大祭、テーマ、「やったるで! 新たなる挑戦」模擬店、ラグビー、サッカー・野球大会、演武会、軽音楽コンサート、玲木蘭々オステージ、講演(祖父江逸郎学長「医を考える」)。(第22回医大祭パンフ)	
		8.3月 シンチレーションカメラ(GEMAXXUS)を中央放射線部に設置。(『三十年史 部局史』287p)
		8.3.28 厚生省、本学救命救急センターを必要件を具備するとして「高度救命救急センター」に認定。(『三十年史 部局史』343p)
		平成7年度、帰属収入約251億円、医療収入比71.9%。(『三十年史 通史』319p)
	8年度当時、教養棟(現3号館(基礎科学棟))以外に、2号館(研究棟)、C病棟、D病棟の3棟にも七つの講義室、五つのセミナー室が分散していた。学生の不便を解消するため、教育棟建設委員会は、以下を合議。	
	1) 各棟分散講義室等の集中 2) 医学情報センター、父兄後援会・同窓会事務室、大ホール、管理部門・事務局等を集中。(『三十年史 通史』306~307p)	
	8.11.1~3 第23回医大祭、テーマ、「大脑発達」前夜祭、模擬店、ラグビー、サッカー・野球大会、演武会、軽音楽コンサート、法城慎一郎ステージ、ガダルカナル・タカホカオステージ、講演(高木滋教授、野口宏教授)、野外映画(マスク)。(第23回医大祭パンフ)	

年 表 S. 111

国内外事情・医学(療)行政	学校法人(行政・組織)
8. ドアティ(オーストラリア)、ツインカーナーゲル(スイス)、細胞性免疫防護の特異性に関する研究によりノーベル生理学・医学賞受賞。(『内報』「年表」97p)	
平成9(1997)年	
平成9年度、医師国家試験出題基準改定。「プライマリケア」必修問題の範囲に入る。(『三十年史 通史』395p)	9.4.1 横地高志教授、教務部長に就任。山田高路教授、医学情報センター長に就任。成瀬隆吉教授、動物実験センター長に就任。伊藤隆教授、産業保健科学センター長に就任。三井忠夫教授、運動療育センター長に就任。(『学報』第66号11p)
	中野隆、解剖学第1講座教授に昇任。佐賀信介、病理学第2講座教授に就任。小林章雄、衛生学講座教授に昇任。岩城正佳、眼科学講座教授に就任。(『学報』第66号42~43p)
	9.5.1 佐藤啓二、整形外科学講座教授に就任。(『学報』第67号21p)
	9.7.1 石川直久、薬理学講座教授に就任。(『学報』第67号20p)
	9.7.2 仁田正和、内科学第2講座教授に就任。(『学報』第67号20p)
	9.9月 『明日への展望～自己点検・評価』刊行。(『愛知医科大学自己点検・評価報告書 明日への展望』)
	9.12.17 医療法改正(第3次)。1. 診療所へ療養型病床群制度導入。2. 地域医療支援病院制度の導入。3. 計画制度の充実。(『三十年史 部局史』297p)

S. 112

建設・整備	教育	診療
		8.12月 X線CTスキャナーシステム(ヘリカル)(島津 CT-20SPH)中央放射線部に設置。(『三十年史 部局史』287p)
		平成8年度から医学部4学年次生を対象に「高齢医学」開講。(『三十年史 通史』395p)
	9.4.1 看護専門学校学則の一部改正(厚生省の看護婦・保健婦養成所指定規則の一部改正を受け、単位制を導入等)。(『学報』第66号25p)	9.4.1 看護専門学校学則の一部改正(厚生省の看護婦・保健婦養成所指定規則の一部改正を受け、単位制を導入等)。(『学報』第66号25p)
	9.5月 医学科保健学科設置準備委員会、委員長を小林正病院長とし、再開。設置する専攻を看護分野に絞って検討開始。(『三十年史 通史』351p)	9.5月 医学科保健学科設置準備委員会、委員長を小林正病院長とし、再開。設置する専攻を看護分野に絞って検討開始。(『三十年史 通史』351p)
	9.10.21 学長室において馬場昌子愛知県立看護短期大学名誉教授、高橋照子東京慈恵会医科大学医学部看護学科助教授を交え懇談。(『三十年史 部局史』405p)	9.10.21 学長室において馬場昌子愛知県立看護短期大学名誉教授、高橋照子東京慈恵会医科大学医学部看護学科助教授を交え懇談。(『三十年史 部局史』405p)
	9.10.31~11.2 第24回医大祭、テーマ「筋肉大進行」模擬店、スポーツ大会、ラグビー、サッカー・野球・テニス大会、演武会、軽音楽ライブ、医学講演会。(第24回医大祭パンフ)	9.10.31~11.2 第24回医大祭、テーマ「筋肉大進行」模擬店、スポーツ大会、ラグビー、サッカー・野球・テニス大会、演武会、軽音楽ライブ、医学講演会。(第24回医大祭パンフ)
	9.12.10 医学科保健学科設置準備委員会は、審議過程で保健学科ではなく看護学科とする意向が固まつたとして、祖父江逸郎学長宛に「看護学科看護学科の設置について」を答申。以下、答申骨子。	9.12.10 医学科保健学科設置準備委員会は、審議過程で保健学科ではなく看護学科とする意向が固まつたとして、祖父江逸郎学長宛に「看護学科看護学科の設置について」を答申。以下、答申骨子。
	1) 本附属病院が特定機能病院機能を最大限に発揮するには、高等教育を受けた優秀な看護職員が不可欠。しかも目前で養成しなければならない。	1) 本附属病院が特定機能病院機能を最大限に発揮するには、高等教育を受けた優秀な看護職員が不可欠。しかも目前で養成しなければならない。
	9.12.24 附属病院看護部、『25周年記念誌』刊行。(同『記念誌』)	9.12.24 附属病院看護部、『25周年記念誌』刊行。(同『記念誌』)

年 表 S. 113

国内外事情・医学（疾）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療
9. ブルナー（米）、感染症原因物質としてのブリオンの発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。（内科」「年表」97p）			2) 生活水準の向上と少子化は学歴の高志向を来す。 必然的に看護教育制にも4年制が招来される。 3) 看護学の体系化と、学際的領域の研究進展のために、看護系大学教員組織にも「学部」が必要となる。 4) 学問領域上、医学、看護学各自独立した存在で、医学部のみの教授会で全ての問題を決するの議論の形骸化を来す。（三十年史 通史』332～344p）	
平成10（1998）年				平成9年度、帰属収入約256億円、医療収入比72.9%。（三十年史 通史』319p）
総理 小渕恵三（平10.7.30～12.4.5）	10.1.21 看護学部増設を承認。（9『理議』第5回） 10.3.1 国田啓、薬剤師教授に就任。（『学報』第70号35p） 10.3.27～4.8 本学祖父江学長とアイオワ大学コールマン学長、「愛知医科大学とアイオワ大学医学部との学術交流に関する協定書」に署名。（『三十年史 通史』313p）	10.4.1 深津英捷教授、学生部長就任。綾川良雄教授、核医学センター長に就任。岡田忠、生理学第1講座教授に昇任。（『学報』第70号11、34～35p） 10.8.24 「講座等再編化に係る委員会」設置。（『三十年史 通史』322p） 10.9.21 理事会、看護学部設置認可申請及び寄附行為変更認可申請を承認。これに伴い平成12年度に看護専門学校の学生募集を停止、在学生が卒業する平成13年度をもって同校廃止を決定。（『三十年史 通史』348p）	10.3.17 教育棟建設工事着工。設計は久米設計、工事は鹿島・大林・浦池建設工事共同事業体。（『三十年史 通史』308p） 10.4.1 「看護学部の設置準備に関する要項」制定。学長の下に看護学部設置委員会、及び看護学部設置準備室を設置。初代室長馬場昌子参与、2代室長高橋照子。（『三十年史 通史』354p） 10.5月 馬場、高橋ら準備室員は、新設看護学部の基本理念を三つのキーワードに纏める。「Full Humanity」 豊かな人間性、「Intellectual Internationality」 知的国際性、「Service to Community」 地域社会への奉仕。（『三十年史 通史』356p）	平成9年度、帰属収入約256億円、医療収入比72.9%。（『三十年史 通史』319p）
S.114		10.10.1 高度救命救急センター、1次、2次救急患者用の処置室、診察室、3次救急患者用の救急蘇生室等々が増改築・新設され、同時にセンターへの出入口を拡幅して集団災害時にトリアージをも可能とするなど災害拠点病院機能を確立。（『三十年史 部局史』343～344p）	10.10.1 高度救命救急センター、1次、2次救急患者用の処置室、診察室、3次救急患者用の救急蘇生室等々が増改築・新設され、同時にセンターへの出入口を拡幅して集団災害時にトリアージをも可能とするなど災害拠点病院機能を確立。（『三十年史 部局史』343～344p）	年 表 S.115

国内外事情・医学（疾）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療
10. ファーチゴット（米）、イグナロ（米）、ムラード（米）、情熱伝遞物質としての一酸化炭素の発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。（内科」「年表」99p）				
平成11（1999）年	11.1.13 横浜市立大学医学部附属病院で二人の患者を取り戻して手術。（岩波『年表』64p）事故の一因としてナンバーリー制診療科体制が指摘される。（『三十年史 通史』320～321p） 11.3.17 講座等再編化に係る委員会、「中間答申」を祖父江逸郎学長宛提出。（『三十年史 通史』322p） 11.3.31 「中間答申」を受け、祖父江学長は内科・外科のナンバー制を廃止し、臓器別診療科制に移行を小林附属病院長に指示。（『三十年史 通史』322p） 厚生労働省は平成11年度から順次6カ所でドクターヘリ試行事業を開始。（『三十年史 部局史』344～345p） 11.4.1 成瀬隆吉教授、教務部長に就任。伊藤元教授、医学情報センター長に就任。永田昌久教授、動物実験センター長に就任。小林章雄教授、産業保健科学センター長に就任。（『学報』第74号6p） 11.8.16 松本義也、皮膚科学講座教授に就任。（『学報』第76号30p） 11.9（月中旬） 大学本館へ他棟から諸施設が移転作業開始。（『三十年史 通史』308p）	11.4.5 看護学部棟の設計・管理委託業務を久米設計名古屋支社と締結。（『三十年史 通史』357p） 11.4.28 通称「教育棟」の正式施設名を「1号館（大学本館）」と決定。（『学報』第7回） 11.9.6 1号館（大学本館）7階建18,031.25m ² 竣工。（『三十年史 通史』「建物データ表」S.60）エントランスホール、大小講義室13、セミナー室20、役員室5、大会議室1、小会議・応接室7、大事務室2、医学情報センター、情報処理センター、同窓・	11.11月 循環器専用血管撮影装置（シーメンス COROSKOP）を高度救命救急センターに設置。（『三十年史 部局史』287p） 11.2月 ヘリカルスキャン全身用X線CT装置（東芝 AQUILION）を中央放射線部に設置。（『三十年史 部局史』287p） 11.3月 高エネルギー放射線治療装置（ライツ）（三菱 EXL-1SDP）を中心放射線部に設置。薬毒物解析機器システムを薬毒物分析センターに設置。（『三十年史 部局史』287p） 平成10年度、帰属収入約254億円、医療収入比73.1%。（『三十年史 通史』319p）	年 表 S.117

国内外事情・医学(療)行政	学校法人(行政・組織)	建設・整備	教育	診療
11. プローベル(独)、蛋白質が細胞内での輸送と局在化を支配する信号を内在していることの発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。(内科「年表」99p)	11.12.16 菊地正悟、公衆衛生学講座教授に就任。(『学報』第77号30p) 11.12.20 麻酔・救急医学講座を麻酔学講座に改める。(『三十年史 部局史』344p) 11.12.22 看護学部設置、及び寄附行為変更を中曾根弘文部大臣認可。(『三十年史 通史』361p)	父兄会室、大ホール、レストラン等々の複合建設物。(『三十年史 通史』308~310p、『建物データ表』S.60) 11.9月半ば、看護学部建築工事着工。(『三十年史 通史』358p)	11.10.30~11.1 第26回医大祭、テーマ“One for all, all for one”、模擬店、パレード、ファットサル大会、ラグビー、松田園子ソプラノコンサート、軽音楽ライブ、救急医療シンポジウム(中川洋教授、小林正教授ほか)。(第26回医大祭パンフ)	
平成12(2000)年 総理 森喜朗(平12.4.5~13.4.26)	12.3.31 祖父江逸郎学長退任。小林正附属病院退任。(『所長在任期間名簿』締)	12.1.23 看護学部第1回推薦入学試験(137人志願33人入学)。(『三十年史 通史』362p)	12.2.13 看護学部第1回一般入学試験(515人志願77人入学)。(『三十年史 通史』362p)	11.12.20 旧麻酔・救命医学講座中の救命医学を分離して、機能、人員ともども高度救命急救センターに吸収。(『三十年史 部局史』344p)
平成11年度、看護系4年制大学は国・公・私立大学76校に至る。この5年間で2.5倍増。(『三十年史 通史』356p)	12.4.1 介護保険法施行(介護保険制度発足)。(岩波「年表」654p) 12.4.1 看護学部免足。文部大臣、本看護学部を保健婦学校、及び看護婦学校に指定。(『三十年史 通史』361p) 要知芸術文化センター総長加藤延夫(前名古屋大学総長)、学長に就任。小林正教授医学部長に就任。高橋照子教授、看護学部長に就任。各務伸一教授、附属病院長に就任。(『学報』第78号2, 5~7p) 仁田正和教授、メディカルクリニック長に就任。永田昌久教授、看護専門学校長に就任。植村研一教授、看護学部教務学生部長に就任。 林拓二、精神科学講座教授に昇任。斎藤征夫、看護学部公衆衛生学教授に昇任。	12.3月 愛知用水東側に用地53,810m ² を28億円で買収し、総合グラウンド完成。陸上競技場(兼サッカー、ラグビー場)15,881m ² 、野球場8,705m ² 、テニス・コート4面。(『三十年史 通史』308p) 12.3.9 看護学部棟4階建3,767.03m ² 竣工。(『三十年史 通史』「建物データ表」S.60)	12.3月 頭・腹部専用血管撮影装置(東芝 AREX-US030A/JD)を高度救命急救センターに設置。(『三十年史 部局史』287p) 平成11年度、帰属収入約258億円、医療取扱い比73.1%。(『三十年史 通史』319p)	12.3月 12年度、臨床実習実施状況。 1学年次生「早期体験実習(3日)」 2学年次生「学外体験実習(2週間)」 4学年次生「学外体験実習(2週間)」 5学年次生「臨床実習(25週間)」 6学年次生「臨床実習(12週間)」 (『三十年史 通史』393p) 12.4.5 看護学部第1期生110名を含め2学部、及び
S.118				年 表 S.119

国内外事情・医学(療)行政	学校法人(行政・組織)	建設・整備	教育	診療
昇任・配置換。岡房秀郎、看護学部基礎科学系(物理学)教授に昇任。植村研一、看護学部病態治療学教授に就任。高橋照子、看護学部基礎看護学教授に就任。馬場昌子、看護学部成人看護学教授に就任。Brandi, Cheryl L.、看護学部看護管理学教授に就任。川路毅、法人事本部長に就任。(『学報』第78号2, 5~7, 9~10, 47~49p)	12.5.1 妹尾洋、法医学講座教授に就任。小松徹、麻酔学講座教授に昇任。(『学報』第79号24p) 12.5.17 看護学部開設記念式典を大学本館たてばなホールで举行。(『三十年史 通史』363p)	12.7.18 各務伸一附属病院長「愛知医科大学附属病院における内科及び外科の診療体制について(中間報告)」(臓器別診療体制の視察レポート(聖マリアンナ医科大学、杏林大学医学部)を含む)を加藤延夫学長、及び小林正医学部長宛てに提出。(『三十年史 通史』321~324p)	大学院合同入学式挙行。(『三十年史 通史』342p) 12.4.20 第94回医師国家試験合格者発表。本学新卒者合格率これまで概ね80%台で推移したが93.8%と飛躍、全国国公私立大学医学部・医科大学中、第3位。(『学報』第78号11p)ちなみに翌第95回医師国試の合格率は96.8%。(『三十年史 通史』368p)	12.6.1 附属病院規程の一部改正(中央診療部に睡眠医療センター設置、同規程制定)。(『学報』第79号12, 22p)
12.9.14 教授会(第9回)の冒頭、加藤延夫学長は本法人の改革構想の骨子を述べた。この骨子は翌13年2月、更に精緻な計画となるが、それに先んじて平成13年1月1日から、遅くとも同年4月1日から内外科の臓器別診療科体制の実施を」と要請。(『三十年史 通史』406~408p) 12.9.20 各務伸一附属病院長「愛知医科大学附属病院における内科及び外科の診療体制について(第2次報告)」を加藤延夫学長及び小林正医学部長宛てに提出。7.18中間報告を更に具体化し、移行時期、初期体制にも言及。(『三十年史 通史』325~328p)	12.9.14 教授会(第9回)の冒頭、加藤延夫学長は本法人の改革構想の骨子を述べた。この骨子は翌13年2月、更に精緻な計画となるが、それに先んじて平成13年1月1日から、遅くとも同年4月1日から内外科の臓器別診療科体制の実施を」と要請。(『三十年史 通史』406~408p) 12.9.20 各務伸一附属病院長「愛知医科大学附属病院における内科及び外科の診療体制について(第2次報告)」を加藤延夫学長及び小林正医学部長宛てに提出。7.18中間報告を更に具体化し、移行時期、初期体制にも言及。(『三十年史 通史』325~328p)	12.10.10 創造科学技術推進事業(ERATO)による「細胞外環境プロジェクト」を大学本館7階へ受け入れ、研究開始。(『三十年史 通史』436~437p)	12.9.9 マルチスライス全身用X線CT装置(GE LIGHT SPEED QX)を高度救命急救センター及び中央放射線部に設置。(『三十年史 部局史』287p)	12.11.1 本学リハビリテーション部、愛知県総合リハビリテーション施設として承認される。(『三十年史 部局史』299p)
12.12.6 医療法改正(第4次)。1. 病床区分(一般病床、療養型病床)の見直し、医療計画の見直し。2. 臨床研修の必修化。3. 医療情報(広告、診療報酬)提供の推進。(『三十年史	12.11.2~4 第27回医大祭、テーマ“don't stop at 2000”。模擬店、ラグビー・サッカー・野球、テニス大会、モンゴル民族音楽コンサート、軽音楽ライブ、寺井尚子・ヨコズココンサート、講演(養老孟司東大名誉教授、鈴木大典氏(88ワールオリンピック100m背泳金メダル保持者))。(第27回医大祭パンフ)			
S.120				年 表 S.121

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療
部局史』297p)				
<p>12. カールソン（スウェーデン）、カンデル（米）、グリンガード（米）、神経系の情報伝達に関する発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。（内科」「年表」99p）</p> <p>平成13（2001）年</p> <p>総理 小泉純一郎（平13.4.26～18.9.26）</p> <p>13.1.6 省庁再編により、文部省は文部科学省に、厚生省は厚生労働省に改変。（秦彦修編「日本官僚制総合事典」463p）</p> <p>13.2.19 加藤理事長・学長、下記「愛知医科大学の飛躍を目指して（当面の改革構想）」を大学評議会に提出。</p> <p>1. 事務組織 法人本部と大学事務局を統合。2. 経営健全化 病院収入の向上。3. 研究の活性化 個人、グループ、組織の研究体制見直し。4. 基礎科学部門教授数4名を充足するようさらに1名を選考。5. 医学部教員組織 ①基礎医学講座、内科学、外科学以外の臨床医学講座には、当該講座の教員配置の範囲で、即教授席・講師席を流用して教授、助教授をおくことを得。2) 内科、外科学講座の全科に教授（部長）を配置。3) 助教授、講師のうち特任教員の基準に該当する者は教授（特任）、助教授（特任）に昇任。6. 教授席の設置 助教授を長とする診療科、中央診療部等に助教授席振替により教授をおくことを検討。（以下略）（『三十年史 通史』409～412p）</p> <p>13.3.1 松原昌樹、基礎科学（法医学）教授に昇任。（『学報』第82号34p）川路毅、法人本部長退任。（『三十年史 通史』409p）</p> <p>厚生労働省は平成13年度から岡山、千葉県など6カ所で「救急医療対策事業実施対策要綱」に基づきドクターヘリ事業を開始。（『三十年史 部局史』345p）</p> <p>13.4.1 麻酔学講座は「麻酔科学講座」と改称。（『三十年史 部局史』344p）</p> <p>13.4.1 13.2.1内科外科学講座の臓器別編成に併し、内科学4講座、外科学2講座は各々一つの大講座に集約され、内科学講座、外科学講座となつた（学則2条）。なお、講義内の専攻分野は診療科改変後の診療科に対応する同一内容・名称。（『三十年史 通史』334～335p）</p> <p>内科学講座長には仁田正教授、外科学講座長には水田昌久教授を選任。（12『理論』第6回）（12『教説』第21回）（『三十年史 通史』326、331～335p）</p> <p>13.4.1 鶴沢正仁、小児科学講座教授に昇任。福留繁、耳鼻咽喉科学講座教授に昇任。野口昌良、産婦人科学講座教授に昇任。高野順子、地域看護学教授に就任。（『学報』第82号34～35p）</p> <p>13.4.16 教員選考基準廃止。（『三十年史 通史』413p）</p>		<p>13.2.1 附属病院規程の一部改正（内科外科学講科体制がナシバードから臓器別診療科に改変）。</p> <p>内科（第1～第4）→総合診療内科（→総合診療科）、消化器内科、循環器内科、呼吸器・アレルギー内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、神経内科、腎臓・膠原病内科、血液内科。</p> <p>外科（第1～第2）→総合診療外科（→複数）、消化器外科、心臓・血管・心臓外科（→心臓外科と血管外科に分離）、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科。（『三十年史 通史』322～331p）</p> <p>平成12年度、帰属収入約265億円、医療収入比71.7%。（『三十年史 部局史』319p）</p>	<p>平成12年度 大学院内科系専攻に医療薬学の設置承認。（『三十年史 部局史』379p）</p>	

S.122

年 表 S.123

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療
<p>13.5.1 佐橋功、内科学講座（神経内科）教授に昇任。野波敏明、外科学講座（消化器外科）教授に昇任。（『学報』第83号27p）</p> <p>13.5.31 「教授（診療）に関する規程」廃止。（『三十年史 通史』413p）</p> <p>13.6.1 特任教員に関する要項制定。教員選考規程整備。</p> <p>大学院研究科基本組織規程制定。大学院担当教員資格審査規程改正（教授を審査対象から外す）。（『三十年史 通史』413p）</p> <p>青山久、形成外科教授に昇任。三井忠夫、痛風・リウマチ科教授に昇任。</p> <p>野口宏、救命救急科教授に昇任。高木滋、輸血部教授に昇任。（『学報』第83号29p）川出富貴子、看護学部小児看護学教授就任。（『学報』第84号20p）</p> <p>13.6.16 薬毒物分析センター設置、同規程制定。（『学報』第83号10、23p）妹尾洋教授、薬毒物分析センター長に就任。（『所長在任期間名簿』縦）</p> <p>13.7.1 事務組織規程、事務分掌規程を改正（法人本部廃止、法人、大学の事務を事務局に統合し、医学部に事務部を置く等）。（『三十年史 通史』414p）</p> <p>13.7.23 愛知医科大学三十年史編集資料室の設置要項制定、組織、業務を定め、専従室員2名を配置。同年史の編集委員会設置。（『三十年史 通史』414p）</p> <p>13.9.1 兼本浩祐、精神科学講座教授に昇任。（『学報』第84号20p）</p> <p>13.9.17 臨床医学講座等に助教授1名増員を決定（精神科学、皮膚科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学、麻酔科学、臨床後発医学の各講座、及び救命救急科、輸血部の各診療科）。（『三十年史 通史』415p）</p> <p>13.10.1 野村愛司、内科学講座（総合診療内科）教授に昇任。金光泰石、外科学講座（総合診療外科）教授に昇任。（『学報』第84号20p）</p> <p>13.11.1～3 第28回医大祭、テーマ“LOVE 2001”。模擬店、パレード・サッカー大会、テニス・ラグビー、名古屋フラッグコンサート、静音楽ライブ、寺井尚子ジャズコンサート、講演（日野原重明氏「人生の週末に愛のアートを!」）。（第28回医大祭パンフ）</p> <p>13.12.20 看護専門学校的廃止認可申請書、看護婦養成所指定取消申請書及び寄附行為要更認可申請書を文部科学省へ提出。（『三十年史 通史』348p）</p> <p>平成14（2002）年</p>		<p>13.6.1 大学院学則の一部改正（授業科目変更）。（『三十年史 通史』413p）</p>	<p>13.6.1 診療科「救命救急科」が新設され、高度救命救急センター在籍の麻酔・救急医全員が本診療科所属となった。（『三十年史 部局史』344p）</p>	<p>13.10.11月、医事電算化、外来オーダーが稼動し、診療予約制も起動。入院オーダー（病床、給食、注射、検査の各オーダー）に放射線（一般）、生理検査オーダーも加わり、病床、外来診察室双方向からオーダーが可能となり、オーダリングシステム導入計画は概ね達成された。（『三十年史 通史』318p）</p>

S.124

年 表 S.125

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療
	<p>14.1.1 学則の改正。学際的痛みセンター設置、同センター規程制定。(『学報』第85号10, 20p)</p> <p>小松徹教授、学際的痛みセンター長に就任。(『学報』第86号14p)</p>			<p>14.1.1 看護専門学校と看護専門学校 第28回看護祭 Main Theme : LOVE 2004</p>
14.3.1 保健婦助産婦看護婦法改正公布により、保健師、助産師、看護師が誕生。(保健婦助産婦看護婦法の一部改正する法律等)	<p>14.3.1 保健婦助産婦看護婦法改正公布に伴い、関係諸規則を改正し、保健師、助産師、看護師と名称変更。(『学報』第86号44p)</p> <p>14.3.31 看護専門学校閉校。(三十年史 通史) 349p) 各務伸一附属病院長退任。(所屬長在任期間名簿) 編)</p>			<p>14.3.9 看護専門学校の最終卒業式挙行。卒業生総計1,485名、ほぼ100%看護師国家試験合格。(『学報』第86号13p) (『三十年史 通史』348 ~349p)</p> <p>14.3.23 看護専門学校閉校記念式典挙行。(『学報』第86号26p)</p> <p>14.3.31 看護専門学校同窓会、閉校に当たり『飛翔 看護専門学校の思い出』刊行。(『三十年史 通史』349p)</p>
14.4.1 佐賀介介教授、医学部長に就任。佐藤啓二教授、附属病院長に就任。岡田忠教授、医学部学生部長に就任。石川直久教授、動物実験センター長に就任。(『学報』第86号2, 14p)	<p>14.4.1 佐賀介介教授、医学部長に就任。佐藤啓二教授、附属病院長に就任。岡田忠教授、医学部学生部長に就任。石川直久教授、動物実験センター長に就任。(『学報』第86号2, 14p)</p> <p>小幡剛隆、基礎科学（外国语—ドイツ語）教授に昇任。山下純一、外科学講座（乳腺・内分泌外科）教授に就任。山田史郎、歯科・口腔外科学教授に昇任。米澤弘志、看護学部基礎看護学教授に就任。(『学報』第86号38~39p)</p> <p>就業規則の一部改正（育児、家族介護をする職員の時間外労働の制限請求等）。学則及びメディカルクリニック規程の一部改正（メディカルクリニック長の資格拡大、選任方法改革）。(『学報』第86号44p)</p>			<p>14.5.月 メディカルクリニックにて「てんかん専門会」設置。月1回、第3土曜日。(『学報』第87号17p)</p>
14.5.27 本学が複数学部となったことに伴い、新たに学長の任用、選考規程制定。(『学報』第87号6p)	寄附講座等に関する規程等を制定。(『学報』第87号26p)			14.7.1 睡眠医療センターの外来
14.7.月 看護学部、米国サンディエゴ大学ハーン看護健康科学部と学術交				

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療
	流と協力に関する協定締結。(『学報』第88号2p)			診療部門「睡眠内科」設置。(『学報』第87号13p)
	14.10.1 伊藤降之、内科学講座（循環器内科）教授に就任。金子宏、看護学部病態生物学教授に昇任・配置換。(『学報』第88号2sp)			
14.11月 中国広東省でSARS（重症急性呼吸器症候群）発生、流行。(『三十年史 通史』438p)	14.11.1 浅本憲、解剖学第2講座教授に就任。 痛み学（ファイザー）寄附講座設置（14.11.1～20.10.31）、同講座教授に熊澤孝朗就任。(『学報』第88号5, 28p)			14.11.1～3 第29回医大、テーマ“HARMONY ~FOREVER AND EVER~”、接駆店、バー・野球・マッカート・テニス・ドッジボール大会、ラグビー、絶音楽ライブ、寺井尚子ジャズコンサート、邦楽コンサート、講演（田代俊孝同朋大学教授「いのちを考える」）。(第29回医大祭パンフ)
14. プレナー（英）、サルストン（英）、ホロヴィッツ（米）、器官発生とプログラムされた細胞死の遺伝制御に関する発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。（Nobelprize.org）	14.12.1 大竹千生、内科学講座（内分泌・代謝・糖尿病内科）教授昇任。(『学報』第89号23p)			
平成15（2003）年	15.1.1 今井裕一、内科学講座（腎臓・膠原病内科）教授に就任。(『学報』第89号23p) 太田敬、外科学講座（血管外科）教授に昇任。(『学報』第89号23p)			15.1.1 附属病院規程の一部改正（精神・精神科）の院内榜示を「精神・精神科」と改訂。(『学報』第89号22p)
	15.3.1 山口悦郎、内科学講座（呼吸器・アレルギー内科）教授に就任。(『学報』第90号36p)			15.2.1 地域医療連携室、及び地域医療連携課を設置。 病院規程改正（病院に中央組織として卒後臨床研修センターを設置、同規程制定）。16年度から臨床研修義務化に伴い、研修医は病院長直轄プログラムに基づき各診療科をローテイト。 特定機能病院に義務づけられた医療安全管理室を設置。(『学報』第89号13~14, 22p)
15.4.1 特定機能病院等における入院医療費の包括評価実施。(『学報』第90号25p)	15.4.1 学科目及び講座に関する規程の一部改正（内眼解剖学、組織学等と区分された了解剖学教育の一元化を図るため、解剖学第1講座、同第2講座を解剖学講座に統合）。(『学報』第89号22p) (『三十年史 通史』426p)		15.3.22 大学別館で深夜2時半頃、火災発生。(『学報』第90号29p)	平成14年度、局属収入約280億円、医療収入比71.08%。(『三十年史 通史』319p)
	生活習慣病、老人病の一次予防研究を主眼とする「ヘルスプロモーション寄附講座（期間 15.4.1～19.3.31）を医学部に設置。(『学報』第90号41p)			15.4.1 附属病院規程改正（リハビリテーション科を診療科として設置等）。 メディカルクリニック運営委員会規程制定。 卒後臨床研修センター運営委員会規程制定。(『学報』第90号41p)
	医学部特任教員選考規程制定。(『学報』第90号41p)			
	吉野昌孝教授、医学情報センター長及び視聴覚教材センター長に就任。松			

国内外事情・医学(療)行政	学校法人(行政・組織)	建設・整備	教 育	診 療
	<p>本義也教授、情報処理センター長に就任。岩城正佳教授、教務部長に就任。各務伸一教授、核医学センター長に就任。横地高志教授、研究機器センター長に就任。野口昌良教授、運動療育センター長に就任。(『学報』第90号12~13p)</p> <p>羽生田正行、外科学講座(呼吸器外科)教授に就任。本多靖明、泌尿器科学講座教授に昇任。石口恒男、放射線医学講座教授に昇任。(『学報』第90号36p)</p> <p>15.6.1 就業規則、同施行細則改正(セクシュアルハラスメントの防止等に関する規程制定、憲或委員会規程制定)。(『学報』第90号21p、第91号24p)</p> <p>15.7.16 国立大学法人法公布(施行15.10.1)。</p> <p>15.8.1 看護学部、米国イリノイ大学シカゴ校看護学部と学術交流等に関する合意書覚書に署名。(『学報』第91号4p)</p> <p>15.10.1 堀田弘芳、薬理学講座教授(特任)に昇任。普天間新生、内科学講座(腎臓・膠原病内科)教授(特任)に昇任。(『学報』第92号24p)</p> <p>15.11.1 原一夫、病院病理部教授に昇任。(『学報』第93号27p)</p> <p>15.11.19 ラウターバー(米)、マンスフィールド(英)、核磁気共鳴画像化法に関する発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。(Nobelprize.org)</p> <p>平成16(2004)年</p> <p>16.1.19 評議会に医学教育改革を目指し「医学部医学教育センター設置構想」提案。センター業務 1) 医学教育に関する情報の収集と分析。2) 医学教育の改善教育立案。3) 教員の評価システム構築。4) 医学部の教育調査。5) 教員の評議会に医学教育改革を目指し「医学部医学教育センター設置構想」提案。センター業務 1) 医学教育に関する情報の収集と分析。2) 医学教育の改善教育立案。3) 教員の評価システム構築。4) 医学部の教育調査。5) 教員の評議会に医学教育改革を目指し「医学部医学教育センター設置構想」承認。(15『理議』第4回)</p>		<p>15.5.26 大学院学則の一部改正(経済的理由で学費が困難な外国人留学生の学納金等を減免)。(『学報』第91号24p)</p> <p>15.7.27~8.13 第55回西日本医学生総合体育大会。主管校、神戸大学。ゴルフ男子団体・個人、優勝。バスケット女子、優勝。(『学報』第92号18p)</p> <p>15.8.1~12.20 2号館(研究棟)、耐震強化工事実施。(『学報』第92号4p)</p> <p>15.8月 大学別館(7号館)火災による損傷を復旧、学習室等再開。(『学報』第92号18p)</p> <p>15.11.28 本学キャンパス東隣の山久製陶所跡地56,918m²を、約16.4億円で取得。キャンパス再開発に有用な条件が整う。(『三十年史通史』442~445p)</p> <p>15.10.31~11.2 第30回医大祭、テーマ「樂」。模擬店、パレード・マッカートニース・ソフトボーラ大会、ラグビー、軽音楽ライブ、東らざる講演会「泣いて笑ってオランティア珍道中」、病院コンサート(杉山弘美、Sayeiほか)。(第30回医大祭パンフ)</p>	<p>15.6.1 メディカルクリニック規程の一部改正(「神経・精神科」を「精神神経科」と科名変更)。(『学報』第91号24p)</p> <p>15.7.1 本院、入院医療費の包括評価実施。(『学報』第90号25p)</p> <p>15.8.29 医療法改正(13.3.1施行)に基づき、一般、療養の区分を本院が特定機能病院であることから、全て「一般病床」と届け出し許可。同時に許可病床数も1,164(一般1,097、精神67)床に変更。(『学報』第92号12p)</p> <p></p> <p>16.1.1 附属病院感染対策委員会規程改正(院内感染対策専門員設置要項制定)。(『学報』第93号)</p>
S. 130				年 表 S. 131

国内外事情・医学(療)行政	学校法人(行政・組織)	建設・整備	教 育	診 療
	<p>員のファカルティ・デベロップメント企画。センター組織 センター長及び数名の教員、2名の事務職員配置。(15『評議会』第8回)</p> <p>16.1.28 理事会、「医学部医学教育センター設置構想」承認。(15『理議』第4回)</p> <p>16.3.22 理事会、内科学講座の再編承認。1. 総合診療内科の廃止。2. 内科学各専攻分野一副教授定数2名配分。3. メディカルクリニック兼務助教授定数3名、兼務講師定数2名のクリック所創立。4. 総合診療科設置。(『三十年史 通史』416p) (15『理議』第5回)</p> <p>16.3.31 成田篤彦事務局長退職。(『学報』第94号22p)</p> <p>『愛知医科大学三十年史 部局史』刊行。(『愛知医科大学三十年史 部局史』)</p> <p>16.4.1 医師臨床研修制度実施。医師免許得不到く2年間、所定の臨床研修を経ることを義務化。しかし面、結果として医師不足を招いた。(『臨床研修省令』医改第0612004号)</p> <p>16.4.1 医学部附属医学教育センター設置、同センター規程制定(一部改正施行は18.10.1、第3条4項目のみ19.4.1施行)。(『医学教育センター記録』)病理学第1講座、同第2講座は病理学講座に統合、大講座制に移行。なお、病院病理筋との連携を強化。(『三十年史 通史』426p)</p> <p>学則の一部改正(看護学部基礎科学系を廃し、医学部基礎科学へ統合、教員も医学部基礎科学部門へ配属換え)。(『三十年史 通史』415p)</p> <p>大学院学則の一部改正(大学院看護学研究科増設に伴う組織、教育方法改正)。(『学報』第93号22p)</p> <p>佐橋教授がメディカルクリニック長に、今井裕一教授が医学教育センター長に就任。(『学報』第94号15p)</p> <p>池田洋、病理学講座教授に昇任。鈴村初子、看護学部基礎看護学教授に昇任。宮里和子、看護学部母性看護学教授に就任。土井まつ子、看護学部小児(感染)看護学教授に就任。山崎信子、看護学部老人看護学教授に就任。茅喜田恵子、看護学部精神看護学教授に就任。(『学報』第94号44~45p)</p> <p>16.5.13 医学部特任教員制度検討委員会規程の制定。(『学報』第95号29p)</p> <p>16.6.10 看護学部、フィンランドのオウル大学医学部看護健康管理学科と学術交流等に関する合意書締結。(『学報』第95号4p)</p>		<p>16.3.26~31 第56回西日本医学生総合体育大会冬季大会において、医学部第3学年次生永田重矢子、大回転1位、回転及びスーパーダイ回転2位。(『学報』第95号14p)</p> <p>16.4.1~7.28 旧看護専門学校敷地、第2女子寮敷地解体撤去し、駐車場(132台)増設工事実施。(『学報』第94号27p、第95号11p)</p> <p>16.4.1 医学部新カリキュラムを新入生だけではなく在学生にも実施。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チュートリアル(少人数による問題解決型教育)増加。2. 医学教育モデル コア・カリキュラムをカバー。全国医学部へ導入される共用試験に対応(臨床医学講義を統合型へ移行)。3. 修業年限一前期3年、後期1年→2年、前期4年、中期2年、後期2年とし、進級判定は、前期終了後2年次年末と中期終了後の4年次年末に実施。 <p>(教務課提供資料)</p> <p>16.2.23 院内PHSシステム導入。個々の医師に対し学内外を問わず24時間体制で連絡が可能とする。外線・内線兼用。(『学報』第94号30p)</p> <p>平成15年度、帰属収入約281億円、医療収入70.28%。(『三十年史 通史』319p)</p> <p>16.4.1 附属病院規程の一部改正(外科講座専攻分野中の「総合診療科」廃止)。(『学報』第94号53p)</p> <p>リハビリテーション科(15.4.1設置)、診療開始。(『三十年史 通史』415p)</p> <p>16.4.6 院内学級(ひまわり学級)(長久手小学校分校)開所式举行。(『学報』第94号28p)</p> <p>16.5.1 病後臨床研修の義務化に伴い、「附属病院臨床研修医の服務、待遇等に関する規程」制定。(『学報』第94号53p)</p>	<p>22p)</p>
S. 132				年 表 S. 133

国内外事情・医学（療）行政		学校法人（行政・組織）
		16.8.1 宮崎徳子、看護学部成人看護学教授に就任。（『学報』第96号34p）
		16.9.1 長谷川高明、薬剤部教授に就任。（『学報』第96号34p）
		16.10.1 塩見利明、睡眠医療センター教授に昇任。（『学報』第96号34p） 大学院医学研究科の教育・研究上の基本組織等に関する規程の一部改正（『睡眠医療センター』付加）。（『学報』第97号27p）
16. アクセル（米）、バック（米）、嗅覚受容体および嗅覚システムの組織化の発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。（Nobelprize.org）	平成17（2005）年	17.1.1 副学長規程の一部改正（副学長2名、1名は医学部長が兼務、他の1名は経営改革推進室長）。
		大学敷地（広義）、隣接道路内、全面禁煙実施。（『学報』第97号8、26p）
		17.1.17 加藤延夫理事長、人院医療費包括評価制度等による医療環境の変化に適応すべく、経営改革推進室設置提案。（16『講議会』第9回）

S. 134

建設・整備	教 育	診 療
		16.8.31 総合診療内科廃止。（『三十年史 通史』41p）
		16.9.1 附属病院規程の一部改正（授業科目「総合医学」の設置）。（『学報』第96号27p）
		16.10.1 外医師による指導体制充実を図る目的で、「医学部臨床教授等に関する規程」等制定。（『学報』第96号27p）
		大学院学則の一部改正（医学研究科授業科目に「睡眠医学」新設）。（『学報』第97号26p）
		16.10.30~11.1 第31回医大祭、テーマ“BARRIER FREE”、模擬店、テニス・ペニー・サッカー・ソフトボーラ大会、ラグビー、講演（南潤明宏大和岐阜病院心臓外科部長「医療の真実と名医の条件」）、病院コサート（西みは、アンサンブル同好会ほか）。（第31回医大祭パンフ）
		16.11.1 「附属病院の理念と基本方針」等、制定。基本方針1. 人間性を尊重した患者中心の医療提供。2. 恵いやりと温もりのある医療への育成。3. 高度先端医療の開発と推進。4. 災害・救急医療の積極的な取り組み。5. 地域医療機関との連携構築。（『学報』第97号12p）
		16.11.1 附属病院医療情報システム利用規程等のAMUSE関係規則整備。（『学報』第96号28p）
		附属病院薬剤部規程、附属病院看護部規程の制定。（『学報』第97号27p）
		16.12.1 附属病院医療情報システム運用規程の制定。（『学報』第97号27p）
		17.1.1 「平成16年度 地域医療連携ガイドブック」刊行。この時点での本地域医療連携室への登録医1,600名（医科1,200名、歯科400名）。（同『ガイドブック』）
		17.1.14 外来自動精算機、待合いスペースに新設、一挙に5台稼働。患者の待ち時間、劇的に短縮。（『学報』第97号14p）
		17.1月 「平成16年度 地域医療連携ガイドブック」刊行。この時点での本地域医療連携室への登録医1,600名（医科1,200名、歯科400名）。（同『ガイドブック』）
		17.1.14 外来自動精算機、待合いスペースに新設、一挙に5台稼働。患者の待ち時間、劇的に短縮。（『学報』第97号14p）

年 表 S. 135

国内外事情・医学（療）行政		学校法人（行政・組織）
		17.2.1 経営改革推進室設置要項制定、同室発足。担当は佐藤啓二副学長（16年度内のみ附属病院院長兼務）。（『三十年史 通史』430~431p）
17.3.26~9.25 長久手町旧愛知青少年公園を主会場として、「自然の叡智」を主題に日本国際博覧会（『愛・地球博』）開催。名古屋市地下鉄終点「藤が丘」駅から会場に向かって、高架鉄道リニアモーターカー（リニモ）敷設。（『三十年史 通史』445、448p）		17.3.31 佐藤啓二附属病院長退任。（企画調査課提供資料）
開催期間185日間、国内外から22千万人余来場。「長久手誕生 100年」（68~69p）		
17.4.1 個人情報保護法の施行。（『学報』第98号38p）	平成17年度、経営改革推進業務の第一歩として、医療経営分析と改革提案を進め、実績ある三要結合研究所ほか3者に委嘱。	
17.4.1 愛知医科大学医学部附属病院を愛知医科大学病院に名称変更。（『三十年史 通史』416p）	15~16年度高水準の医療提供のために重視的に資本投資を行ったが、さらに17年度予算案は、医療運営の競争力を高め、基盤強化を図る目的で、赤字をも厭わず積極的に予算編成。（『三十年史 通史』431~433p）	
17.4.1 愛知医科大学医学部附属病院を愛知医科大学病院に名称変更。（『三十年史 通史』416p）	特任教員に関する規程の一部改正。（『三十年史 通史』413p）	
17.4.1 愛知医科大学医学部附属病院を愛知医科大学病院に名称変更。（『三十年史 通史』416p）	太田敬教授、病院長に就任。仁田正和教授、運動療育センター長に就任。	
17.4.1 愛知医科大学医学部附属病院を愛知医科大学病院に名称変更。（『三十年史 通史』416p）	黒岩正明、事務局長に昇任。（『学報』第98号40p）	
17.4.1 愛知医科大学医学部附属病院を愛知医科大学病院に名称変更。（『三十年史 通史』416p）	看護休暇に関する規程制定。個人情報保護方針、個人情報保護に関する規程制定。（『学報』第98号8、11、36p）	
17.4.28 医学部特任教員選考規程の一部改正。（『三十年史 通史』415p）		
17.5.1 若槻明彦、産婦人科学講座教授に就任。（『学報』第99号39p）		
17.7.9 「愛・地球博」会場から「地球平和に向けた愛知アピール」発信、（「地球平和フォーラム愛知」代表者加藤延夫）。（加藤延夫「続 世纪のはざまにて」下 342p）	17.7.12 看護学部教員選考規程の一部改正（教員選考基準の制定、教員選考規程の一部改正）。（『学報』第100号28p）	
17.9月 創造科学技術推進事業（ERATO）終了。ERATO誘致の歴史的意		

建設・整備	教 育	診 療
		17.3.25~31 第57回西日本医学生総合体育大会冬季大会において、永田亜矢子（医学部4年次生）が回転第1位、大回転第1位、及びスーパー大回転第3位。（『学報』第99号15p）
		17.3.25~9.25 日本国際博覧会（『愛・地球博』）開催中、救急医療体制構築に当たり、本院救命救急科主導、救急専門医常駐。AED実施例5例、内4名健康新規回復、社会復帰。（『学報』第101号12p）
		平成17年度、脳血管撮影検査等で高精度画像が得られる15テスラMRI装置「MAGNETOM Avanto」（シーメンス社）を3台導入。（『学報』第98号25p）
		平成16年度、帰属収入約270億円、医療収入比70.07%。（『学報』第99号6p）
		17.7.1 内視鏡センター開設。（『学報』第100号12p）
		17.7.1 病院規程の一部改正（中央診療部に内視鏡センター設置、内視鏡センター規程制定）。（『学報』第99号37p）
		17.8.1 尾張旭市公共交通（ジャンボタクシー）が同市役所から本学（本院）へ向けてビストン運行開始。（『学報』第99号26p）

年 表 S. 137

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療
	<p>義を踏まえ、以後、研究支援センターを指向することとなる（194.1「先端医学医療研究拠点」設置）。（『三十年史 通史』436～437p）</p> <p>17.9.1 事務組織規程改正（事務組織を事務局に統合、監査室、経営改革推進事務室、研究支援室の設置等）。（『学報』第100号28p）</p> <p>17.10.17 愛知医科大学行動指針（改定案）決定。「社会から評価され、選ばれる医科大学」を基本方針とし、改善の重点を次の3項目とした。選ばれる医科大学活動により、地域社会との連携強化、貢献。「安心・親切・快適」を信条に満足度の高いサービス提供。「自主自立・向上・協調」精神により職員は自己実現。（常任理事会）</p> <p>17.12.12 大学院学位規程の一部改正（看護学研究科の設置に伴い、同研究科の学位規程整備）。（『学報』第102号47p）</p>			<p>17.10.10 日本医療機能評価機構、本院を認定病院として登録。（『学報』第101号11p）</p> 
平成18（2006）年 総理 安倍晋三（平18.9.26～）			<p>18.1.15 大学本館前の駐輪場を増設工事完了。総台数89台。（『学報』第101号15p）</p>	
	<p>18.3.31 『愛知医科大学三十年史 通史』刊行。（『愛知医科大学三十年史 通史』）</p> <p>加藤延夫理事長・学長・学長を退任。（『学報』第102号10p）</p>	<p>18.3.24～30 第58回西日本医学生総合体育大会冬季大会で、医学部第5年生の永田亜矢子は、女子回転、大回転共に第1位、スノーバー大回転第2位。永田は平成16年度以来3年連続入賞。（『学報』第103号13p）</p> <p>医師国家試験合格率、平成12～17年度6年間の平均、受験者全休83%、新卒93%、ストレート（無留年）新卒97%。（『三十年史 通史』420p）</p>	<p>18.3.1 中央診療部に生殖・周産期母子医療センター設置。同センター規程制定。（『学報』第101号26p）</p> <p>18.3.27 本学スクールバス、低床化、ボディデザイン変更。（『学報』第102号37p）</p> <p>平成17年度末、1日平均外来患者数1941.02人。平成元年度1,272.8人より52.5%増。新入院患者数は7.6%増、ただし1日平均入院患者数は漸減、入院患者の平均在院日数短縮傾向を示す。（『三十年史 通史』429p）</p> <p>平成17年度、帰属収入約279億円、医療収入70.3%。（『学報』第103号6p）</p>	
	<p>18.4.1 稲福繁教授、学長に就任。石川直久教授、医学部長に、土井まつ子教授、看護学部長に就任。岡田忠教授、医学情報センター長に就任。普天間新生教授（特任）、メディカルクリニック長に就任。石口恒男教授、核医学センター長に就任。松原昌樹教授、医学部学生部長に就任。</p>	<p>18.4.1 看護学部臨床教授等に関する規程等制定（学外医療保健施設の看護師等に対する、臨床教育等の称号を授与、臨地実習及び指導体制の充実を図る）。（『学報』第102号47p）</p>		<p>18.4.1 病院規程・メディカルクリニック規程制定（リウマチ科を「リウマチ科」に改称）。（『学報』第101号26p）</p>
S.138				年 表 S.139

国内外事情・医学（療）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教 育	診 療
	<p>（『学報』第102号11～15p）</p> <p>細川好孝、生化学講座教授に就任。高安正和、脳神経外科学講座教授に就任。山村昌弘、リウマチ科教授に就任。横尾和久、形成外科教授に昇任。本庄宏司、整形外科学講座教授（特任）に昇任。戸下廣光、産婦人科学講座教授（特任）に昇任。二村真貴、生殖・周産期母子医療センター教授（特任）就任。森下宗彦、メディカルクリニック教授（特任）に昇任。衣斐達、看護学部病態治療学教授に昇任・配置換え。八島妙子、看護学部老年看護学教授に昇任。松原昌樹教授、医学部学生部長に就任。</p>			<p>平成18年度から病院における後期研修（シニアレジデンツ）制度の導入に伴い、助手（専修医）規程制定。（『学報』第102号48p）</p> <p>18.4.18 本院、北京積水潭医院と病院間協定を締結。協定式には本学からは稻福学長以下6名、積水潭医院からは田院長以下4名出席。（『学報』第102号22p）</p>
	<p>18.5.1 磯部文隆、外科学講座（心臓外科学）教授に就任。（『学報』第103号30p）</p> <p>18.5.22 新病院建設本部設置要項を制定。基本構想の立案、現病院の経営改革などを行うため、同要項制定とともに新病院建設本部、及び新病院建設委員会を設置。（『学報』第103号28p）</p> <p>18.6.1 福富隆志、外科学講座（乳腺・内分泌外科学）教授に就任。（『学報』第103号30p）</p>			<p>18.5.23 フロア「HIBIYA-KADAN STYLE」開店。（『学報』第103号17p）</p>
	<p>18.10.1 「医学教育センターの部門の組織等について」医学部長裁定。（18『教議』第10回）</p> <p>医学部の学科目及び講座に関する規程の一部改正（臨床検査医学講座廃止）。（『学報』第104号29p）</p> <p>18.10.16 福澤嘉孝、医学教育センター教授（特任）に昇任。（『学報』第105号31p）</p> <p>18.11.7 加藤延夫理事長、教育・大学改革への尽力、細菌学等研究の優れた功績により、18年秋の叙勲にて瑞宝大綬章を受章、皇居正殿において親授式執行。（『学報』第105号8p）</p>	<p>18.7.23～8.14 第58回西日本医学生総合体育大会、主管校名古屋市立大学。愛知県下会場で举行。本学、陸上3種目、水泳6種目で上位入賞。（『学報』第104号8p）</p>	<p>18.7.1 地域医療連携室を改組、医療連携・退院支援、在宅医療を推進するため、副院長をセンター長とする「医療連携センター」設置。医療連携センター規程制定。</p> <p>歯科・口腔外科の診療科名を「歯科口腔外科」と改称。</p> <p>中央診療部に栄養部を設置。栄養部規程制定。（『学報』第103号14、28p）</p>	
S.140				年 表 S.141

国内外事情・医学（癡）行政	学校法人（行政・組織）	建設・整備	教育	診療
18. ファイアーノ・メロー（米）、RNA干渉の発見によりノーベル生理学・医学賞受賞。（Nobelprize.org）	19.2.1 道勇学、脳卒中センター教授（特任）に就任。牛田享宏、学際的痛みセンター教授（特任）に就任。（『学報』第105号46p）	19.3月 長久手町寅山の山久製陶所跡地に新グラウンド56,282 m ² が完成、「寅山グラウンド」と命名。なお、従来のグラウンドは「雁又グラウンド」と呼称。400mトラック（多目的）、アーチェリー、弓道、スキー・スケート練習場等々を整備。（『学報』第106号22p） 19.3.20～5.12 7階「将来スペース」を改築し、医学教育センター283.6 m ² を増設。会議・作業スペース、小会議室、専任教員室、学生相談室、事務スペース等。（『学報』第107号11p） 「将来スペース内」には本学文書室（仮称）180.58 m ² 増設（19.4.24～6.15工事）の予定。（管財課提供資料）	19.3.24～30 第59回西日本医科学学生総合体育大会冬季大会アルペンスキーカップ個人女子の部において、医学部6年次生の永田亜矢子は回転、大回転、スーパー大回転で優勝。永田は16年度以降、4年連続優勝。（『学報』第107号12p）	18.12.1 病院規程の一部改正（感染制御部規程、及び脳卒中センター規程制定）。（『学報』第104号28p） 19.3.27 高度救命救急センターに救急用医療機器を常備した新ドクターカー導入。（『学報』第106号29p） 平成18年度、帰属収入約282億円、医療収入比70.9%。（『学報』第107号6p）
平成19（2007）年	19.2.1 道勇学、脳卒中センター教授（特任）に就任。牛田享宏、学際的痛みセンター教授（特任）に就任。（『学報』第105号46p）	19.3月 長久手町寅山の山久製陶所跡地に新グラウンド56,282 m ² が完成、「寅山グラウンド」と命名。なお、従来のグラウンドは「雁又グラウンド」と呼称。400mトラック（多目的）、アーチェリー、弓道、スキー・スケート練習場等々を整備。（『学報』第106号22p） 19.3.20～5.12 7階「将来スペース」を改築し、医学教育センター283.6 m ² を増設。会議・作業スペース、小会議室、専任教員室、学生相談室、事務スペース等。（『学報』第107号11p） 「将来スペース内」には本学文書室（仮称）180.58 m ² 増設（19.4.24～6.15工事）の予定。（管財課提供資料）	19.3.24～30 第59回西日本医科学学生総合体育大会冬季大会アルペンスキーカップ個人女子の部において、医学部6年次生の永田亜矢子は回転、大回転、スーパー大回転で優勝。永田は16年度以降、4年連続優勝。（『学報』第107号12p）	18.12.1 病院規程の一部改正（感染制御部規程、及び脳卒中センター規程制定）。（『学報』第104号28p） 19.3.27 高度救命救急センターに救急用医療機器を常備した新ドクターカー導入。（『学報』第106号29p） 平成18年度、帰属収入約282億円、医療収入比70.9%。（『学報』第107号6p）

S. 142

年表 S. 143

写真集 愛知医科大学の歴史
1970～2006

編集・発行者
平成二十年三月三十一日発行

学校法人愛知医科大学

〒481-11-195 愛知県豊橋市長久手町大学吉佐字雁又二十一
TEL 052-481-1164 四八一（本校）
○五六一（大）一（三）一一一（本校）
FAX ○五六一（大）一（三）一一一（本校）
http://www.aichi-med.ac.jp